
續本江戸土産
一
120
10
84

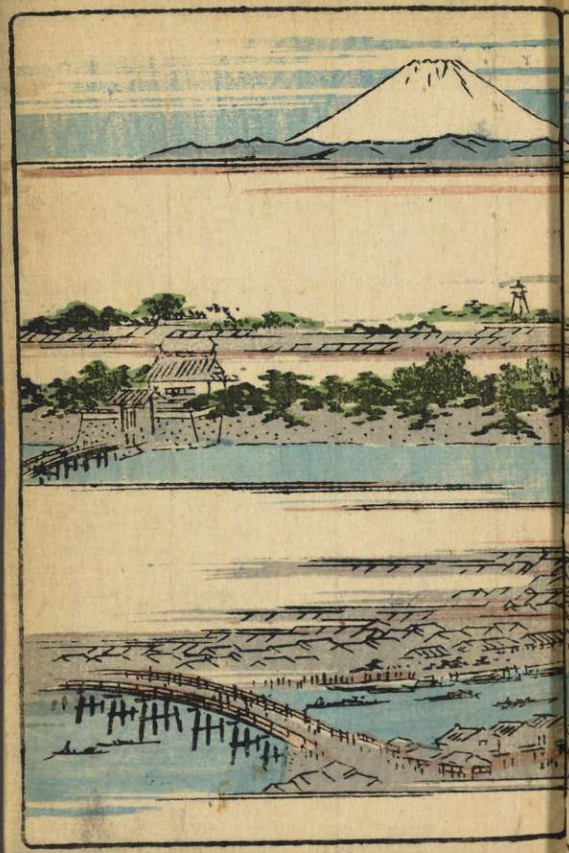
繪本江戸土産

初

120
10
84

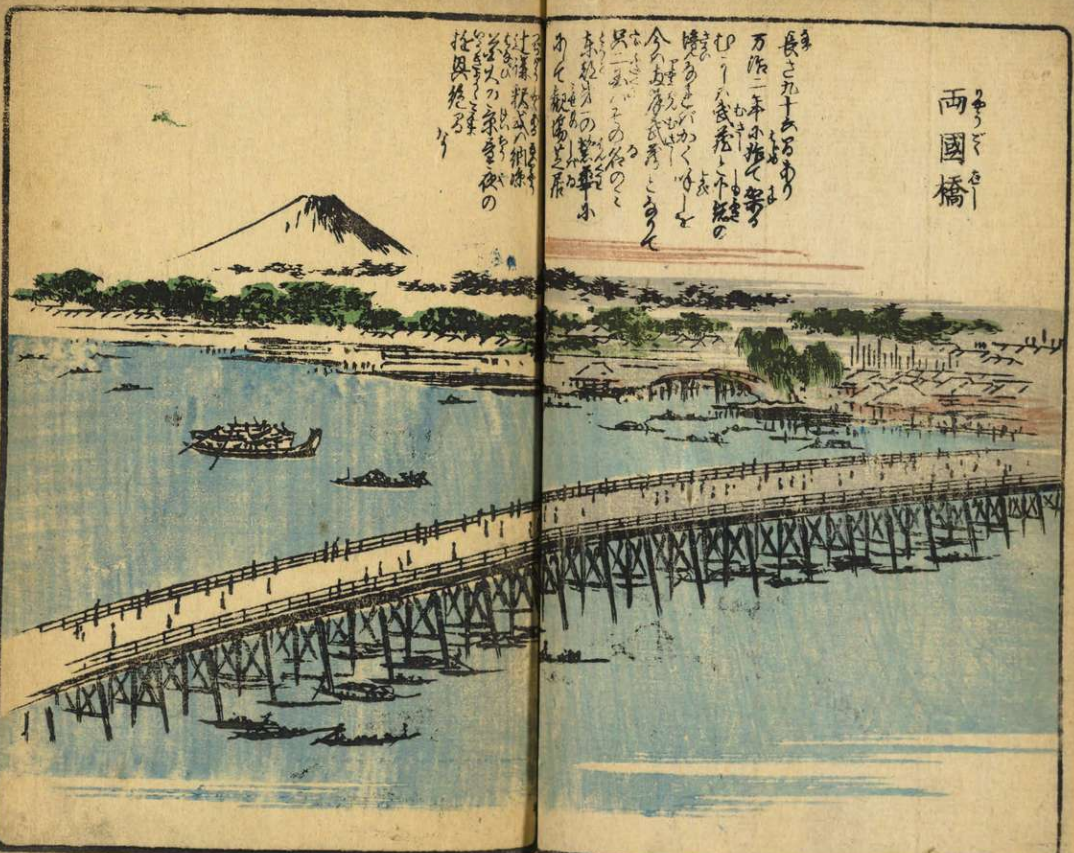



八ツ見橋の景



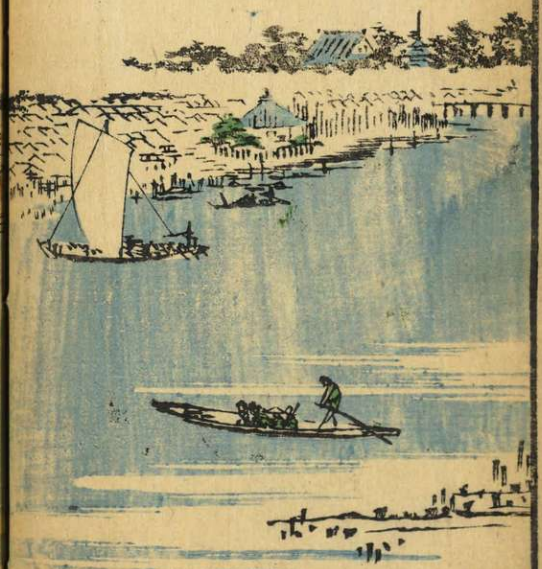
其二

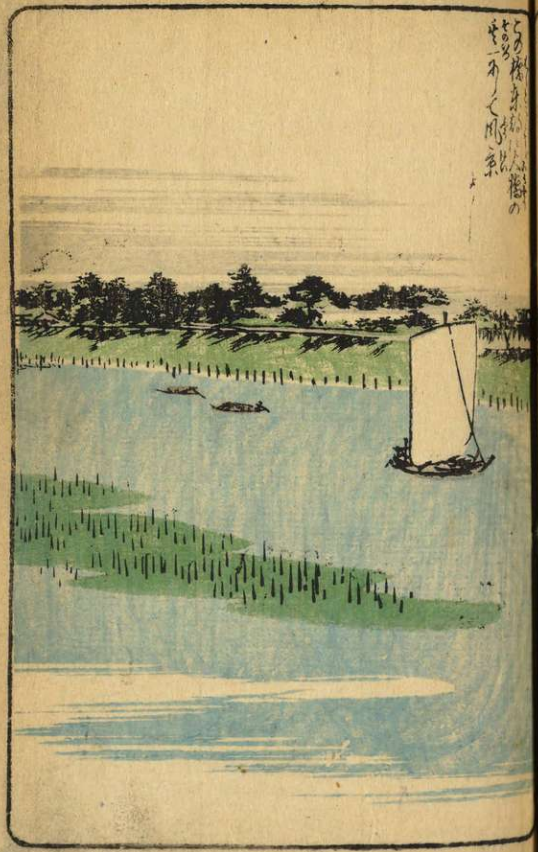
兩國橋



御厩河岸
駒形堂
金龍山
遠望



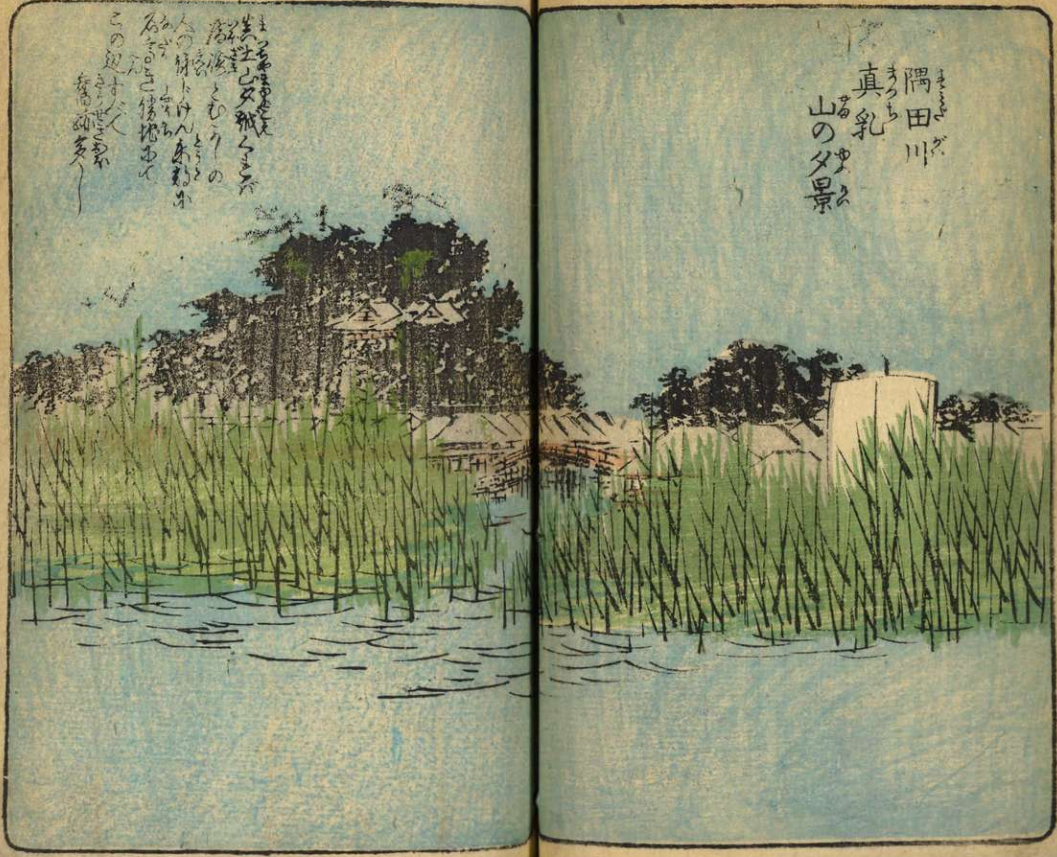




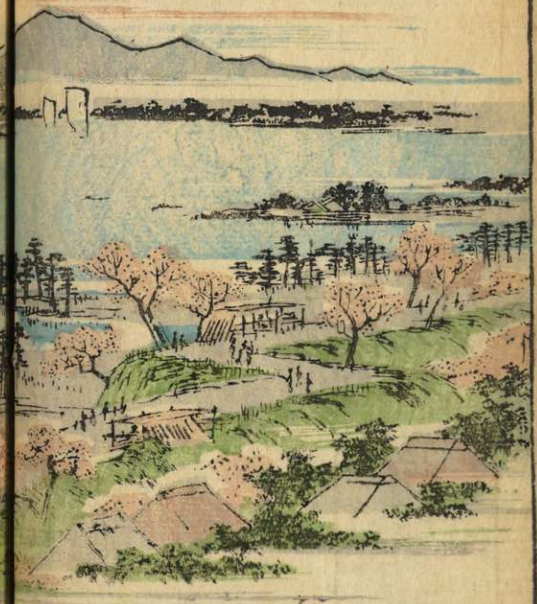


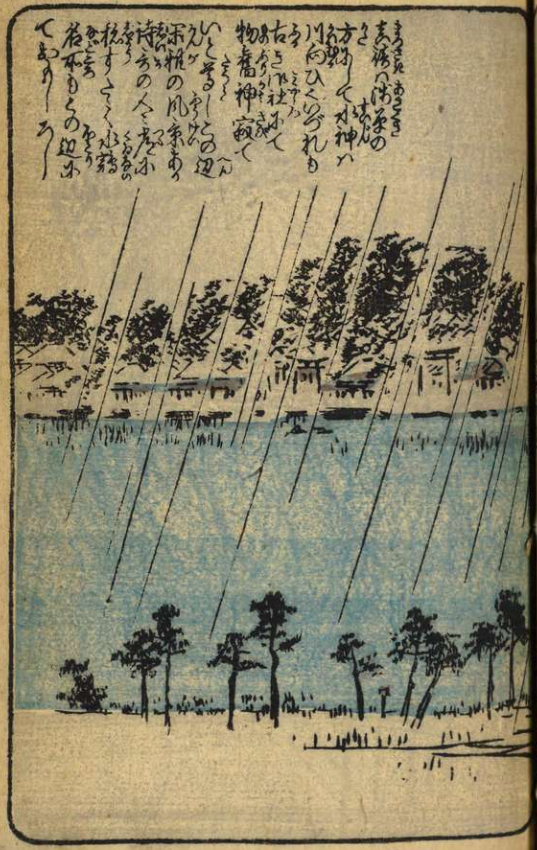
宮戸川
吾妻橋

隅田川
真乳山の夕景



隅田堤
花盛



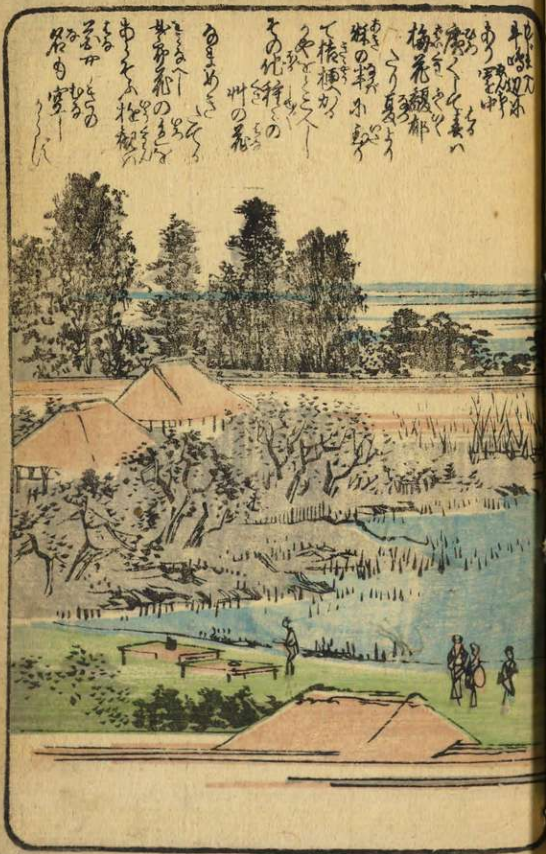



水神社森
真崎の社

木母寺
料理屋
御前栽畑
内川

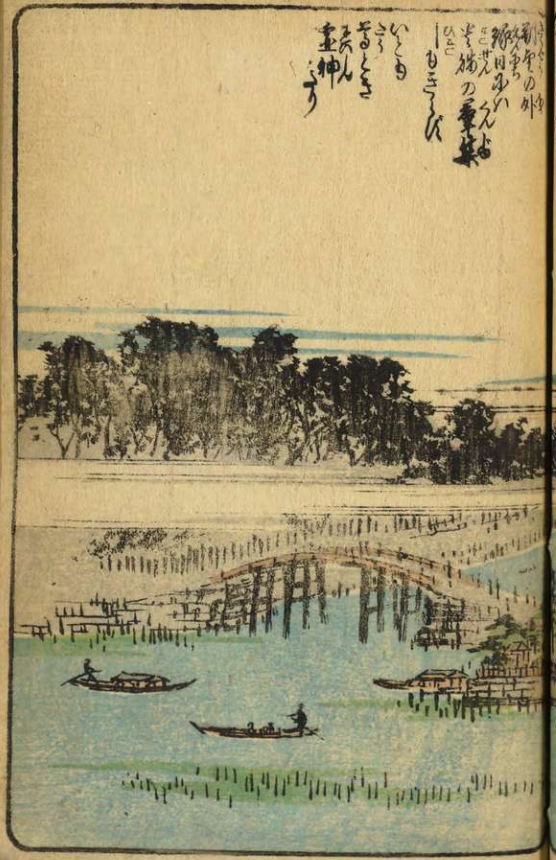




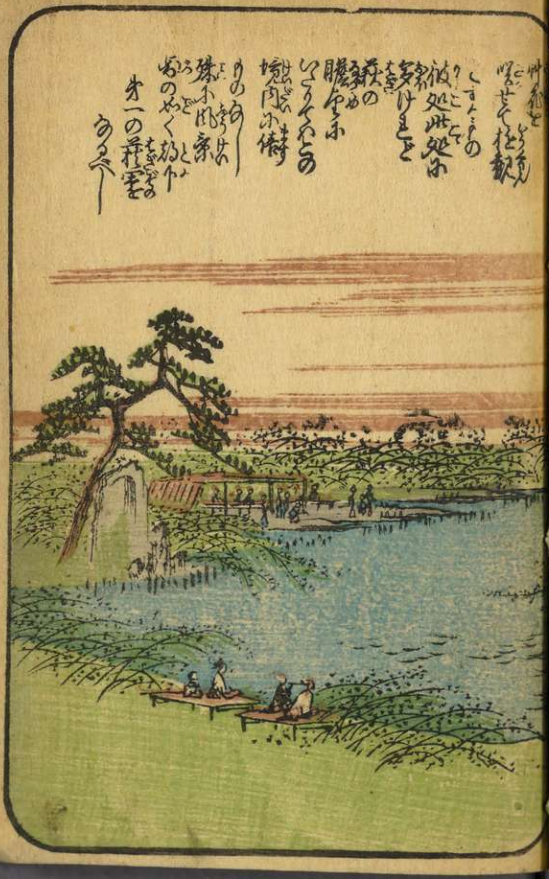



花屋敷
秋の花園

柳嶋
妙見社




押上
萩寺



あづま
吾嬬
の
杜の森









ゐど
亀戸
うめやしき
梅屋敷

梅ぼし方の茶やそこりて
清香居しと聞ら
秋の一樹霜ホ
けしとど年葉こ彩
ある景の筆の張ひハ
俤邦ふいまぐ



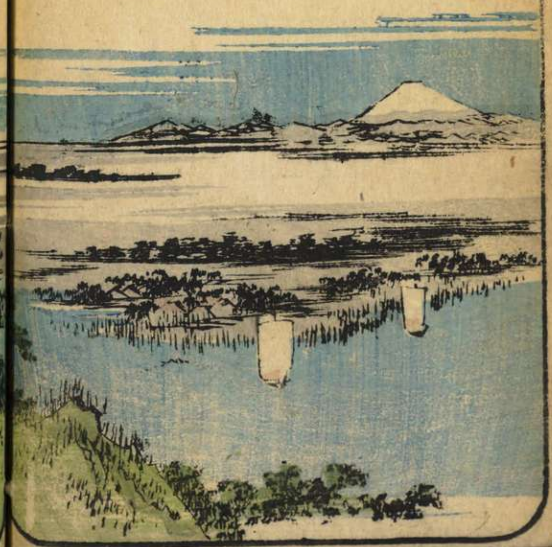



薬師堂


木下川
沙風景




逆井の渡



国府臺眺望



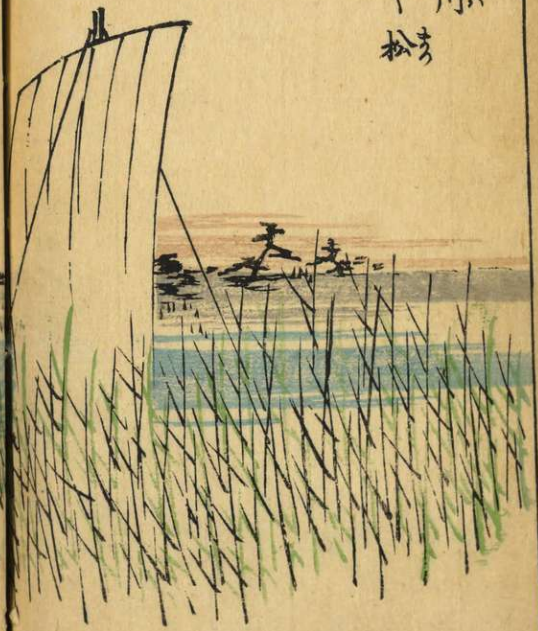

真間の紅葉
旅人こゝろを慰む


真間の継橋
手子奈の社

とねがは

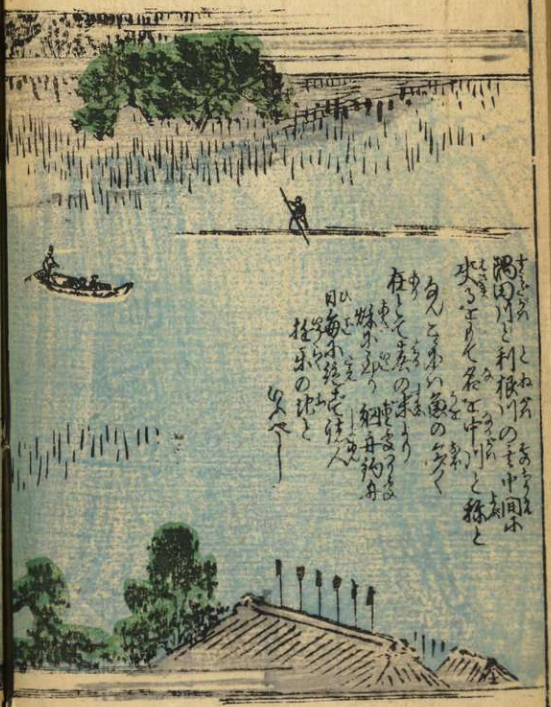
利根川

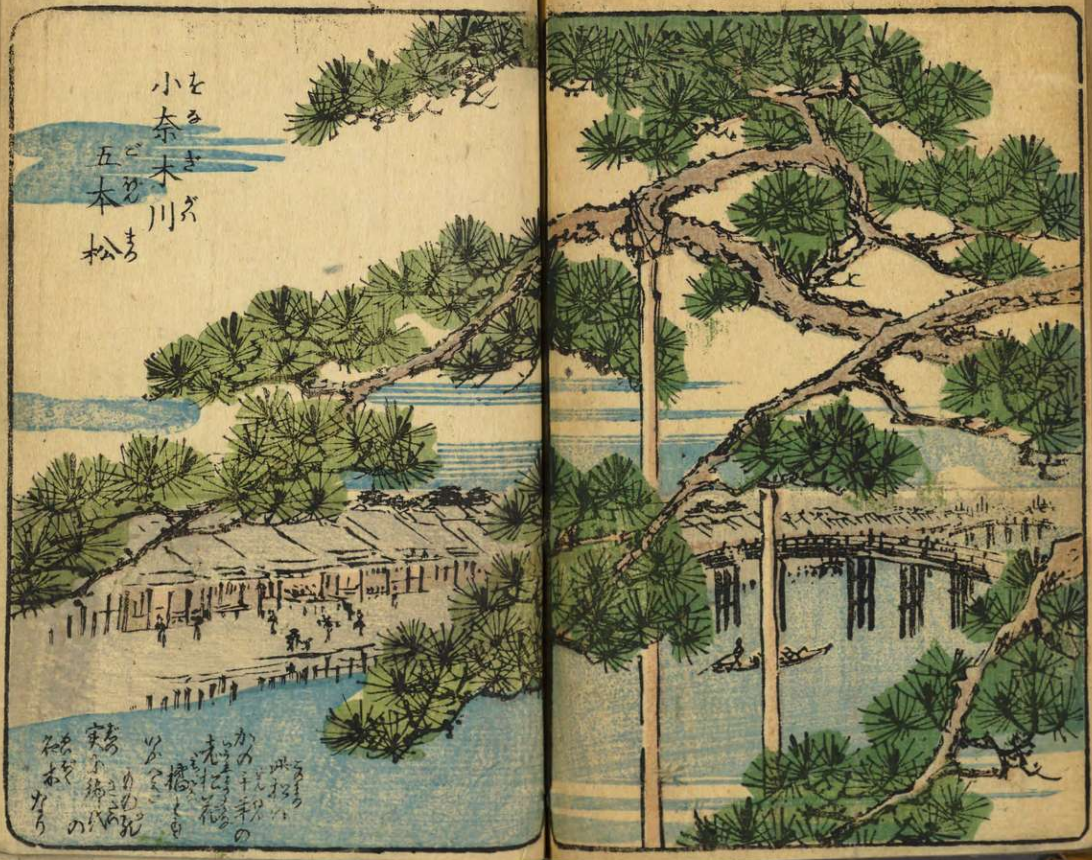
たゞ〳〵松

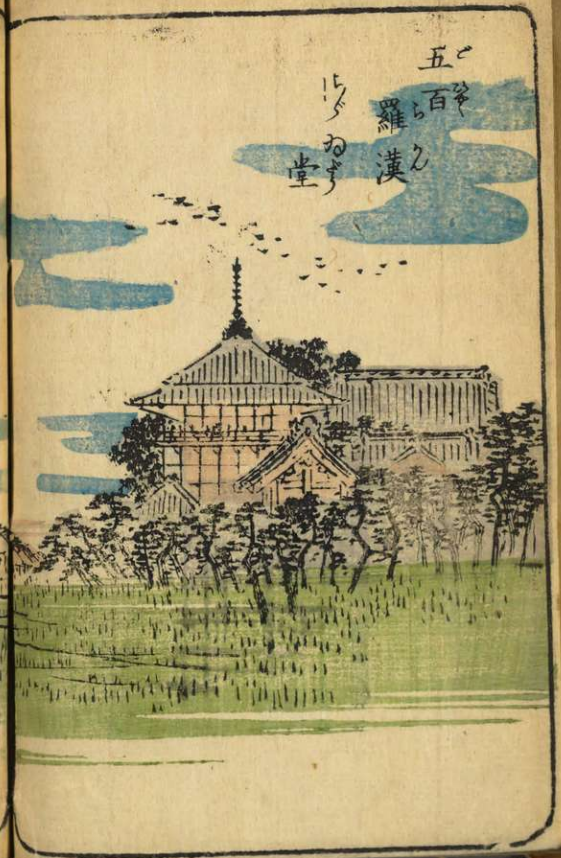









をき
小奈木川
ごかまち
五本松


五百らかん
羅漢
堂


乳菜
蓴菜
莼沙

120
10
84



120/10/84

繪本江戸土産

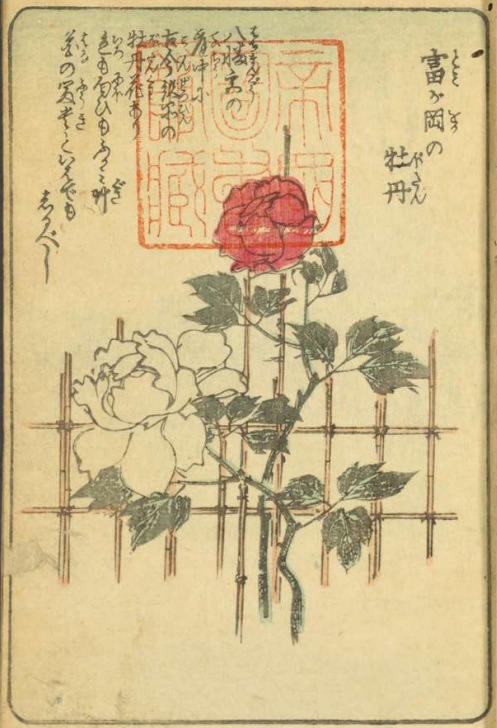
二



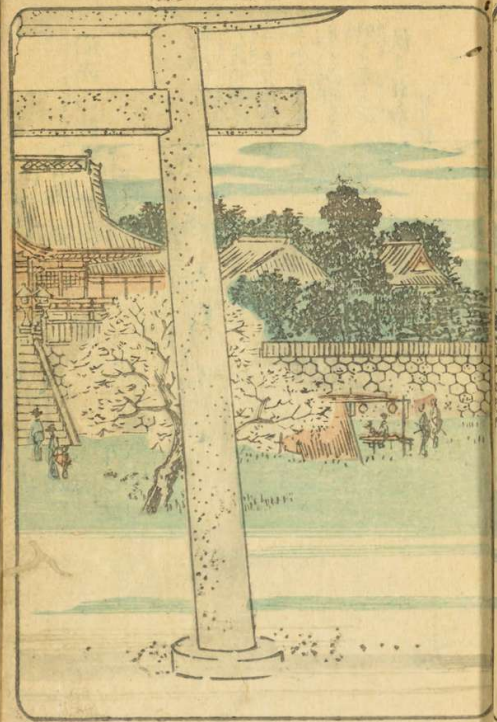
富岡八幡宮
其二







富が岡の牡丹



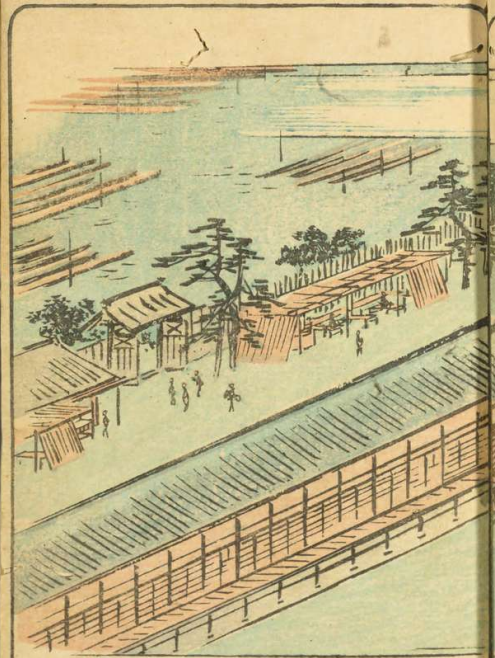
富ヶ岡八幡宮



其二

同所山間





深川三十三間堂

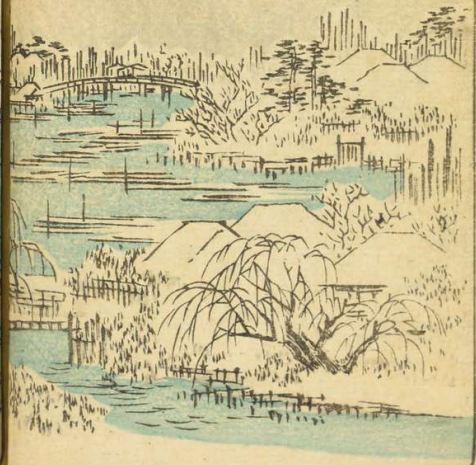
きそとせんげの運事
まねこ様を
弓矢の的を
試むると
糸のごとく
二十三間堂の

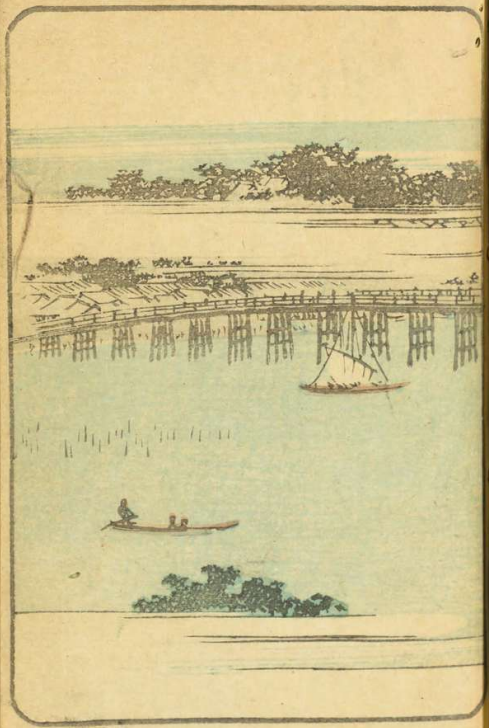


十洲嵜雅天

光秀年号
この海浜は
作らせられて
後は桜
大橋
あの
ここの
遠き
拝人

深川木場





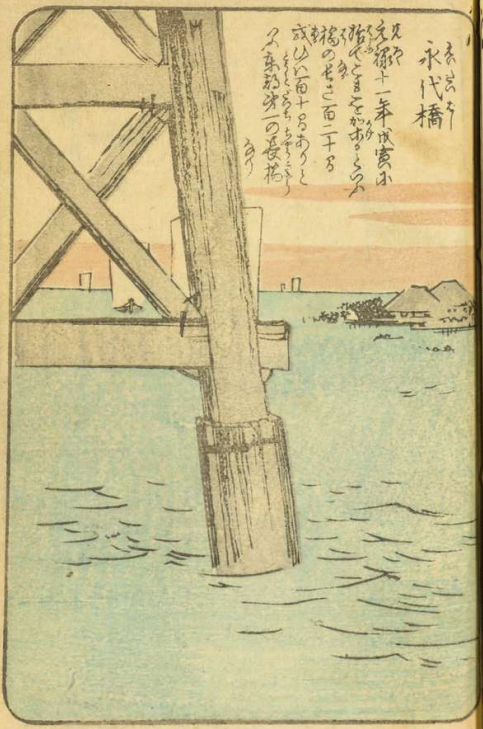
新大橋萬年橋
正木の社





中洲三ツ俣

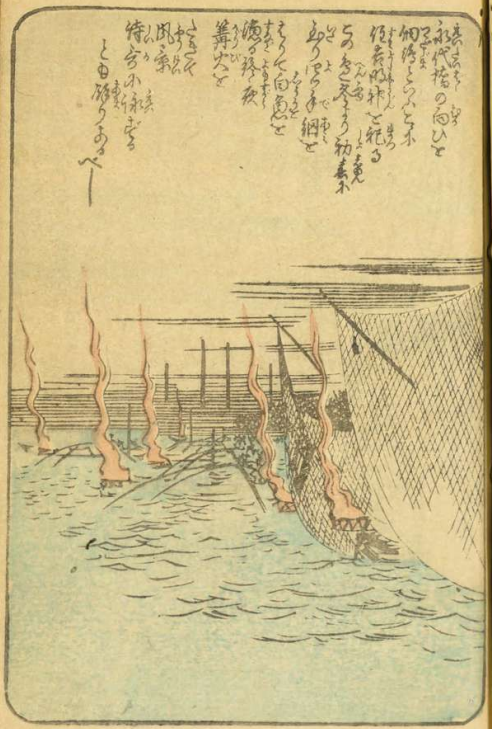




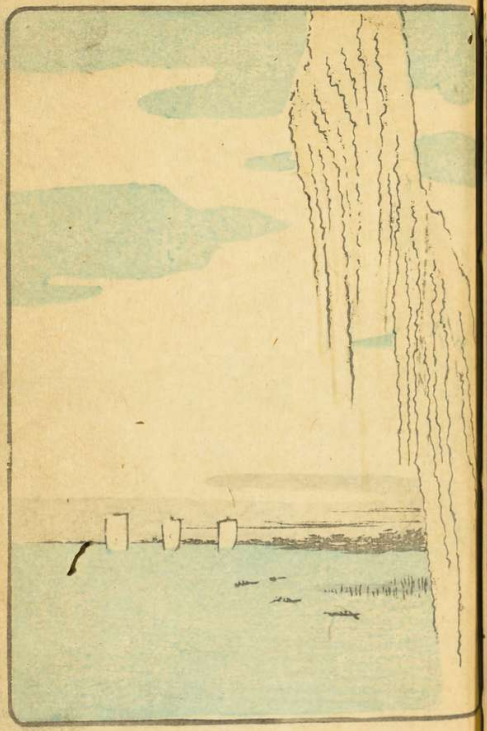
永代橋

文化四年十一年成寅ヨリ
架ケ初メ長サ百二十間
橋ノ巾三十間アリ
成ル所百十間アリ
又新規第一ノ長橋

一佃白魚網夜景

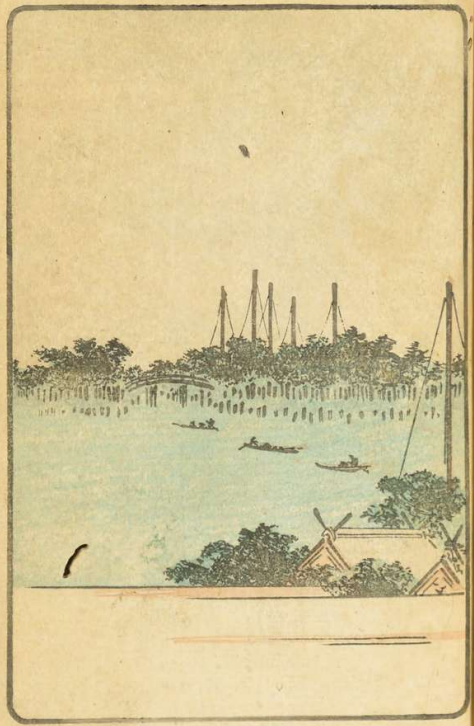


永代橋の白ひを
加減よくやき
住吉祭礼
うちそろふ初春ホ
ふりつもる網ど
くらくて白魚と
徳ある秋夜
舞ひど
風雲
待つ小舟ども
と白酒うるべー



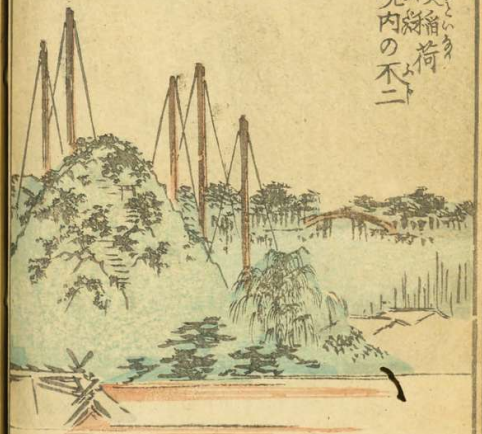
同所狼煙山上の図





鉄炮洲湊稲荷境内の不二

この稲荷いと古くて縁起も年歴詳ならず
その境内より富士を遥拝するによろしき所なり

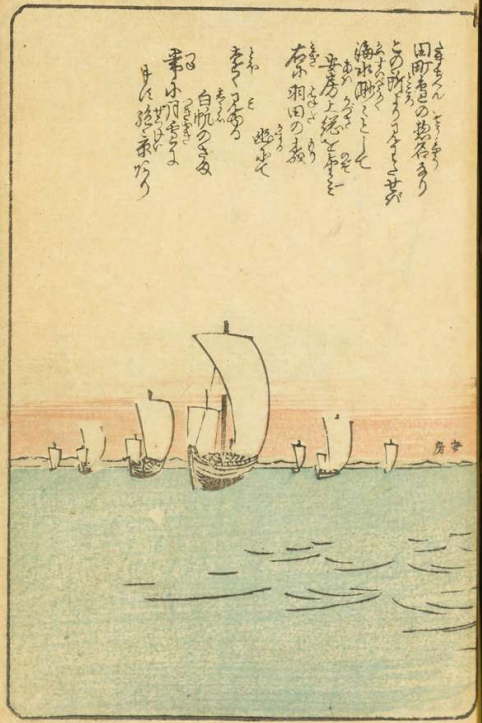





築地
御門


其二



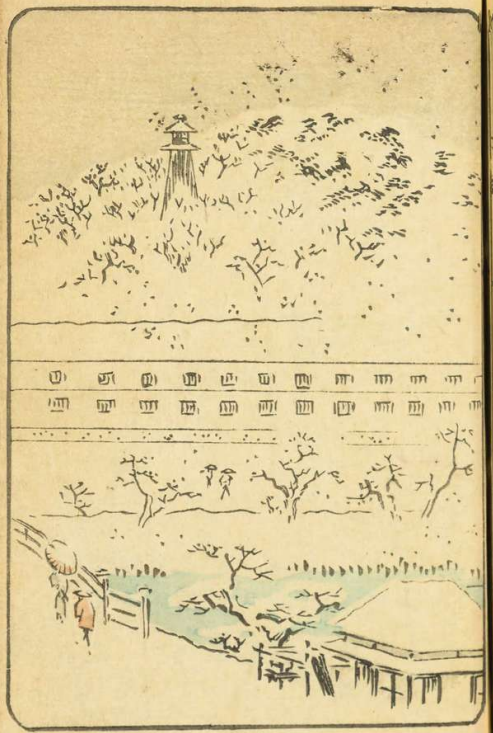


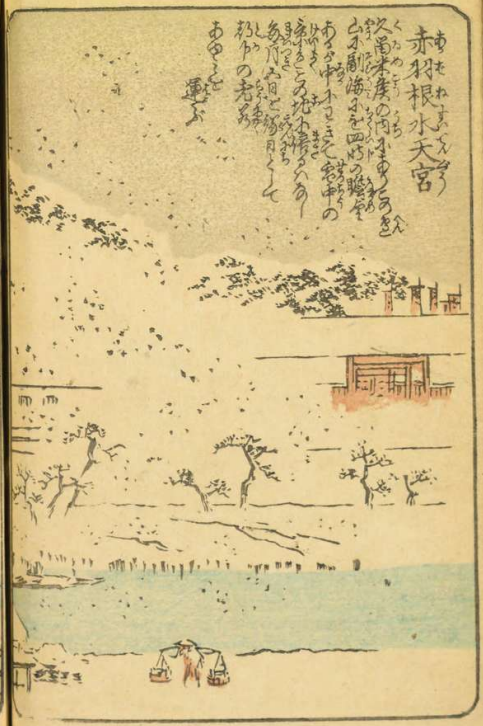
芝浦



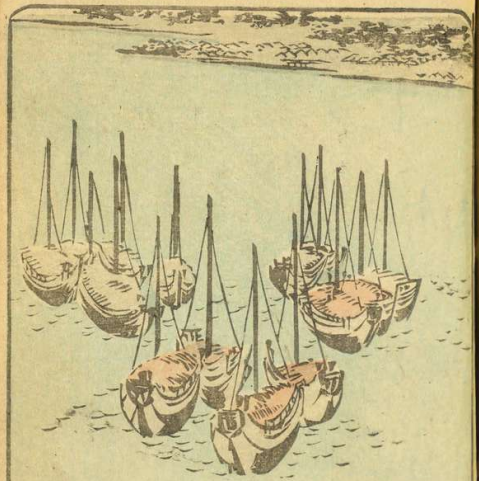
其二





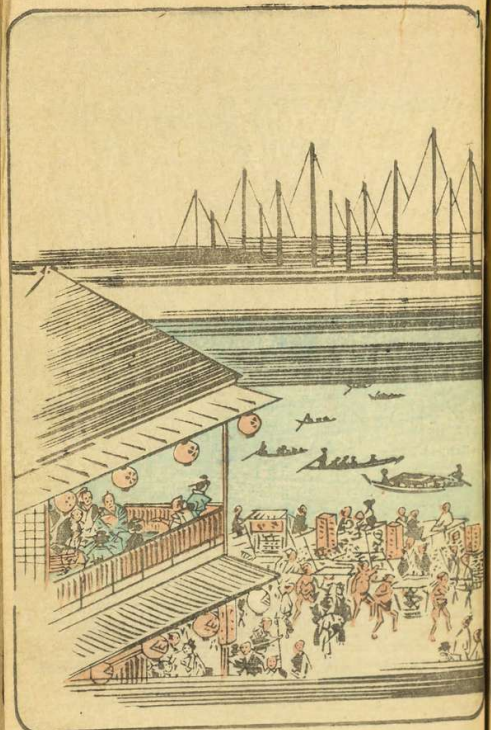


赤羽根水天宮

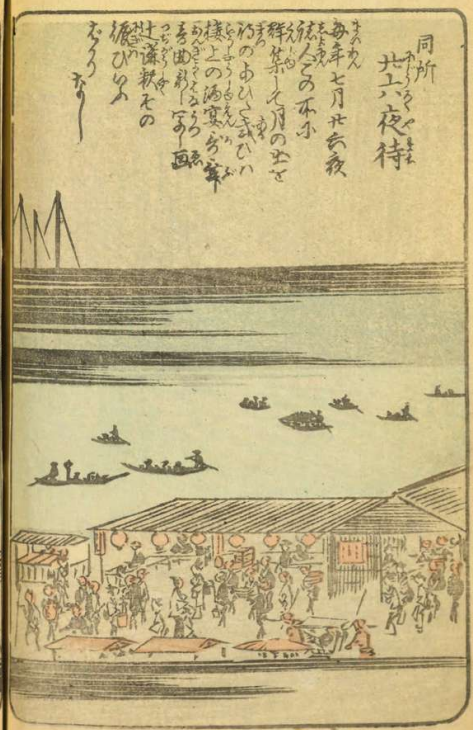


高輪の光景

田町より
お川端の入口まで
すべて見渡しの海と
海上の船
並に
芝浦ホ



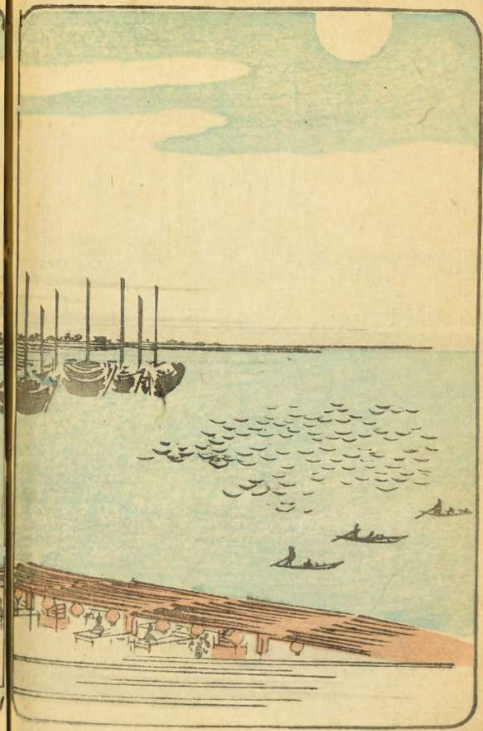
同所
廿六夜待



司馬江月の岬

この本小糸山
東南の海面ふ
まそ一万里の
波間の時と
さえぎる雲東
中秋の月の
本の眺めを
最も一つ
月の岬の名も
空一つ

八ノ山



御殿山の花盛



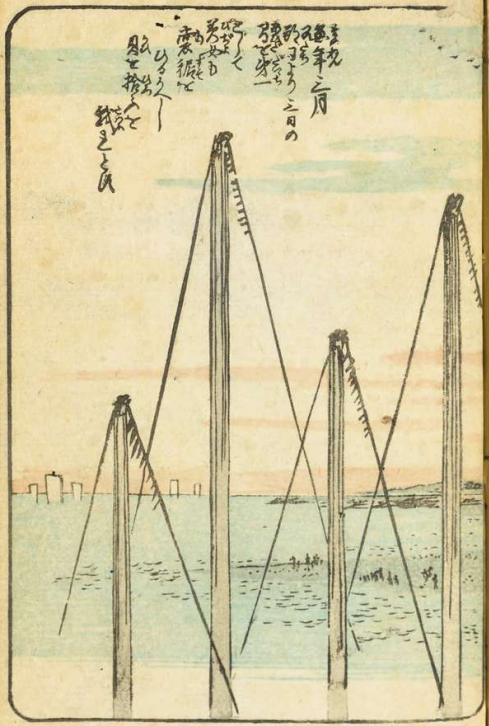
其二



品川海晏寺の紅楓

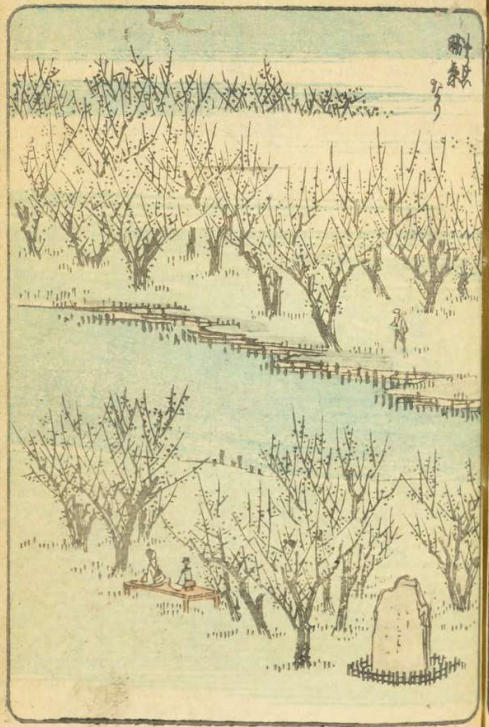









南品川
鈴ヶ森
大森




蒲田の梅園

東都書林

日本橋通二丁目　小林新兵衛
芝神明前　岡田屋嘉七
同　九屋甚八
日本橋通二丁目　九屋鉄次郎
同四日市　和泉屋半兵衛
麹町五丁目　殘辺屋太郎兵衛
同十三丁目　中屋銀次郎
飯倉五丁目　大和屋作次郎
浅草新屋橋　玉水屋清九郎
同駒形町　山城屋清八
箱崎町　竹内伊助
馬喰町二丁目　菊屋幸三郎



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

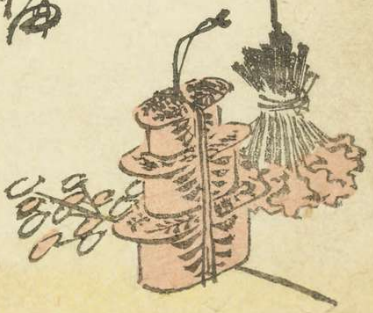


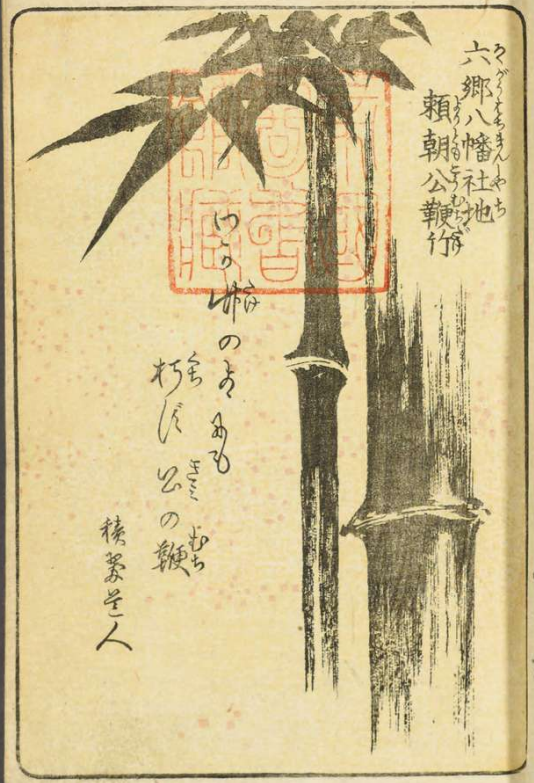
繪本江戸土産

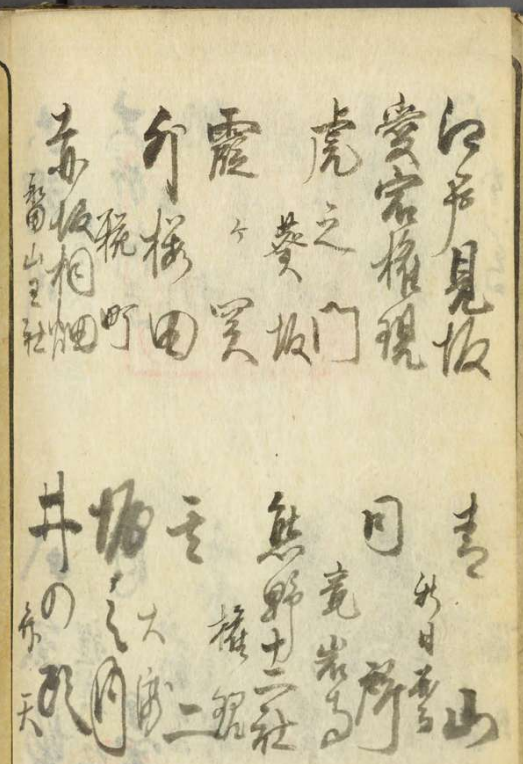
三

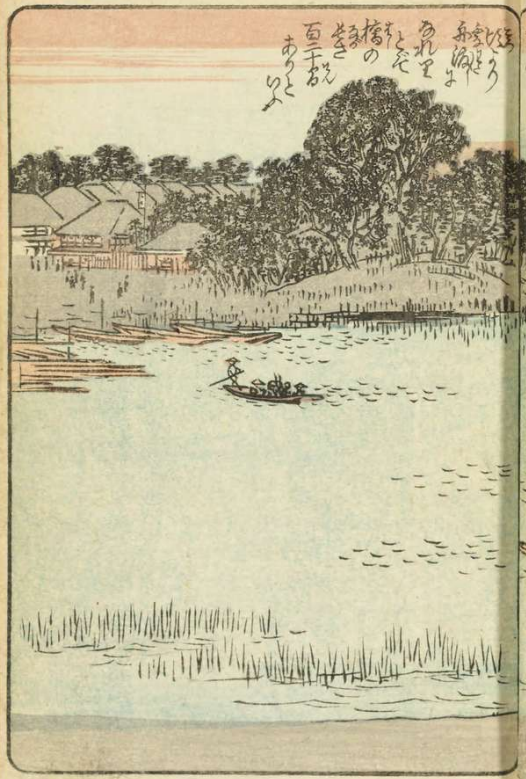
120
10
811

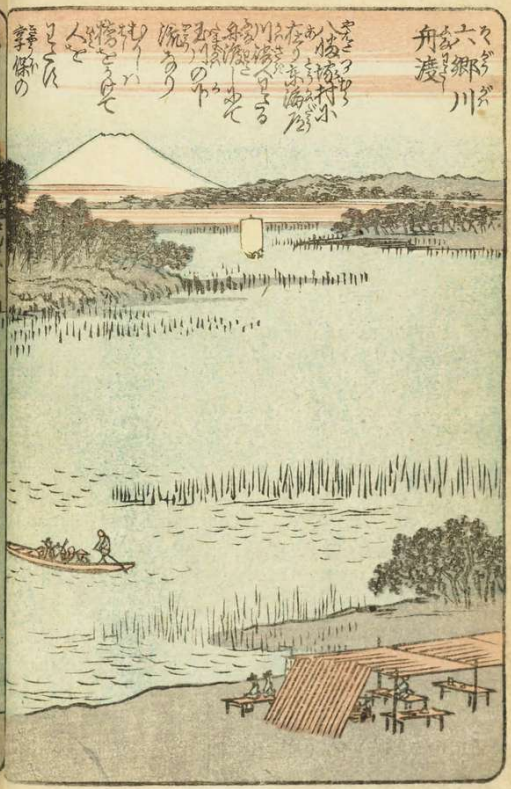
會本江名土產 三編




六郷八幡社地
頼朝公鞭竹
いつの世のあるも
かぐしの鞭
模寫芝人


曽我
兄弟
虎之門
富士の裾野
大磯
井の水



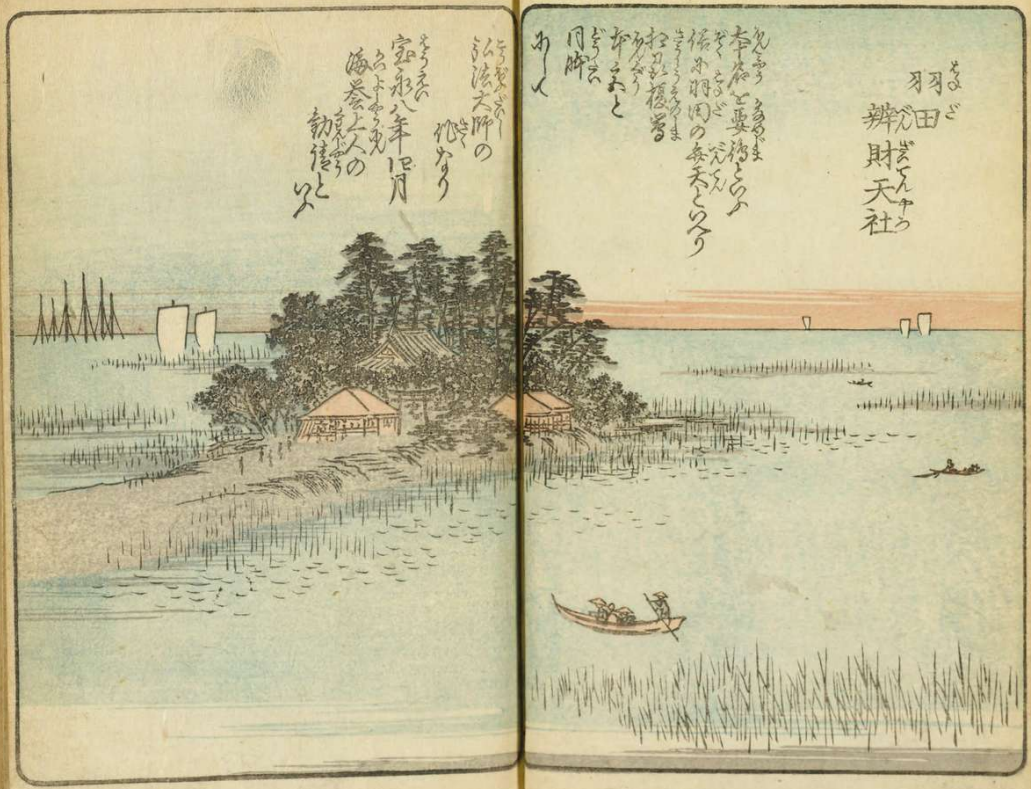




大師幸る崎浦
ようようのよ
海中出現の
像と化除
大師と称し
仁和九月廿二日
入定年齢多
歳不二月
廿一日と
仏教
くって辞
去しぞ



金剛山平間寺
大師河原
平間寺

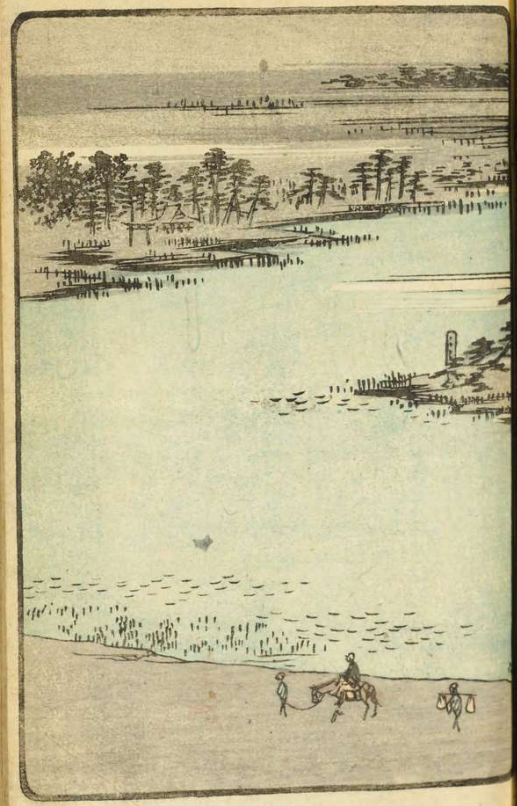




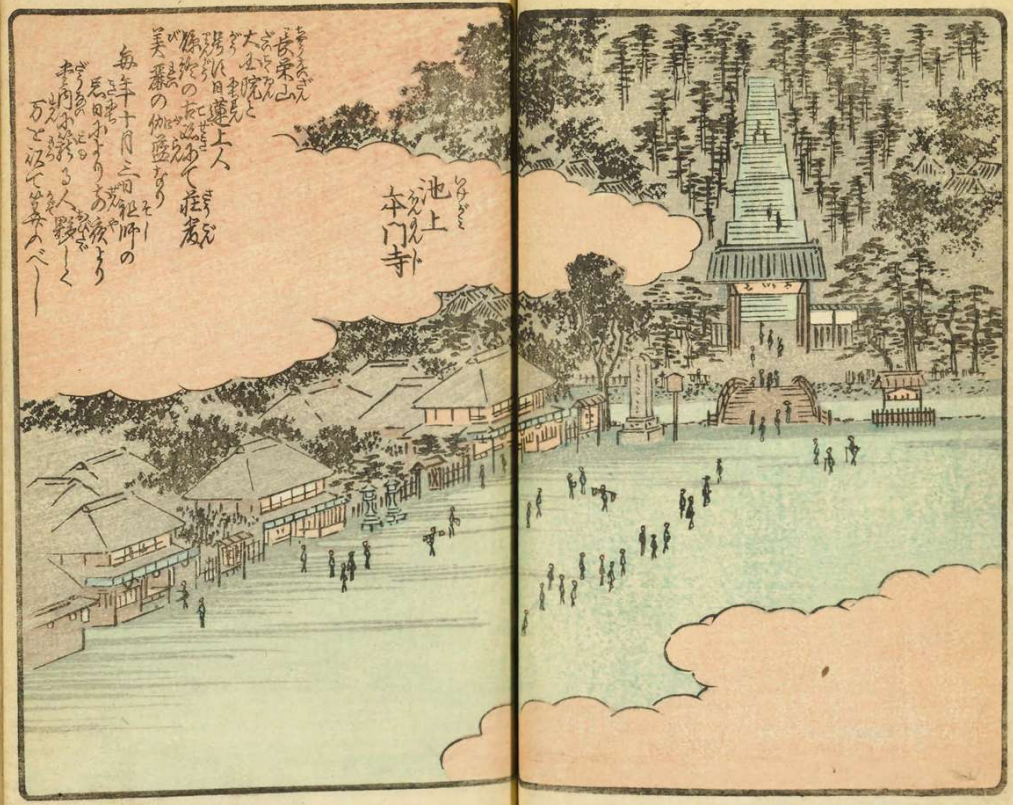


新田
明神社

矢口村小祠あり
祭田若干を寄附す
矢口の渡しあり
その景勝をもて
あまねく称す
もとの向かふ
祀りそこなりを
十楼の社と
いふ




千束池
袈裟掛松


池上本門寺
長栄山大坊本行院と号し日蓮上人入滅の霊場にして往古より美景の地なり
毎年十月十三日祖師の忌日おかまりの夜より参詣の人数多く万灯を供養あるべし



八景坂辺の松ハ皆
のそ松とせり

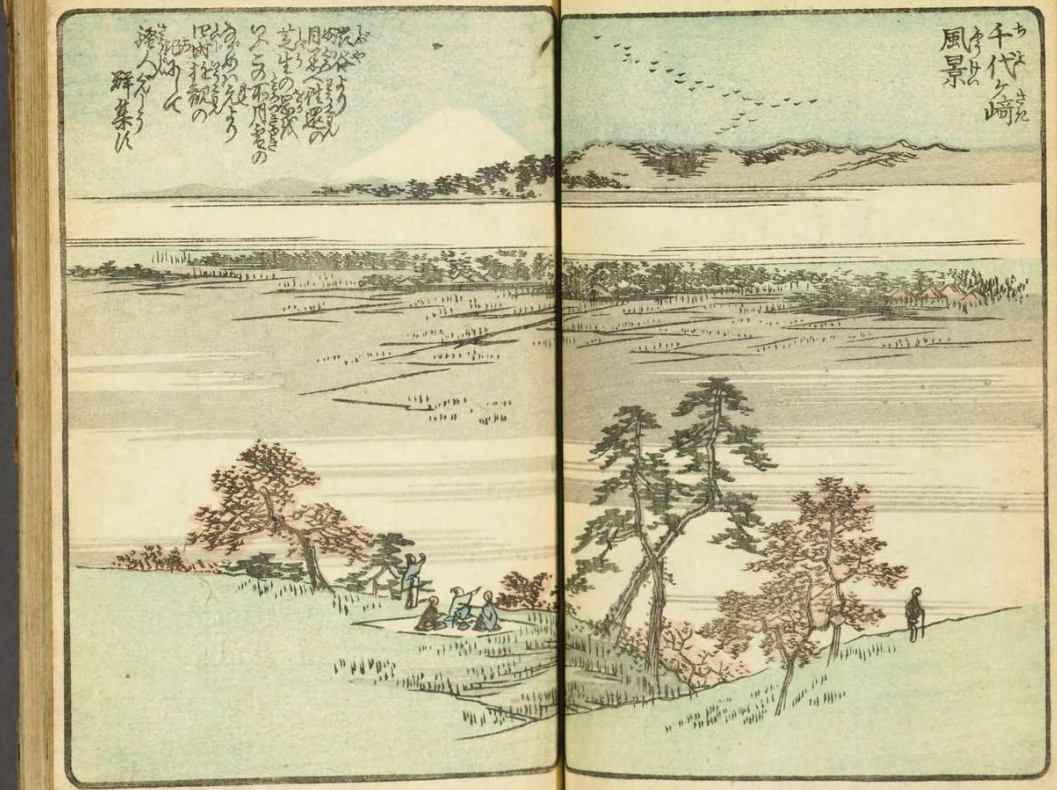
鎧懸松





目黒
不動尊

江都三不動のその一ツにて
いとたふとこゑ大悲あり慈覚
大師の作の剣とのみかゝるの霊場よ
寄附とのくりこみ九月廿八日ゆ
糸引張ル野一門ゟ
栗俤ル隣花のさゝひと
鶯さそふ岡なの
谷おとし





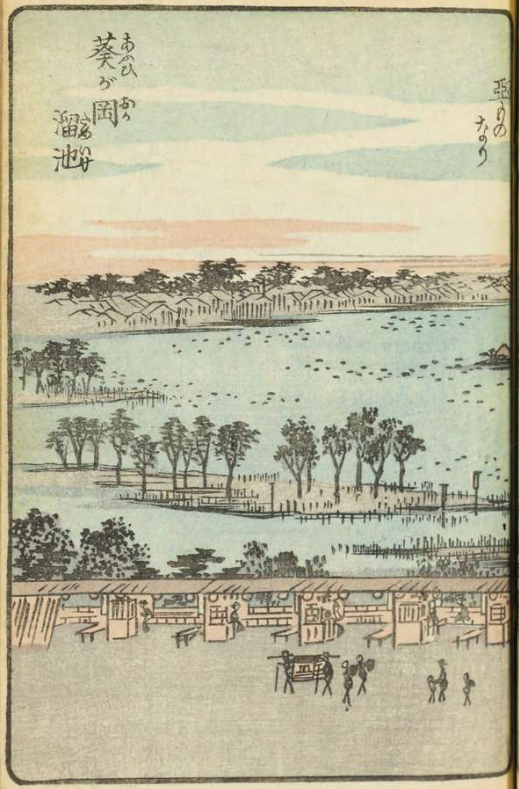


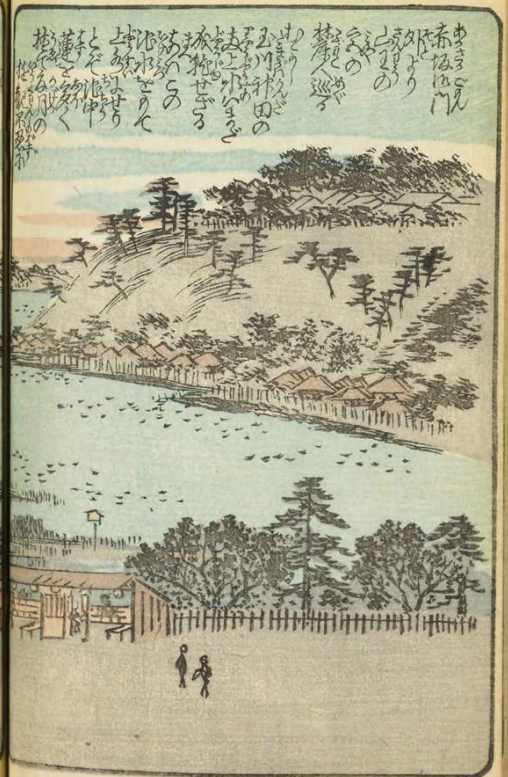
富士見茶屋

麻布
一本松



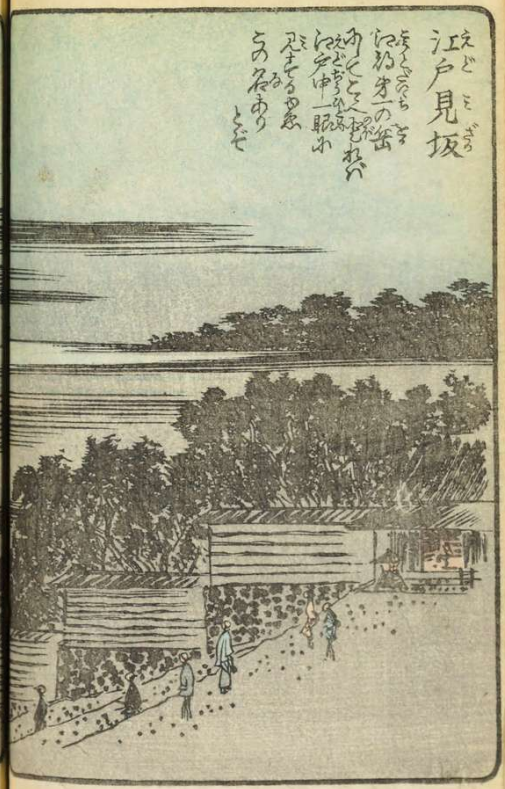
麻布新式の
うどん屋より一本松町の
方の横小路
往来を武家屋敷
にて
左の小路
なり


あの辺
葵が
岡の
溜池
亜りのなり



江戸見坂

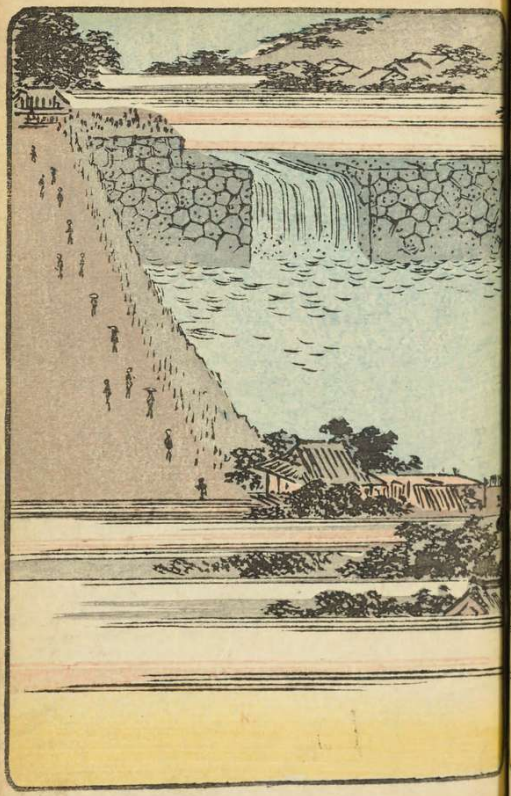




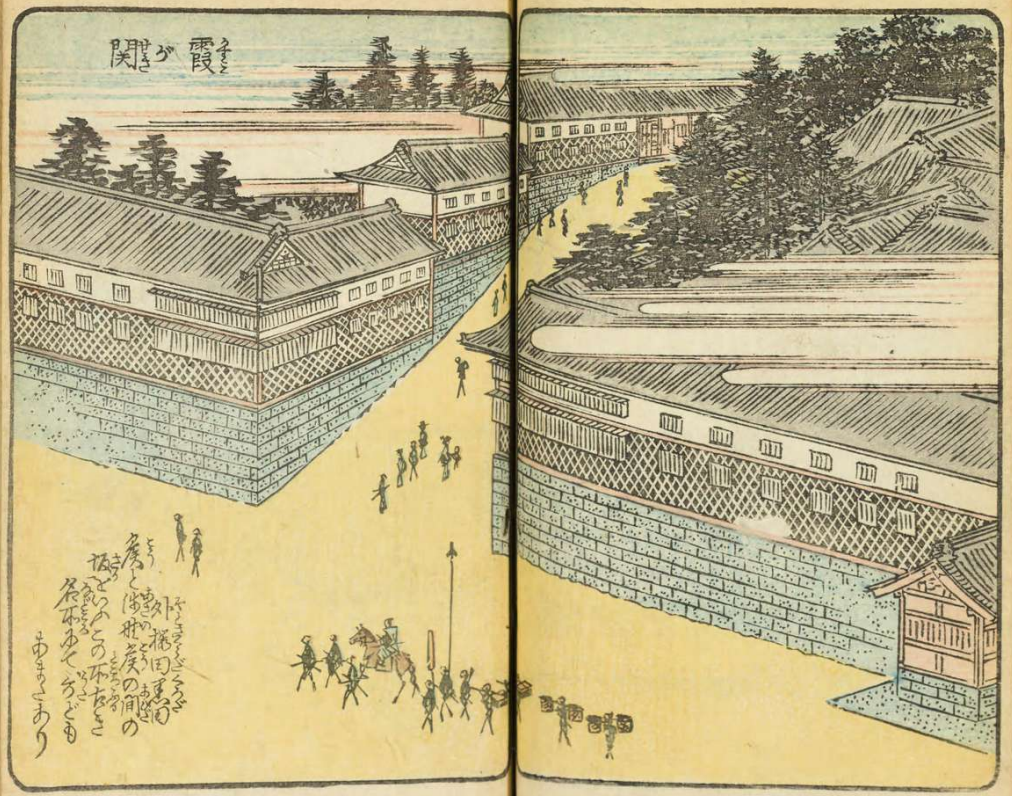


愛宕権現






虎の門
金比羅社
葵坂


殿ヶ閉関







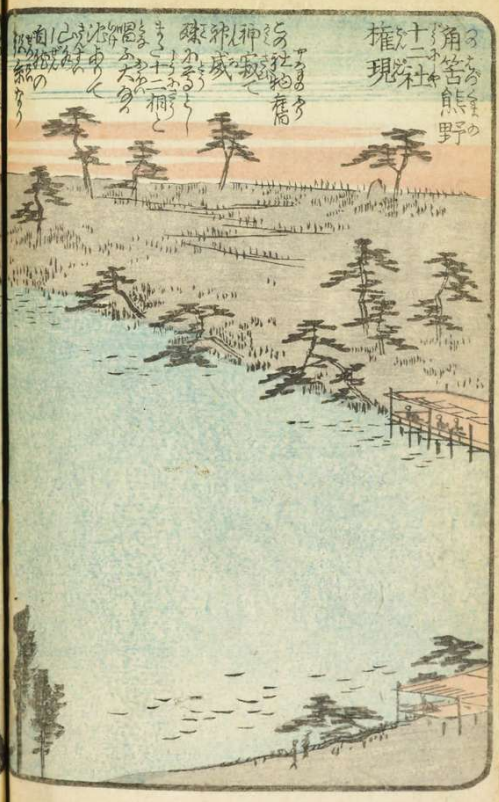

向畑
赤坂村
永田馬場
山王社




青山
新日暮里


清水寺
滝岩
庭中
笠松





其二
大滝



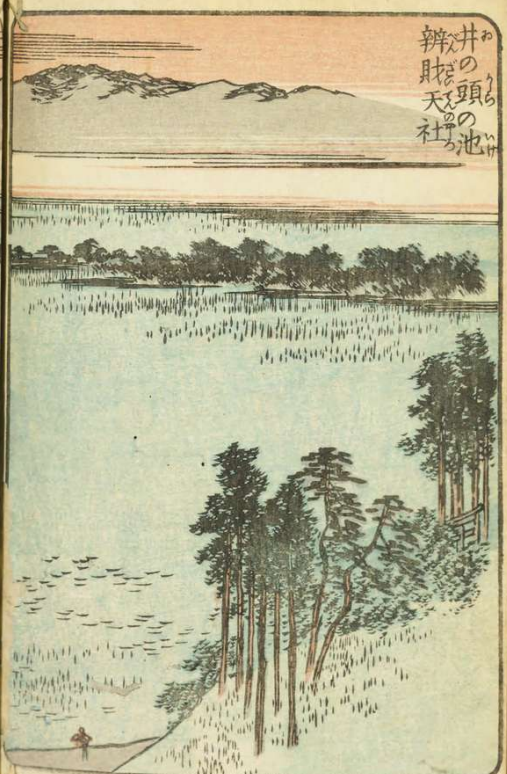






堀之内
妙法寺





120
10
84

京都書林　寺町通松原上ル　菊屋七郎兵衛
同　下ル　勝村治右衛門

大坂書林　心齋橋南壹丁目　敦賀屋九兵衛
同通　久太郎町　河内屋喜兵衛
同　博労町　河内屋茂兵衛

東都書林　横山町壹丁目　出雲寺萬次郎
日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　通二丁目　小林新兵衛
同　芝神明前　山城屋佐兵衛
淺草福井町　岡田屋嘉七
馬喰町二丁目　山崎屋清兵衛
菊屋幸三郎板



120
10
84



繪本江戸土産

四

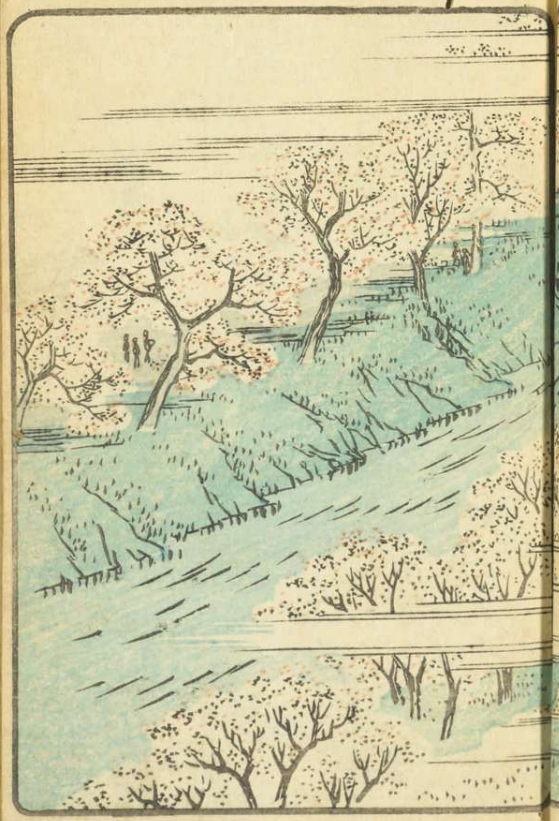
120/10/84

120
10
84

繪本江戸土産 四編


名物


小金の櫻





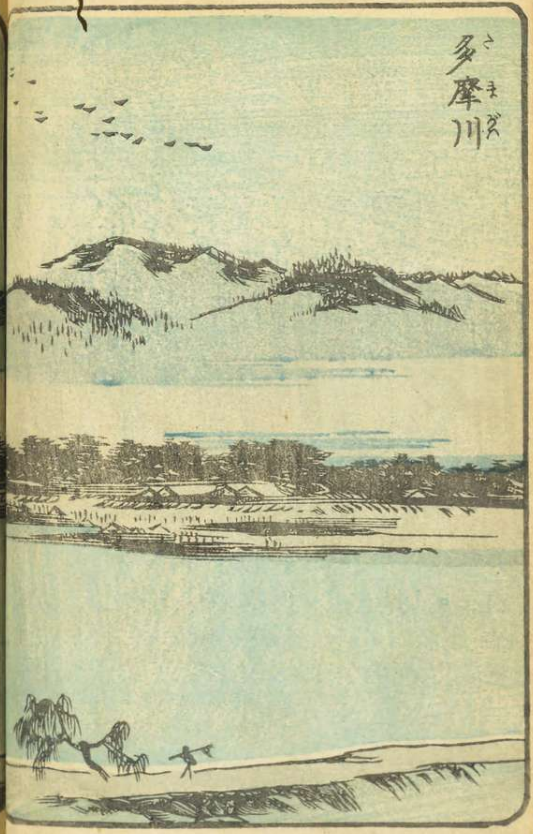
小金井堤

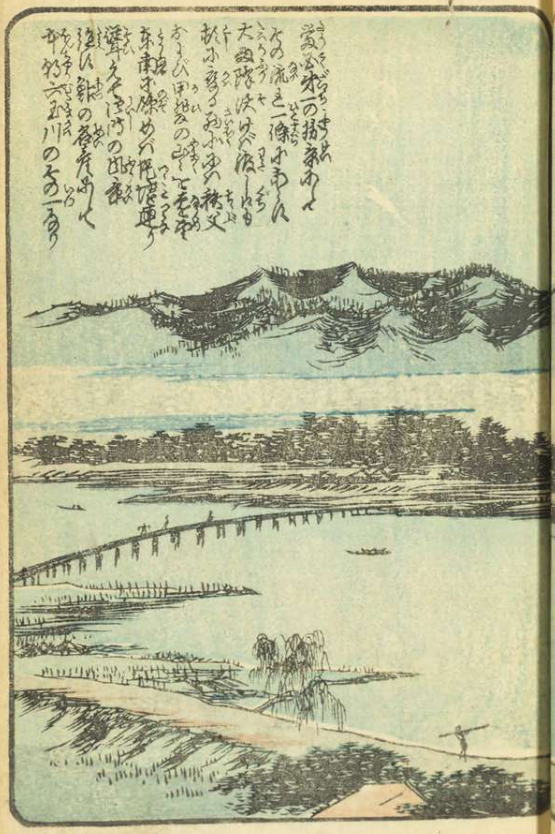
両岸満花




其二
小金橋花見

多摩川







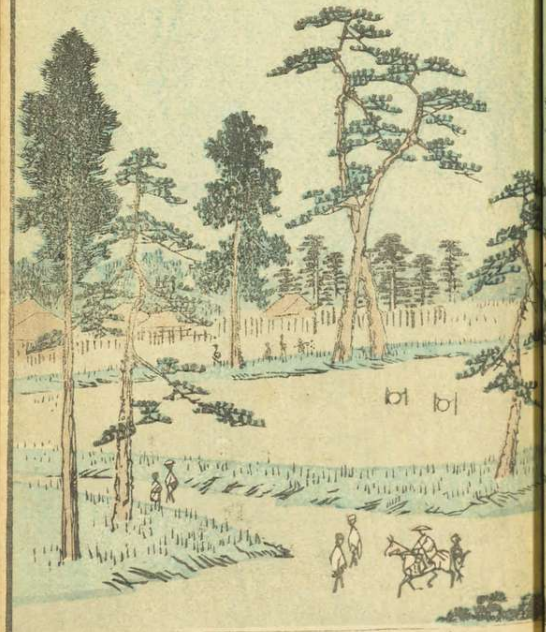
四ツ谷大木戸
内藤新宿

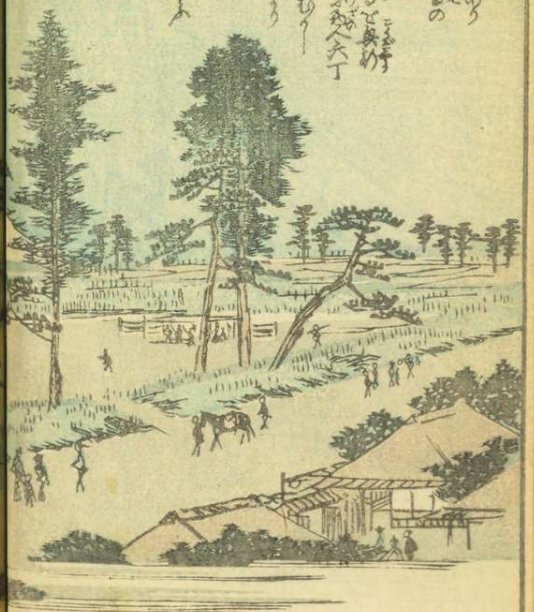






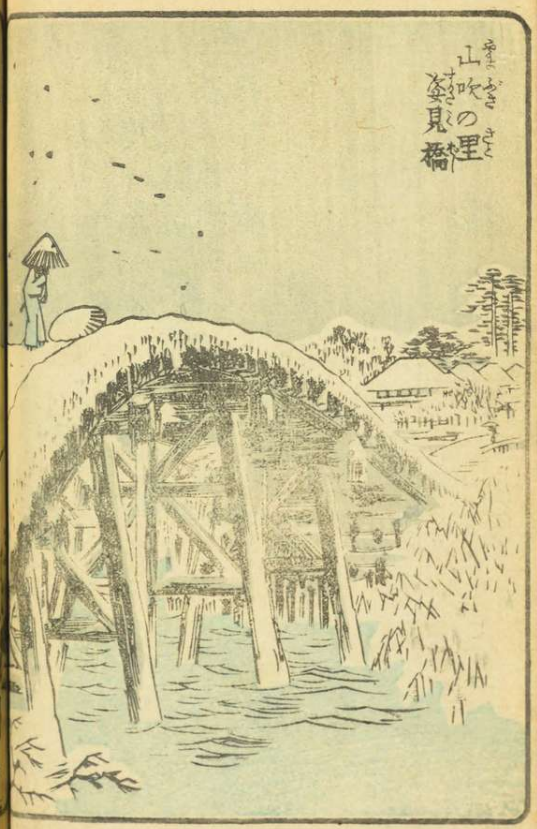
高田馬場



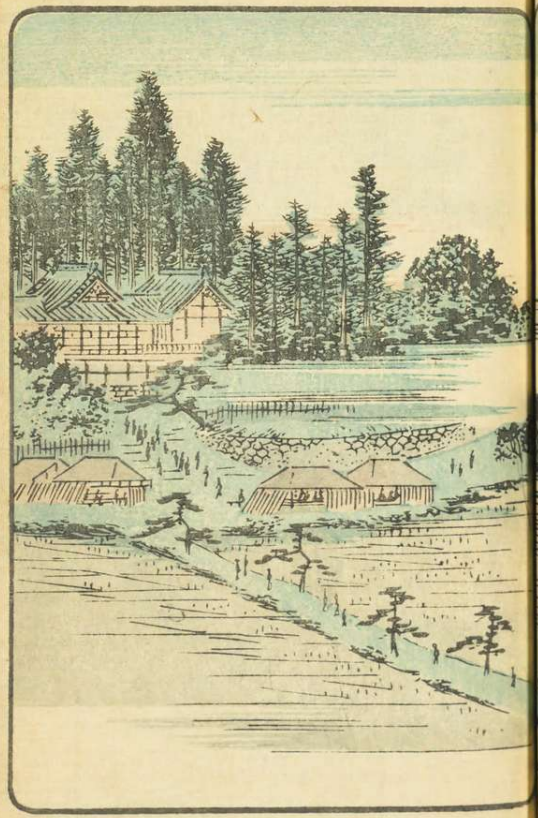




山吹の里八方四
方滝の落るふるそ
きくくそ姿をかへり
この滝の真名かいあり
なれはこそ流れ
ぬかいくの橋もそ
姿を換るそ
うの君そ



山吹の里
姿見橋



雜司ヶ谷
鬼子母神
法明寺







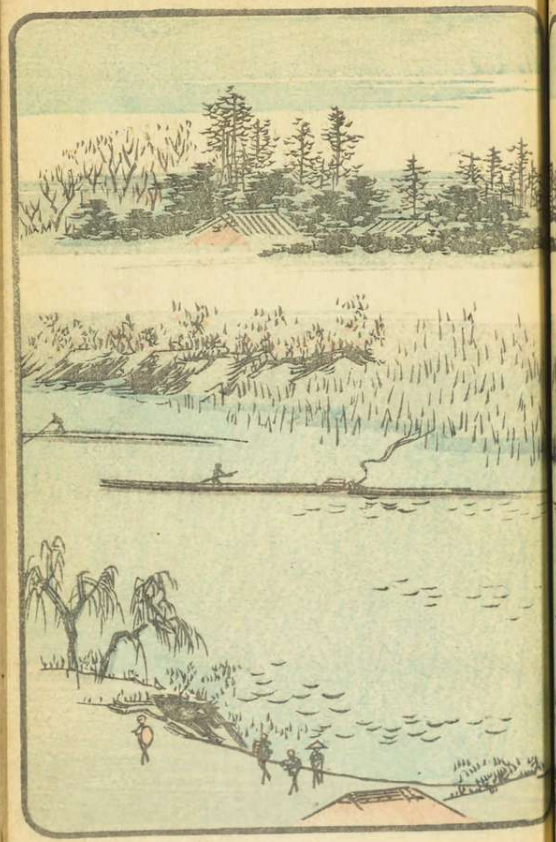
大塚護國寺
音羽町

巣鴨
庚申塚

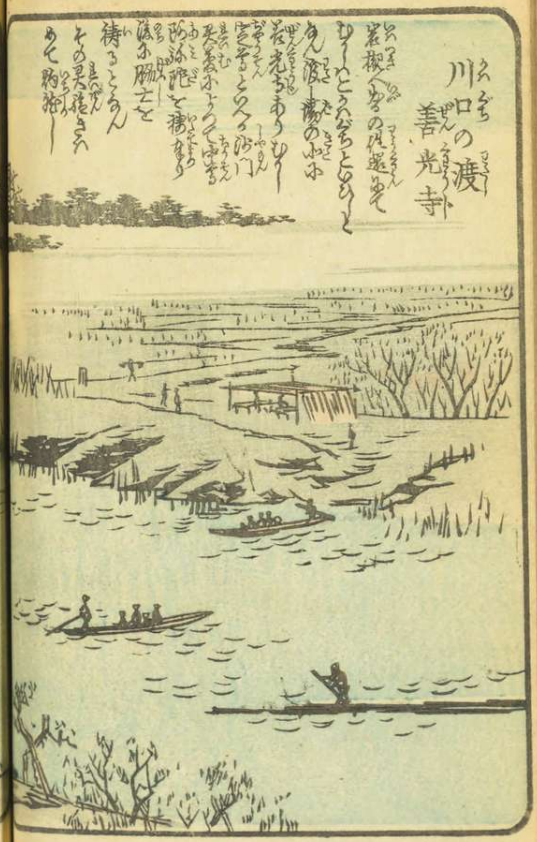




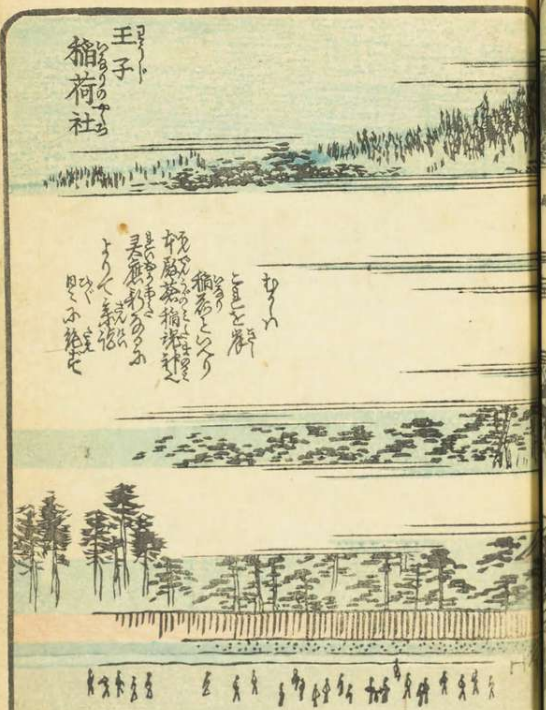
板橋驛

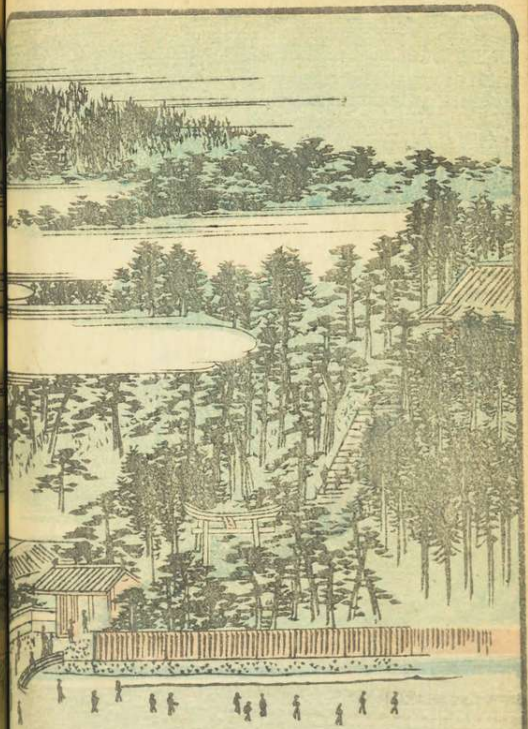


川口の渡　善光寺



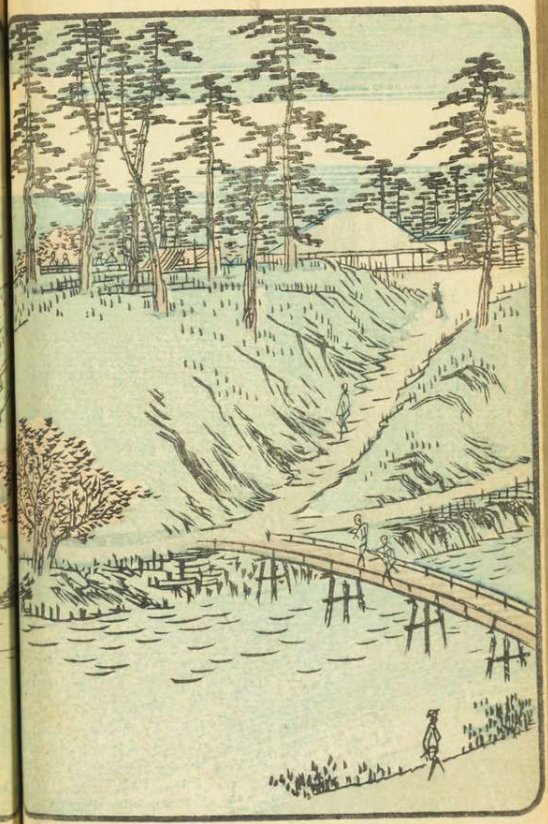
王子稲荷社





王子滝の川



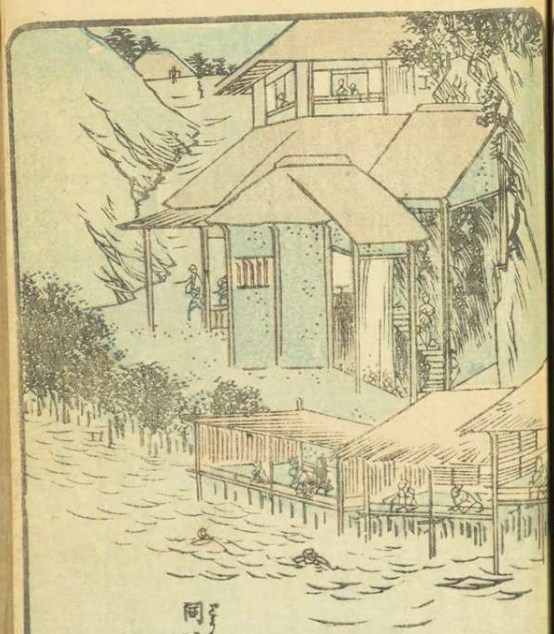




其二 同行滝 岩屋の辨天



十徳の里 女滝男滝

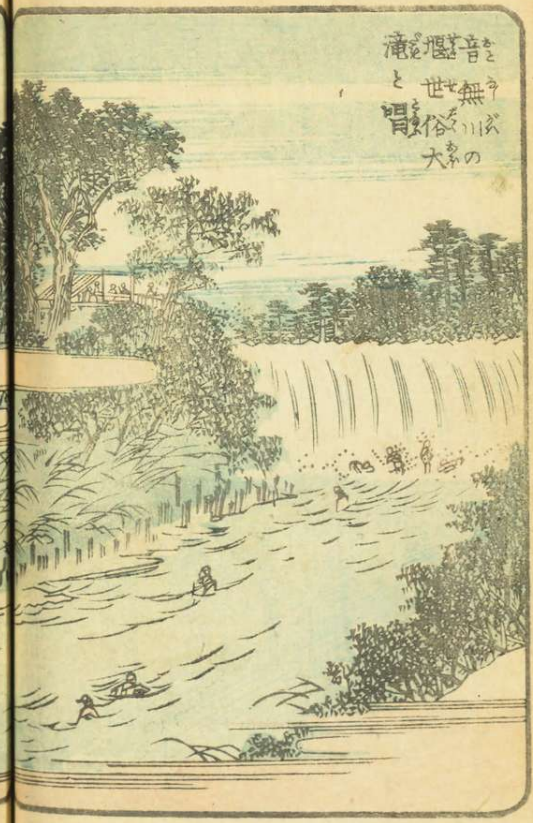


同所湯滝

滝不動のあるを以て名とす

不動の滝




音無川の
世俗大
滝と
唱


えんえんと
今鳴るのみの
堰より落ちる滝と
らんぷもともり
ぬ
井堰の
水
井戸
名を負う





王子料理屋
河辺の
座敷





飛鳥山　花見



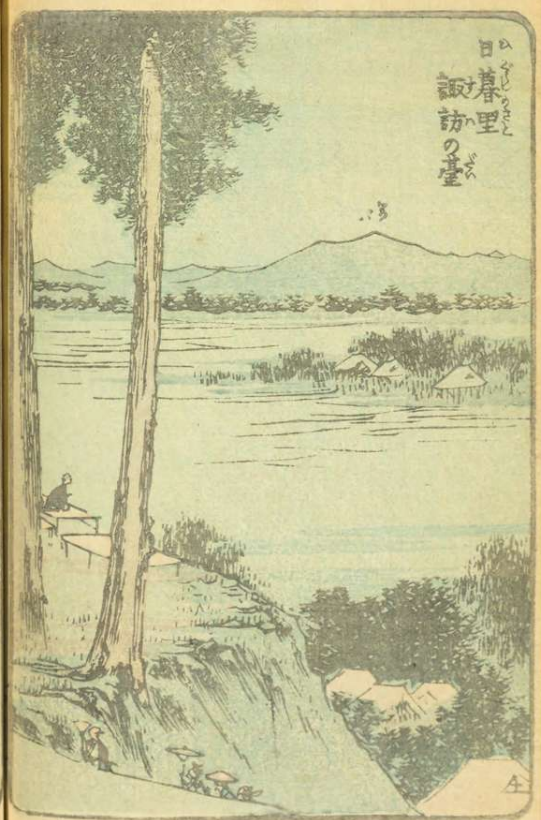


其二






日光


日暮里
諏訪の臺




其二
同所寺院庭中雪の景




其三



東都書林

日本橋通二丁目
山城屋佐兵衛

芝神明前
和泉屋吉兵衛

同所
和泉屋新八

浅草福井町
山崎屋清七

下谷御成海道
紙屋徳八

下槇町
大和屋喜兵衛

照降町
恵比壽屋庄七

南傳馬町一丁目
山城屋政吉

十軒店
播磨屋勝五郎

銀倉三丁目
大和屋萬助

京橋五郎兵エ町
中屋徳兵衛

馬喰町二丁目
菊屋幸三郎板

120
10
84

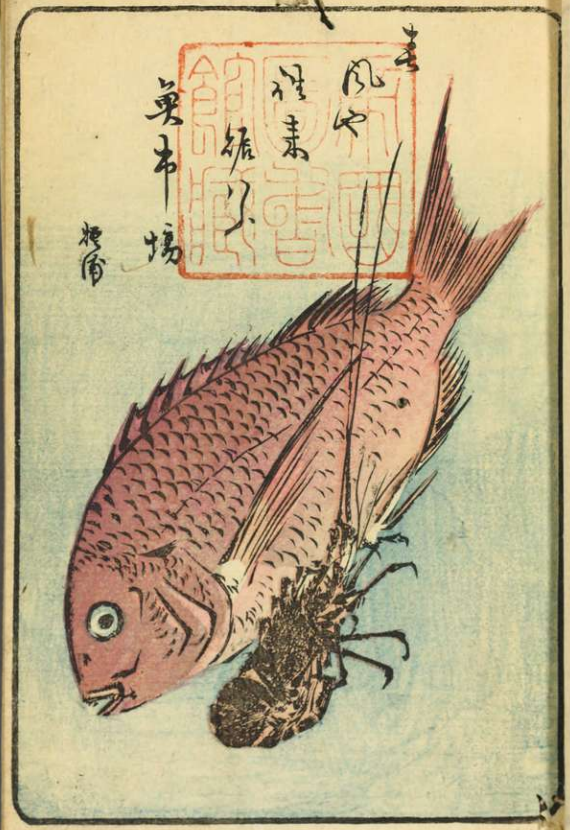
繪本江戸土産

五

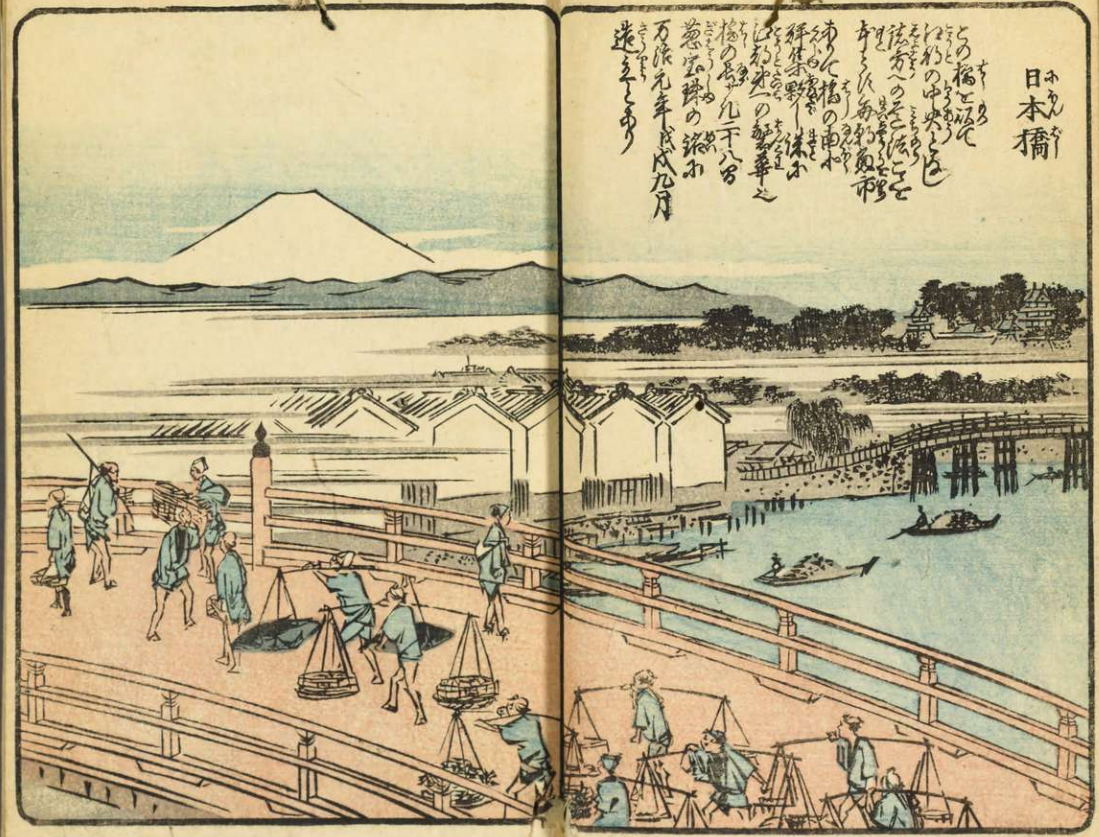
120
10
84

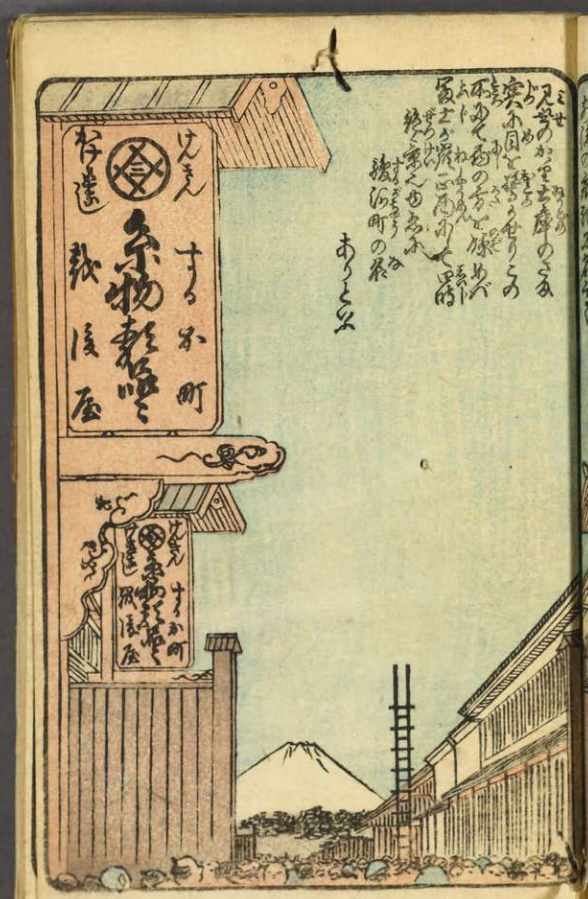

繪本江戸土産
五編

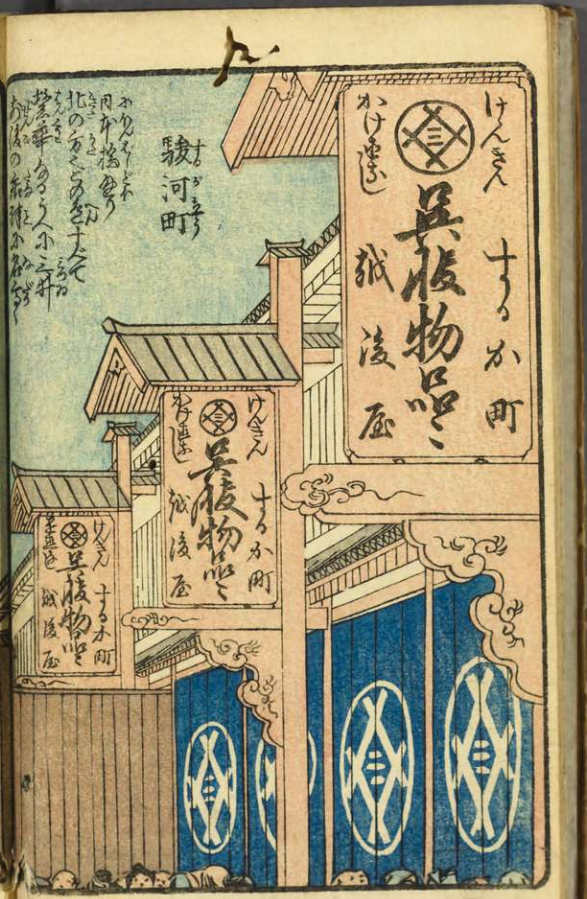




日本橋




けんきん
するが町
呉服物品々
かけうり
絹布
仕立
呉服物品々
絹布仕立
するが町
呉服物品々
絹布仕立
駿河町


けんきん
するが町
呉服物品々
かけうり
絹布
仕立
呉服物品々
絹布仕立
するが町
呉服物品々
絹布仕立





鎌倉河岸





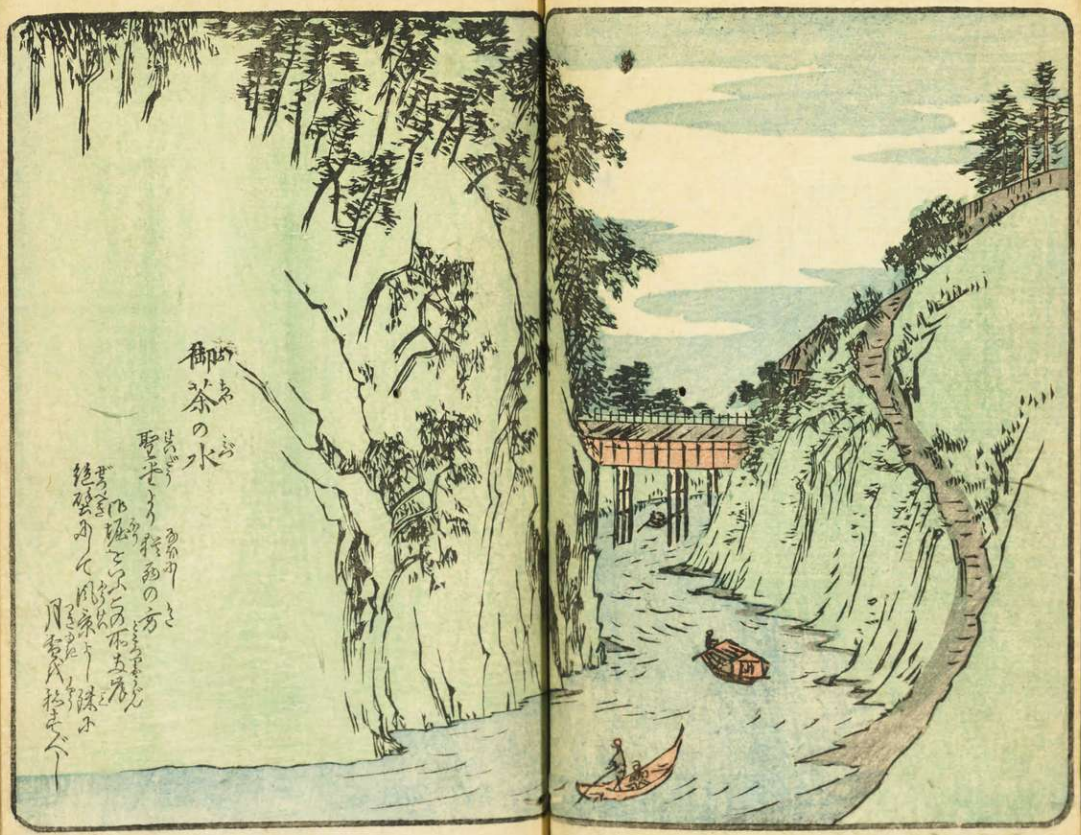
護持院原



筋違八ツ小路

筋違橋の内と外の家ども
昔のやうとは殊八ツ小路と
いふ名のみ残りて繁昌
地方へのおもむき
八ツある小道ゆゑ
初編に出せる八ツの名称と
その言あやまり

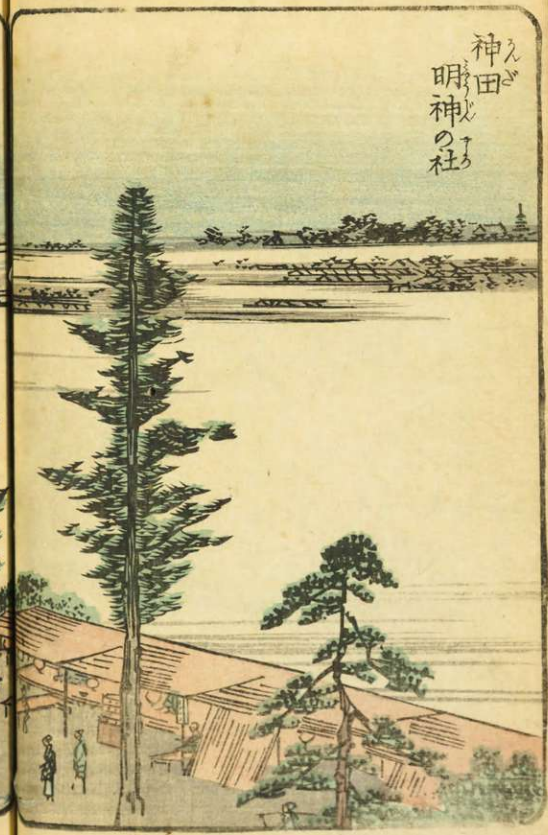

昌平橋
聖堂


御茶の水
聖堂うら筋違の方



水道橋





神田明神の社

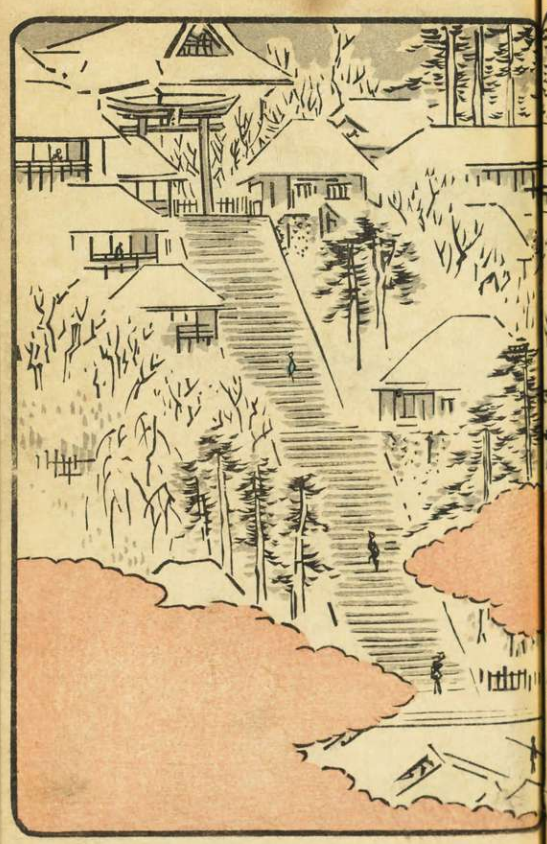


聖平の御ふたり
聖武帝の天平二年
大己貴命と少彦名命を祭神とし
後平将門の
首を合せ祀る
九月十五日
山王祭

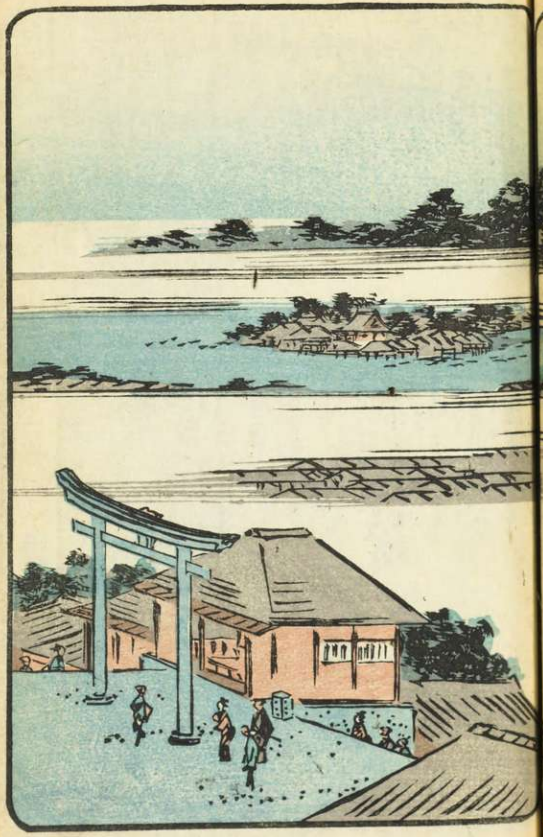
本郷通



湯島天神
雪中之圖







同所
坂上眺望





上野黒門及三橋の圖





其二
山王山
眺望







其三

清水堂
花見



其四　山門摺鉢山　花見







其五

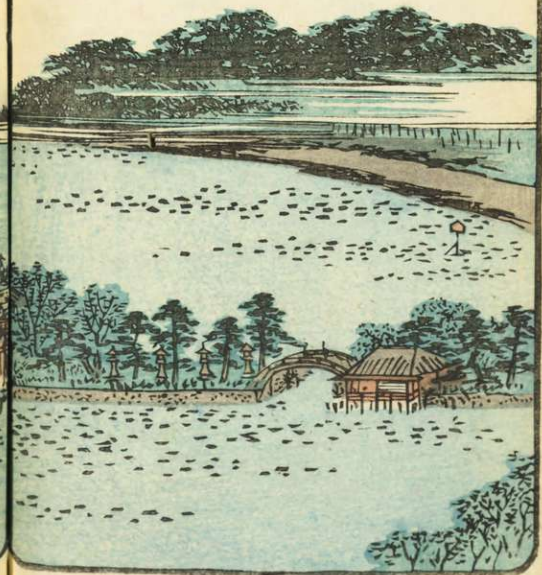
山門に入ては三重の
楼閣にてあり其奥の方は
中堂にして此寺の本坊
徳川家の祈願所にて
方丈には此楼閣より
左の方へ廻りて至る
二階にて見る

同所
池之端
料理屋





其の二
不忍之池
全圖
中島辨天
之社



谷中
天王寺





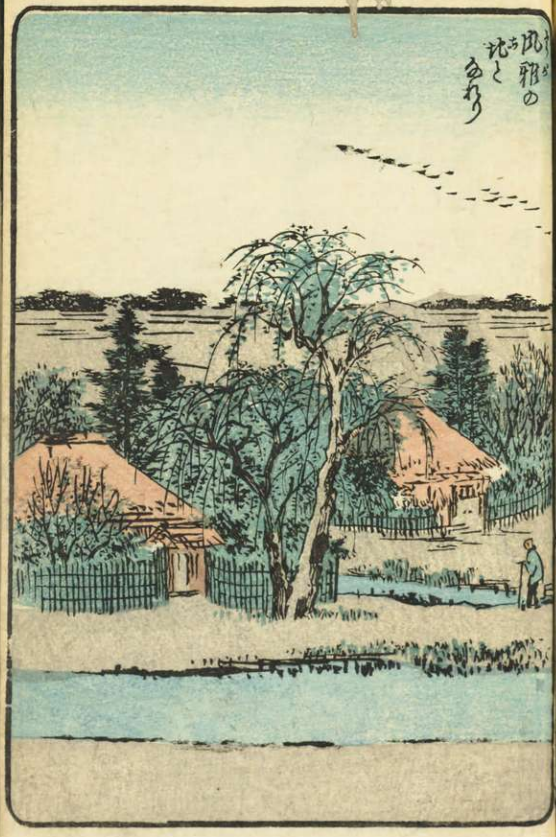


この社地物構
神殿並に末社の
景色など
春の時分
花盛り
宛も紅霞の
如くなる


根津権現
社地
紅楓




根岸の里
東叡山の奥の
静かなるところ
根岸とよび
元より宅地
多く植木の花ある
文人墨客の
住を避るの
ところ
庵を
結べる
もあり
閑地

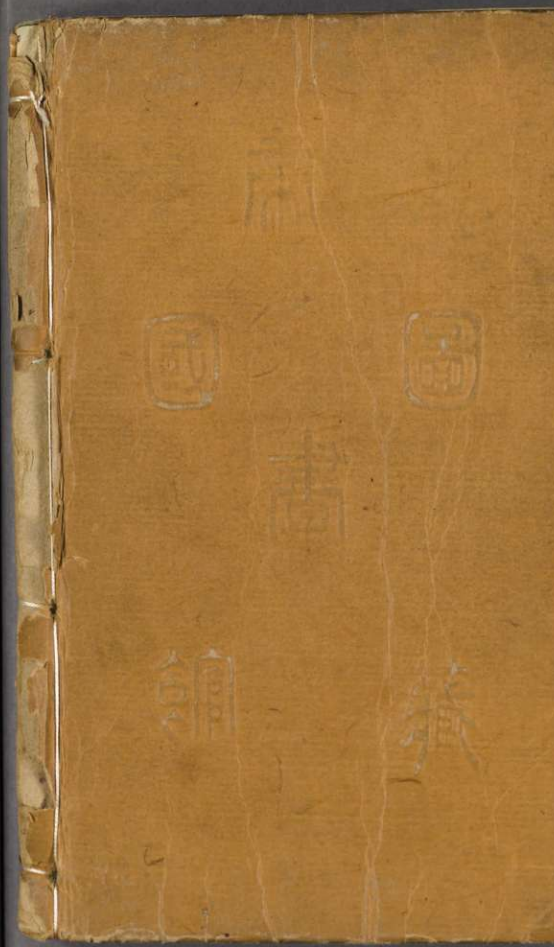

鶯谷の
地となれり



京都書林
大坂書林
東都書林

寺町通七条上ル 菊屋七郎兵衛
三条通御幸町 吉野屋仁兵衛
心齋橋通久太郎町 河内屋喜兵衛
同博労町 河内屋茂兵衛
西横堀心斎橋北詰 島屋清助
下難波村 正文堂利兵衛
信州松本 高美屋甚左衛門
芝神明前 岡田屋嘉七
本石町二丁目 大和屋
浅草福井町 清七
馬喰町三丁目 菊屋幸三郎 版

120
10
84



繪本江戸土産

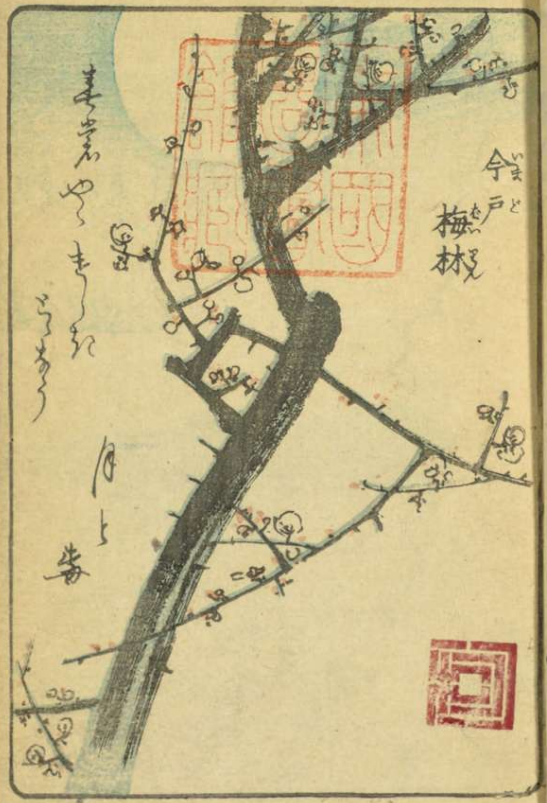
六

120
84

120
10
84

繪本江戸土産
六編

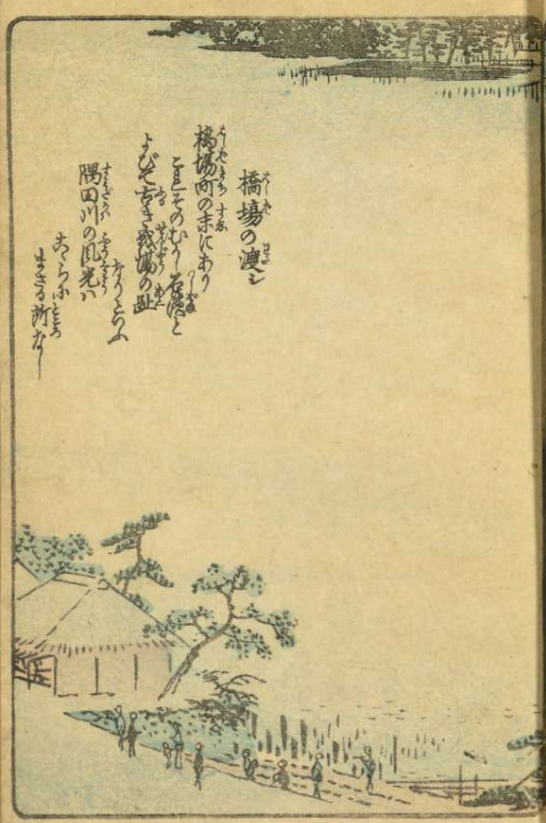



今戸
梅林



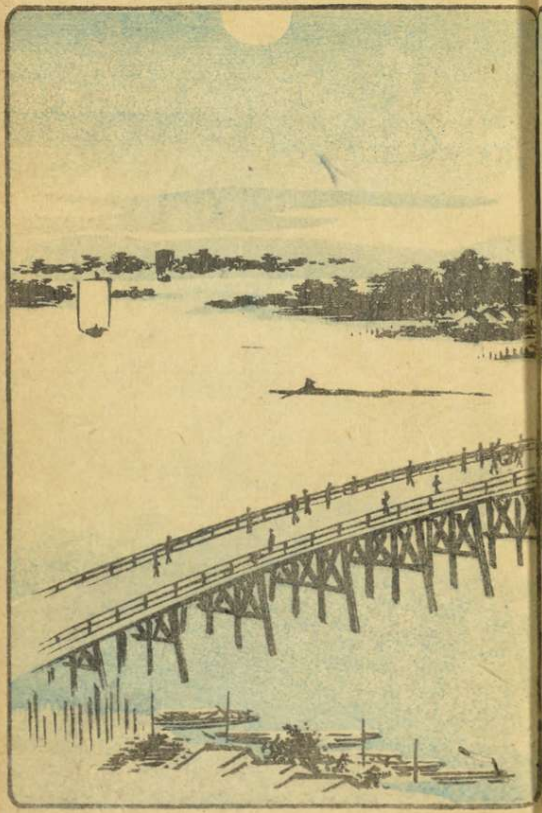
今戸兎竈

此の所は山谷小鄽より
隅田川の西岸なれバ
風景えもいわれぬよろこ
この窯あまた兎を製せり
竈幾個か連なりて
口をひらくこと五六并ぶ
煙々螫が冶金ふ
異なるべ



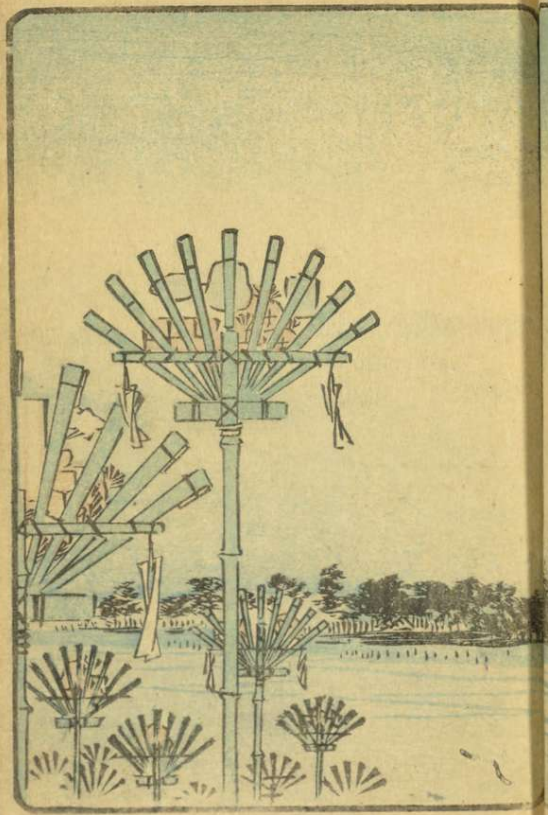
橋場の渡し

橋場の町のまにあり
ここそのむかし名所と
よびそやされし戒厳の趾
隅田川の風光は
あらふもまさる所かな



千住川
大橋

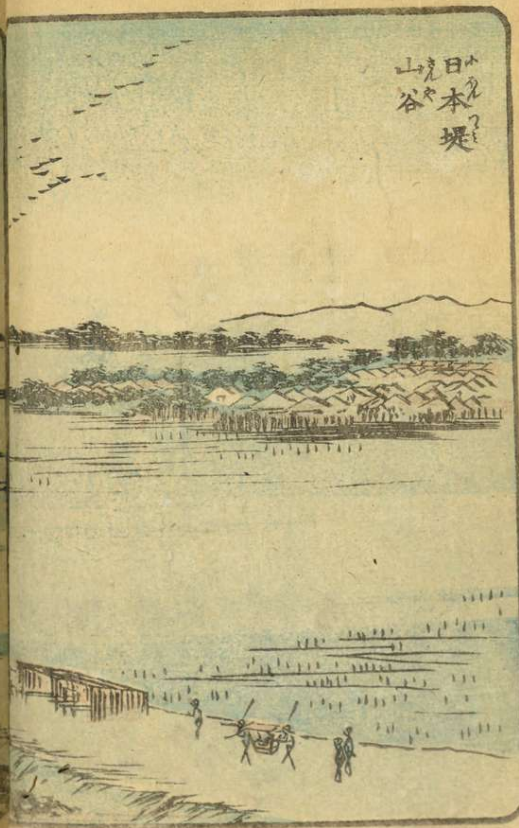
日光街道の出口にして隅田川の川上なり奥羽並びに常陸下野へ行にまづ此橋より行にぎはひよく宿の旅人品川よりつづく



浅草
酉の町







衣紋坂
見帰柳





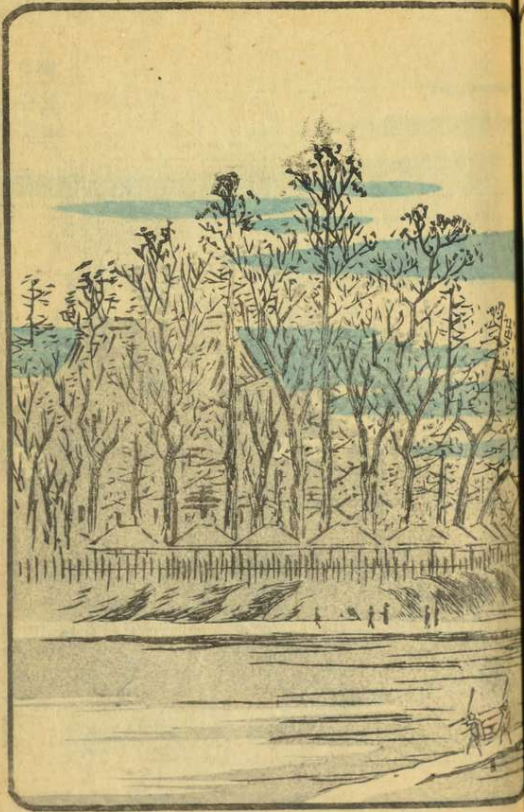




新吉原
仲の町
植櫻

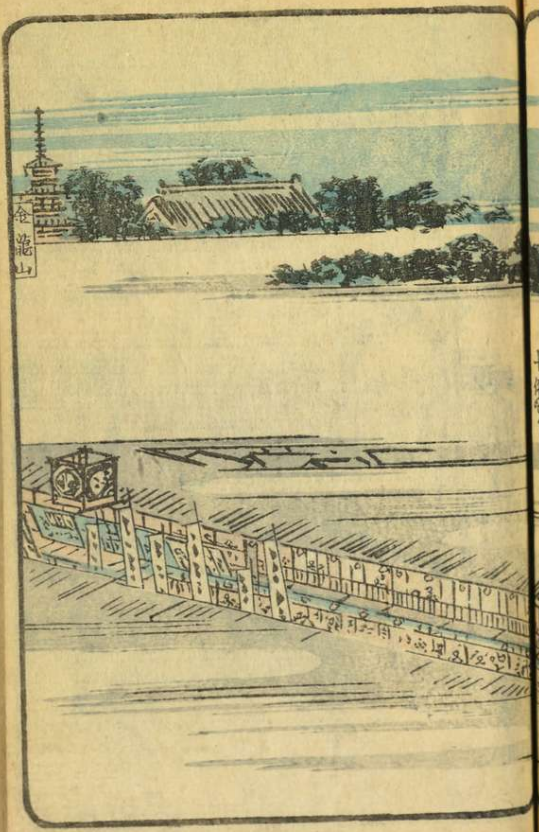
其二
娼家





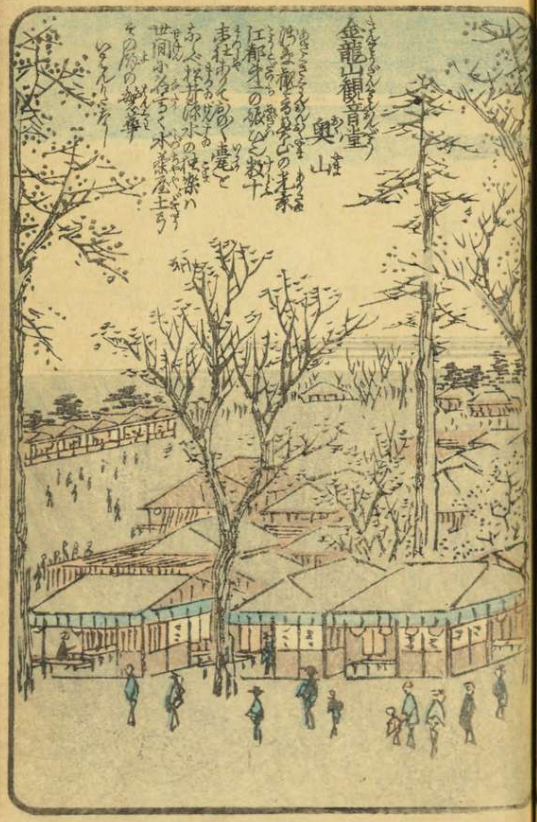


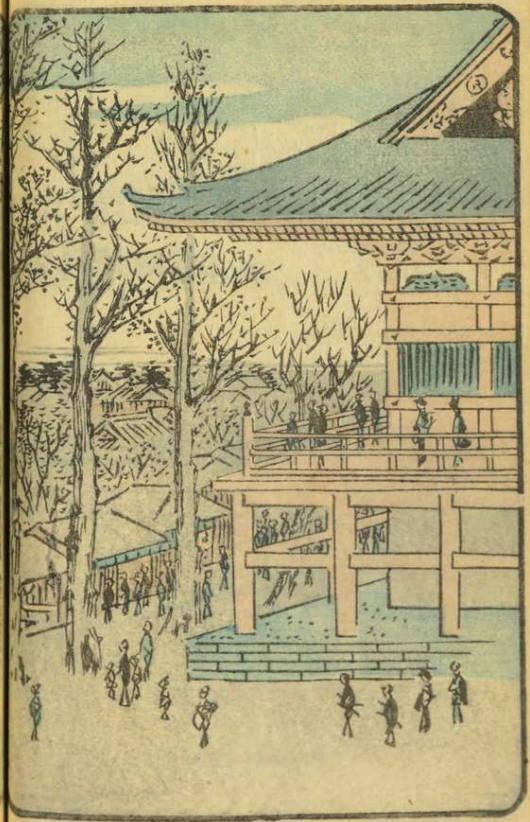
金龍山奥山
裏田圃

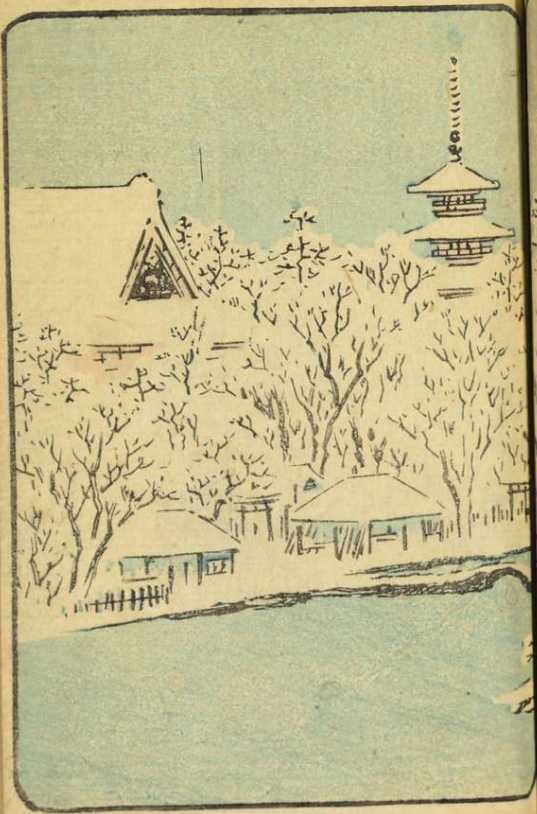


猿若町




金龍山観音堂
奥山





其二　同所
飛天山




其三 雷神門
の二神を安置ス
と云



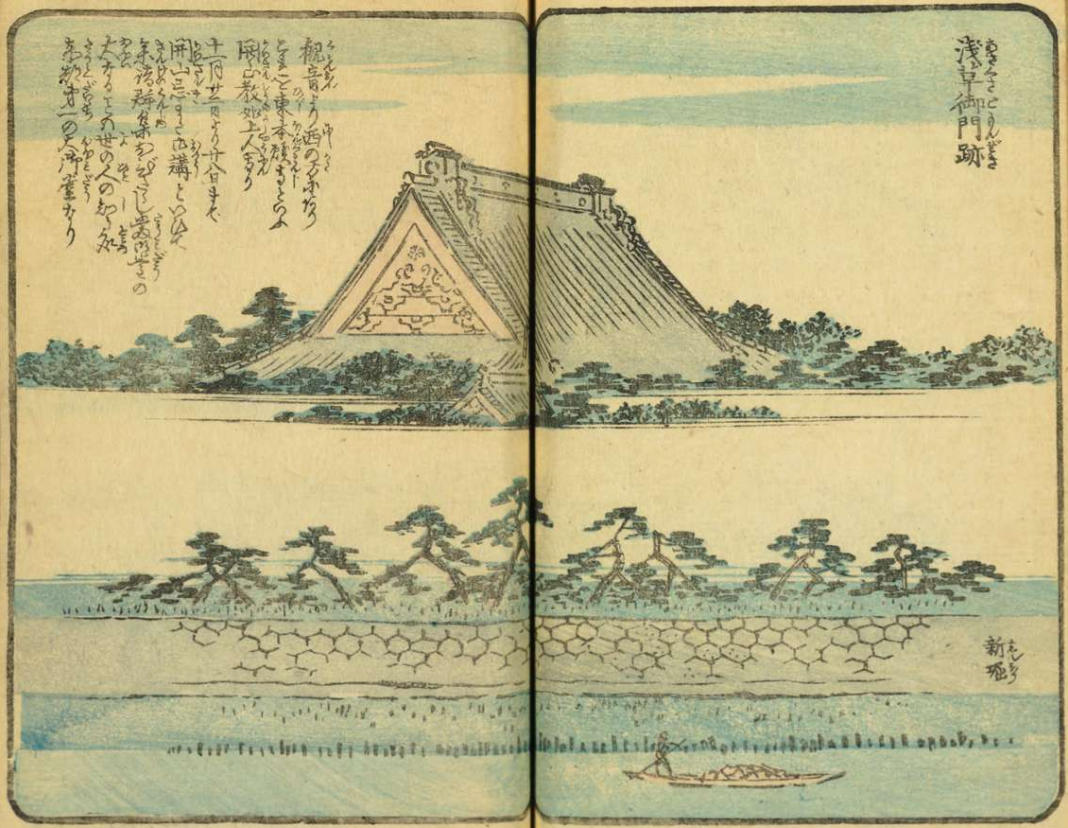


其四

雷神門前
廣小路
並木茶屋

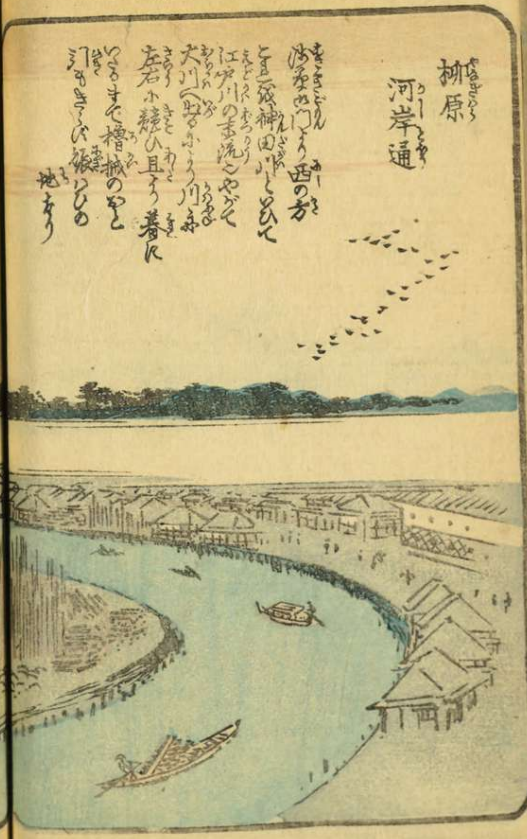
右雷神門の通りを
並木といひ西の方廣き
所を廣小路とのみ並ま
た右廣小路ハ元御
料理や軒をならべて
この地同川茅町田楽
もとより名物とい
ふ毎の十七日廿二日
ふのり時の花を
みるとて老若
夏月夜ふけるまで
賑ふ

越ま
東都の
一奇観

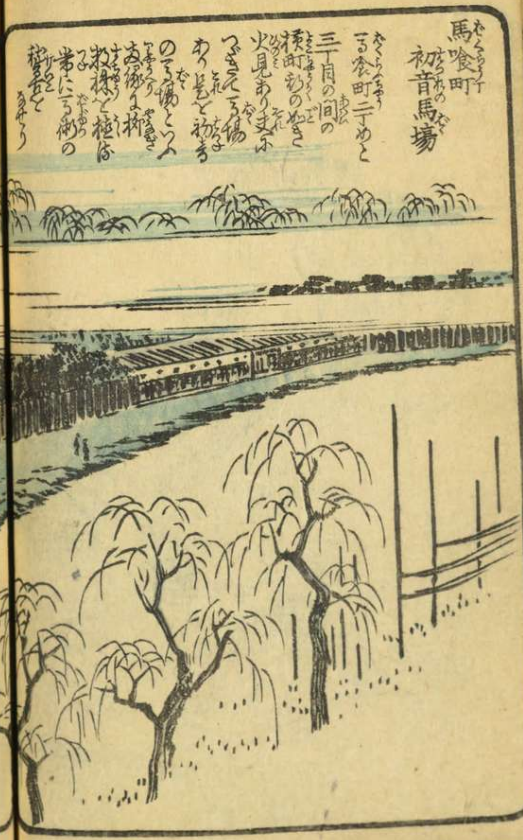

浅草御門跡
観音より西のかた
とうこう東本願寺の
別院教如上人
十一間廿三間より十六間まで
開山三尺五寸
未詳
新堀



柳原
河岸通







馬喰町
初音馬場

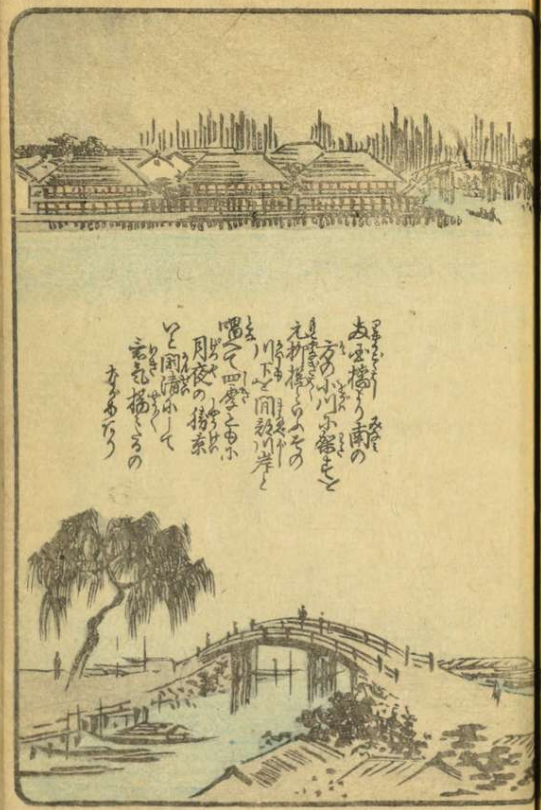
三十間の間の
火見あり
つぎえ
のこり
弟に



神田川の末流
駿河台の下を流れ出て
柳橋となり
大川へ落ち入る
この間の両岸
ことごとく料理茶屋
軒をならべ
提灯よあけに連なりて
夏月の納涼まことに
賑わしく
風流なる事
江戸第一の場所
なり



両國柳橋
料理屋
會席



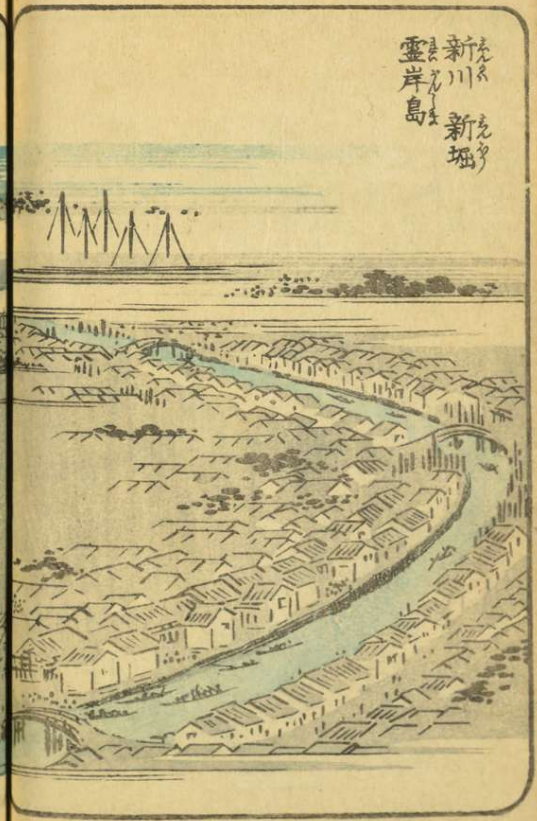


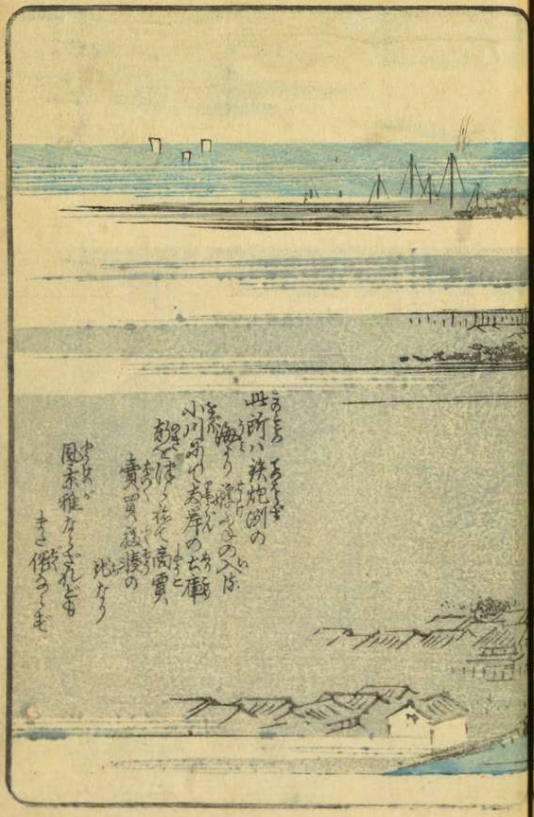
其二

向西國茶屋

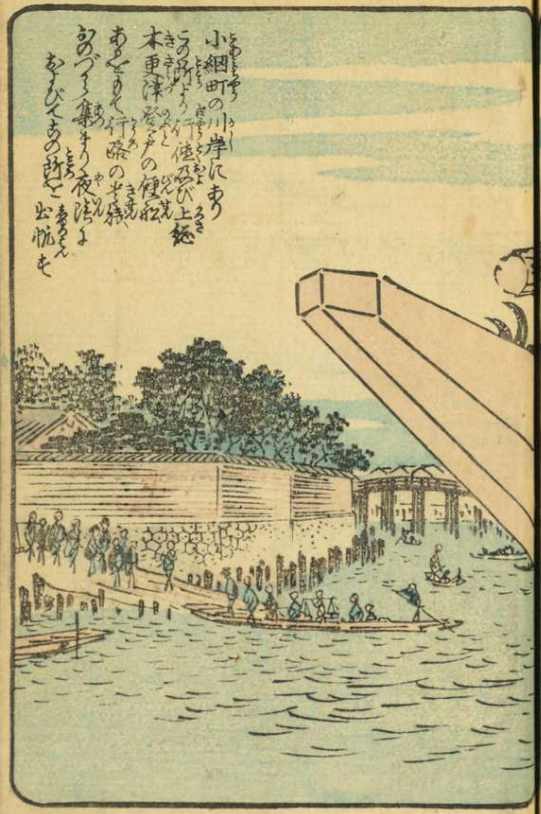
元柳橋

濱町


新川
新堀
霊岸島



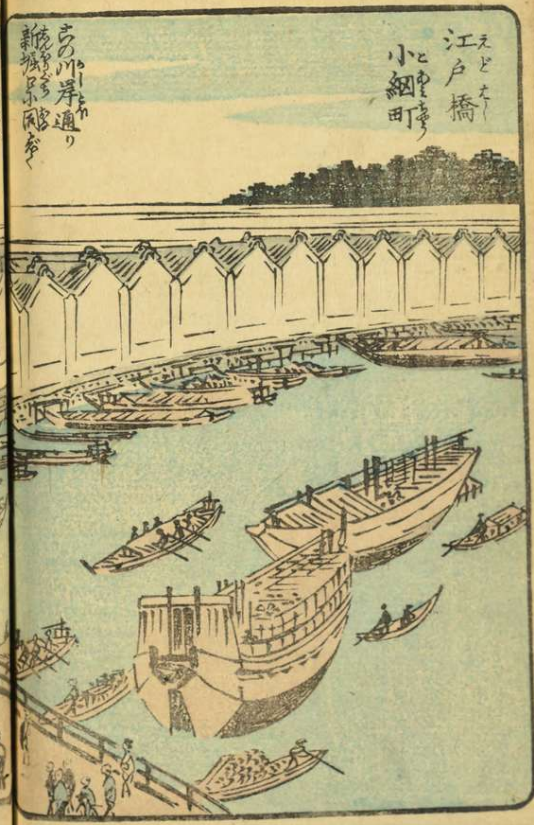
鎧の渡



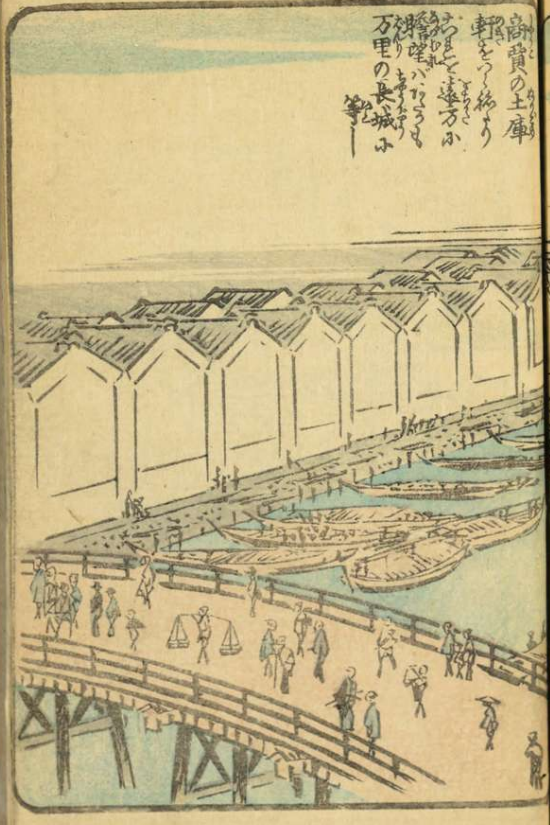
小網町の川岸にあり
この所より佃および上総
木更津などへの便船
あるによりて行旅の半数
おのづから集まり夜活よ
あさびとの賑ひも

江戸橋
小網町

この川岸通り新場呉服問屋多く



高貴の土庫
軒をつらね
遠方より
望ハ
万里の長城ふ
等し





京橋
竹川岸

四方橋の通り
南の方永楽の
左右は玉の竹林と
伐てこの所より聚る輩く
大小の竹竿数億千万
果てしもいそん方と
遥小艇どもあまた
往来の通小在とみ国家と
の本柱ぞかもとうるはと

120
10
84

東都書林

日本橋通二丁目　須原屋新兵衛
京橋弥左エ門　大島屋傳右エ門
神田鍛治町二丁目　花房屋兵藏
堺町　大坂屋富三郎
新革屋町　龜屋文藏
芝神明前　若狭屋與市
下谷池ノ端　上州屋金藏
四谷傳馬町　濃州屋安兵衛
麹町七丁目　尾張屋清七
四日市　上總屋惣兵衛
小傳馬町一丁目　山城屋平助
馬喰町二丁目　菊屋幸三郎校



120
10
84



繪本江戸土産

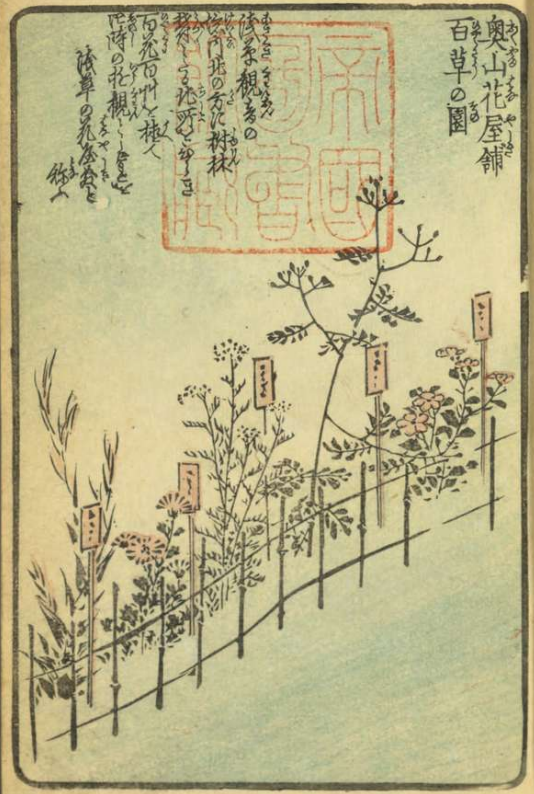
七

120
10
84

繪本江戸土産 七編

120
10
84





麻布古川
目黒元不二
所称富士
二峯ノ茶屋
目黒千代ヶ池
二大銀杏

大井京
再興
海晏寺殿山
両国
石川洲崎
芝増上寺
所境内
一統奉納

浅草金龍山境内櫻

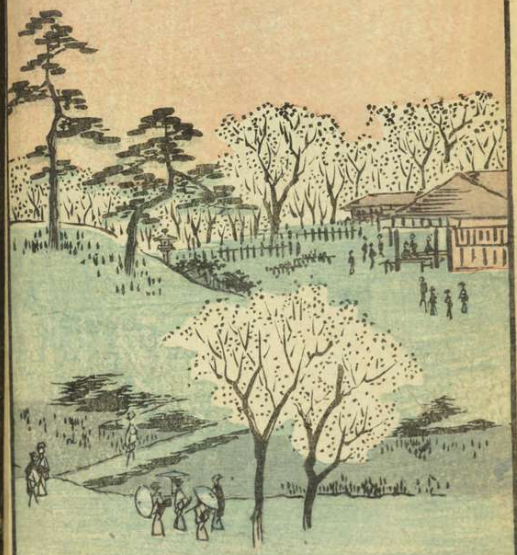
玄祚安政二丙辰
冨術奏する
千万の死を捨
元本何人の安堵
終く北里の名殺





ここを去ること遠からぬ
その名を死しる
簿と往きし両森へ
打て変りて見る
変ハ春時の
一実説、
名さす芳野の山桜も
争うごとく及ハさる
況や東都へ咫尺さ
その景趣ハ来れ
冠るものかり

同所
奥山
花屋
舗







首尾の松
大川端



椎の木屋
鋪

隅田川の末流
吾妻橋
両国橋の中間

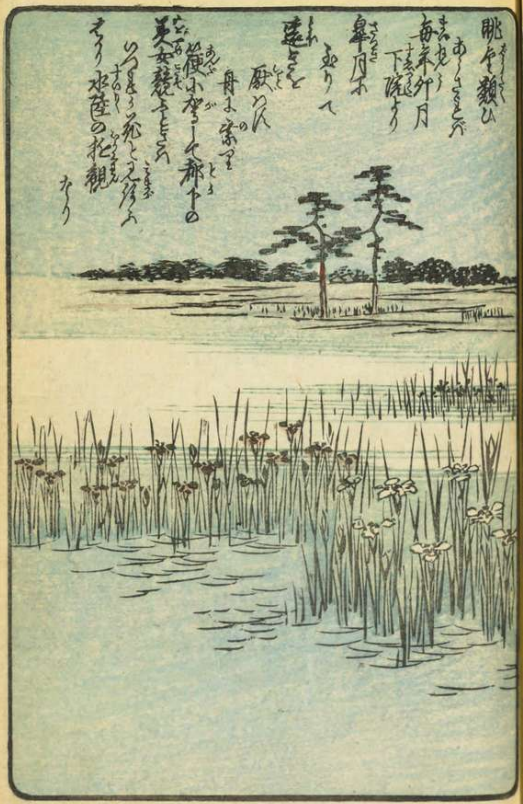
酒の座ふまり
様の古松屋図
我の水面さまへ
遠ざかります
我の端


請地
秋葉
権現
境内



堀切の里
花菖蒲







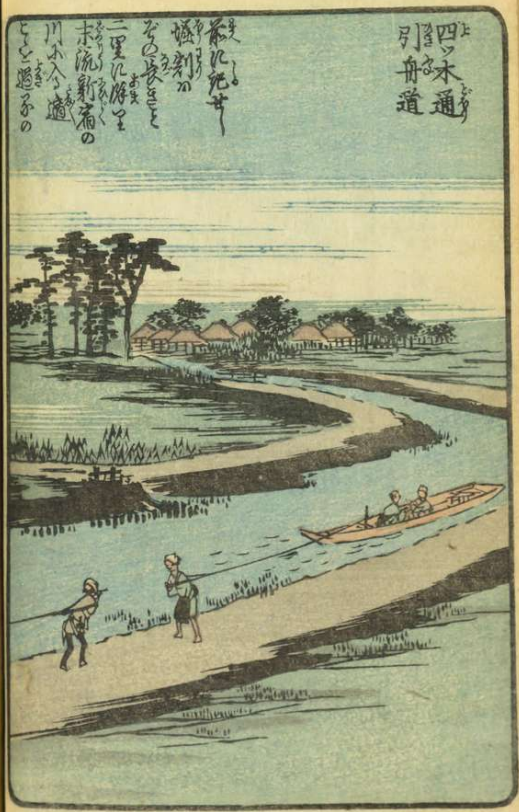


小村井
梅園

小梅の堤







四ツ木通引舟道

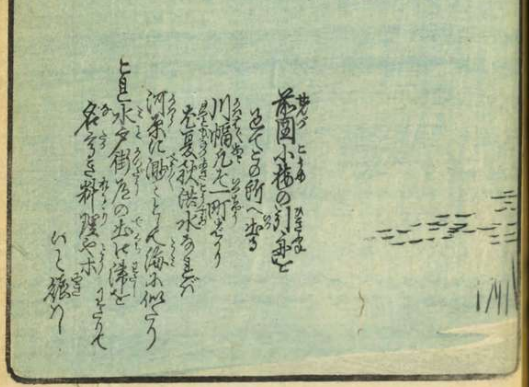




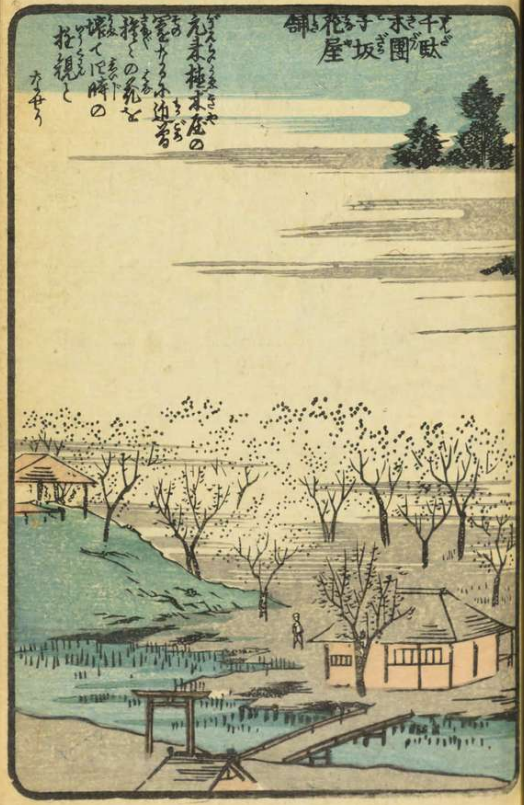
料理屋



新宿の渡し場



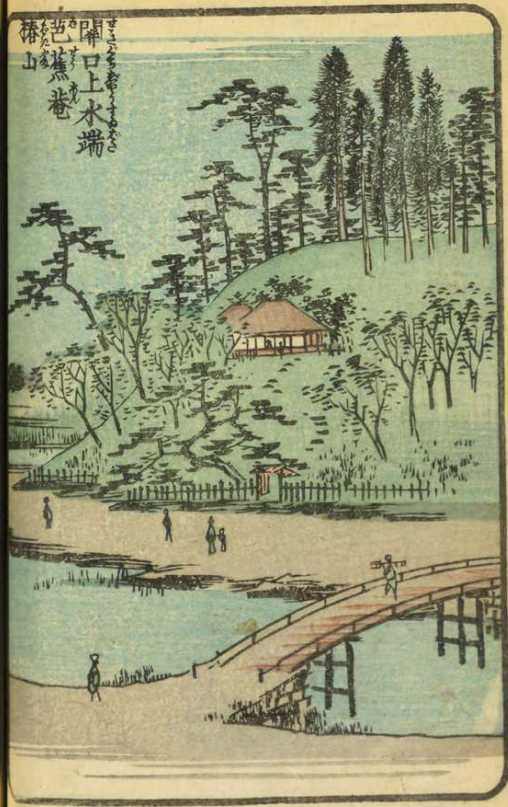
春風小梅の匂ひまで
忘れぬ所へ来る
川幅九十間ぞうり
老夏秋浅水のとぞ
河柳に隠れてしん海ふねぞうり
と見水を街道の出に清と
名ぞうき料理やホ
いと狭り


千駄木團子坂花屋舗
元来植木屋の
雪かゝる木迄着
きく の花を
咲て此時の
花視と
かせり



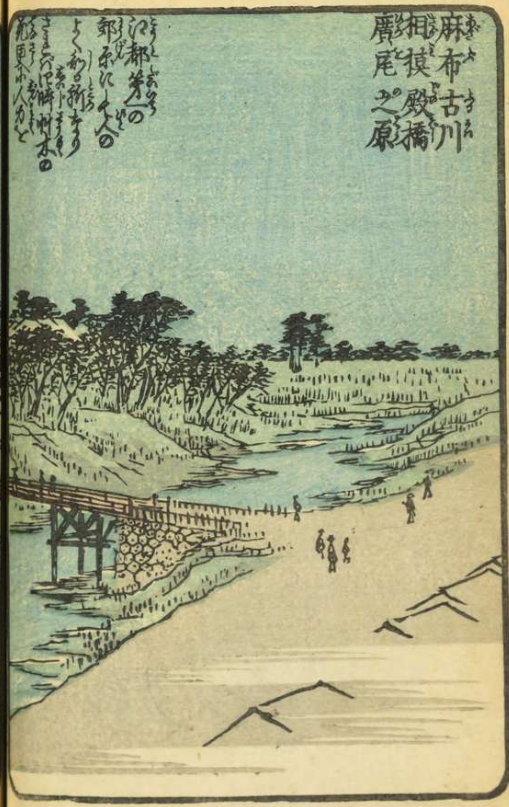
紫泉亭東南眺望
伐の矢ふ派宝を
佛つ教人ぐえ沫派せむ
らの楼ょう眺望すれば
夢する所の揚地
眼下みおろす
実ふ後ふ景いさんさー
天王寺
三界寺
谷中
護國寺


其二
上野
東叡山





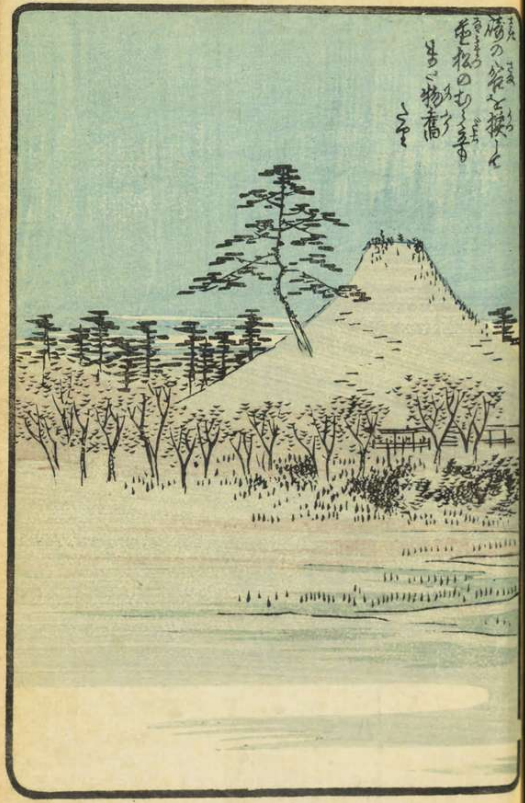
麻布古川相摸殿橋
廣尾之原



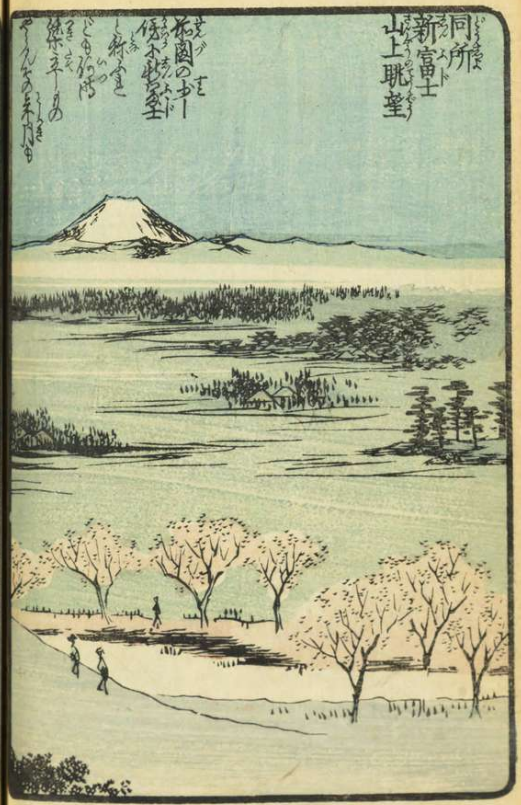


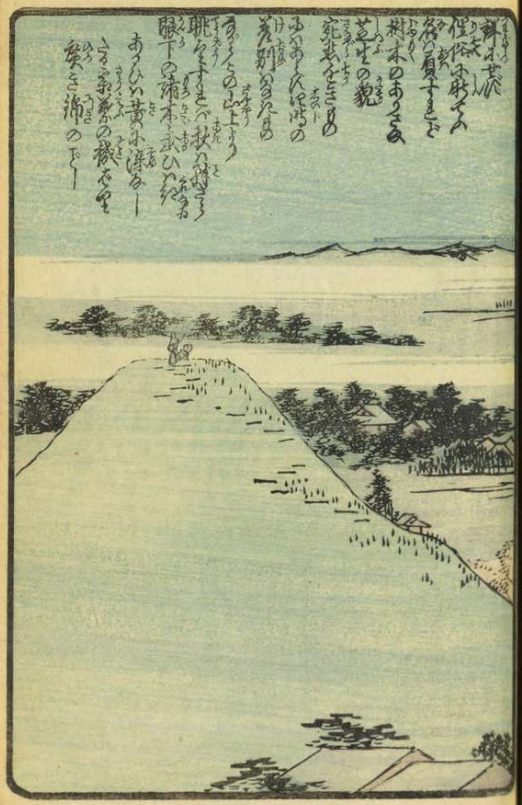
目黒元不二下道





同所
新富士
山上眺望





同其二

爺々が茶屋





月黒
千代ヶ池









其三
同太鼓橋
夕日の眺



四方眼下遠く
晴渡る十松の
あくさ久しき日の
野辺小風遠さと
さ若松の小みくり沢
霞しき茶海の海苔よ
遥帆の雲入海うし
夏ふ仕度の
侍あを



大井の原

荒川の向岸場
より西北のかた
入間大井村へ
行道あり
夏ふとう糸野
あーた



再出とそんな
御殿山
當時の
さま



鶴ふの図と
出る海苔猿の
ふしぎ
大津ふ
汐干狩物
くさのこのたと
みのさる苔ふ
めと今
図て参考の
便とせん

品川
洲崎
弁天
の
芝浦
眺望

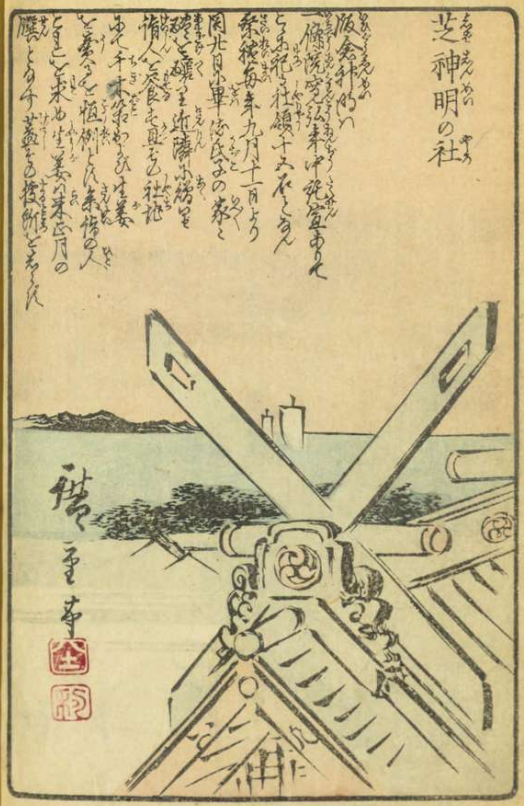




芝増上寺




同所
某洲ノ落雁
天の社



東都書林

芝神明前　岡田屋嘉七
同　所　和泉屋市兵衛
日本橋通三丁目　須原屋平助
山城町　摂津國屋東次郎
四谷竹町　三田屋喜八
下谷池之端　東國屋長兵衛
神田三島町　梅津勘平
銀座四丁目　本屋又助
親父橋角　山本屋平吉
芝神明前　佐野屋喜兵衛
淺草寺地内　近江屋太吉
馬喰町二丁目　菊屋幸三郎板

120
10
84



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

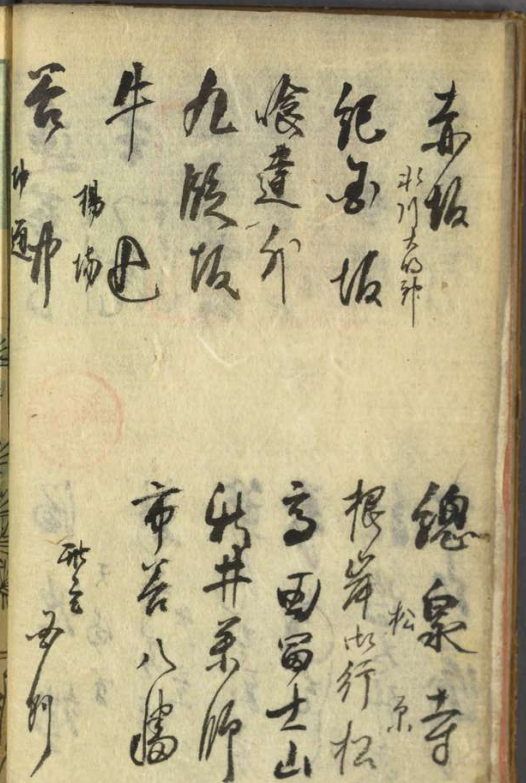


国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84



国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84

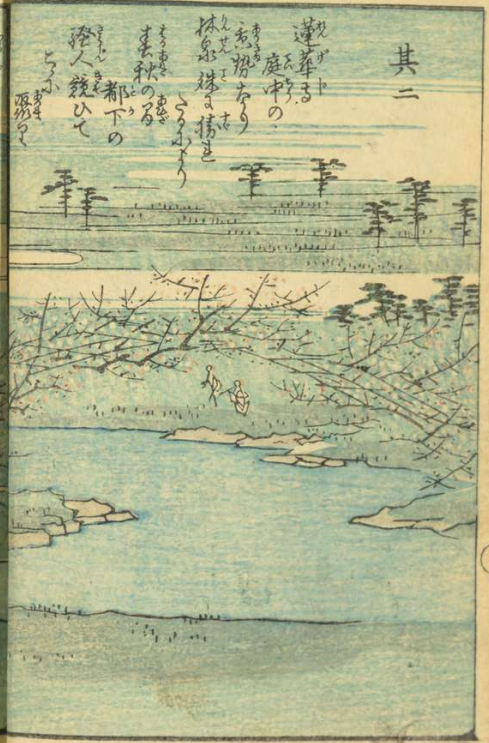




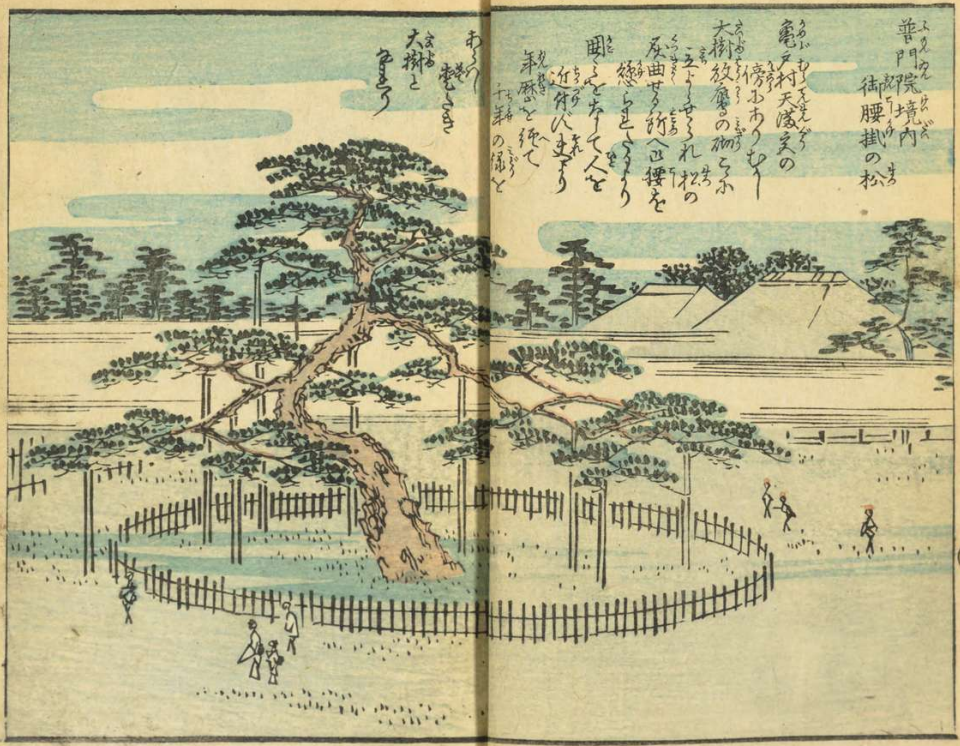
国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84



其二



国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84



国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84

三圍稲荷





国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



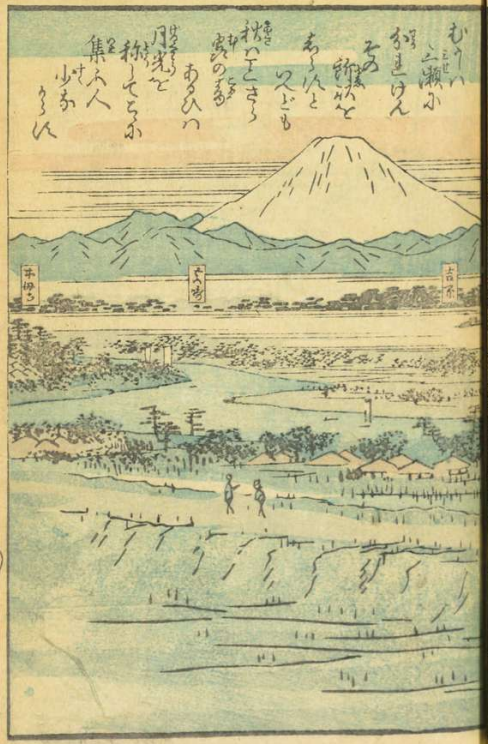


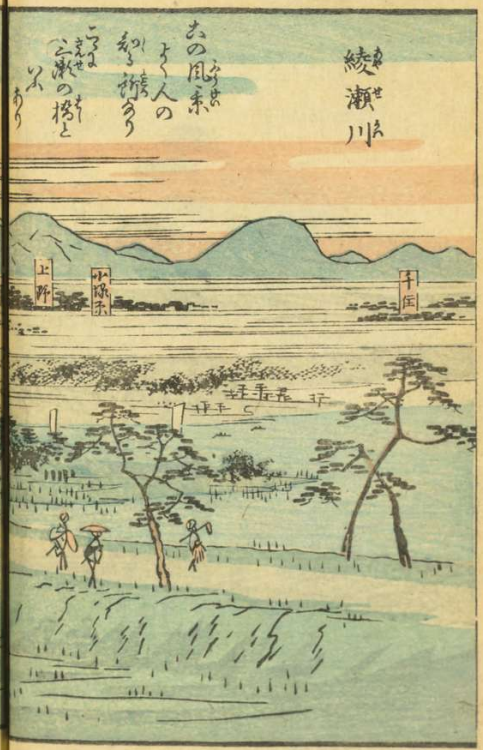
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84





国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84





国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

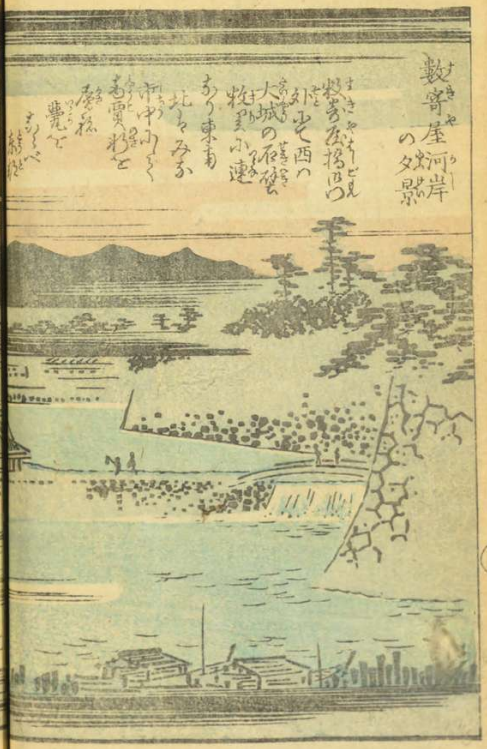




国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84

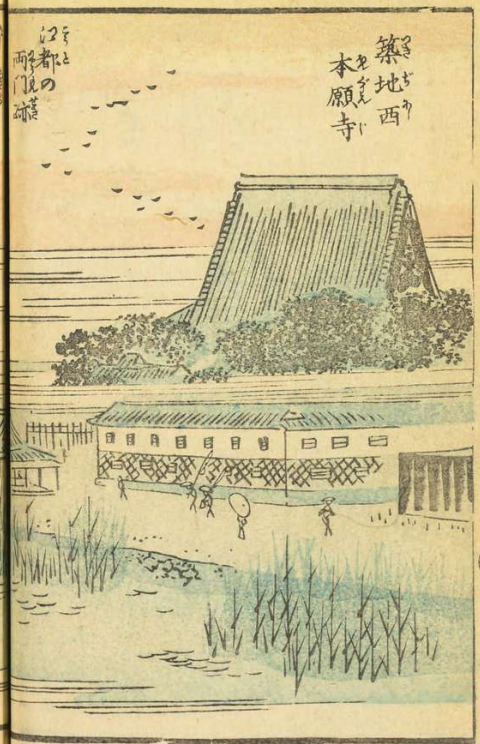


數寄屋河岸の夕景

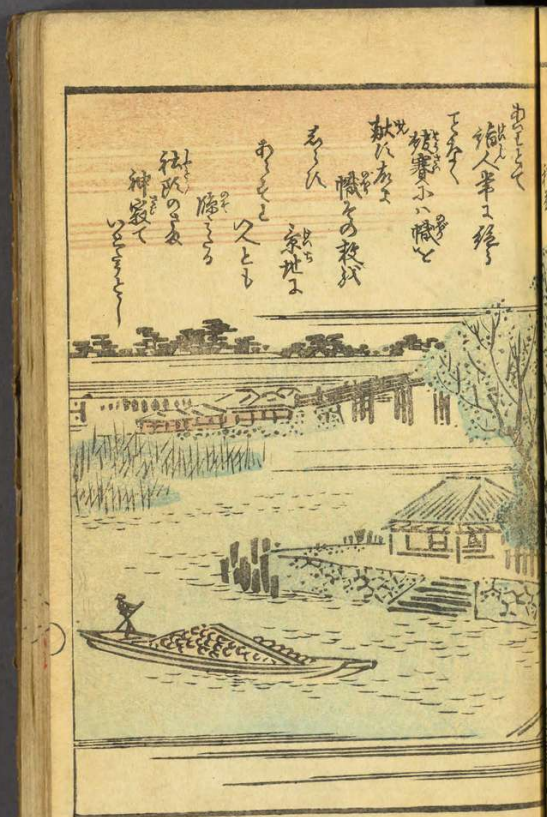


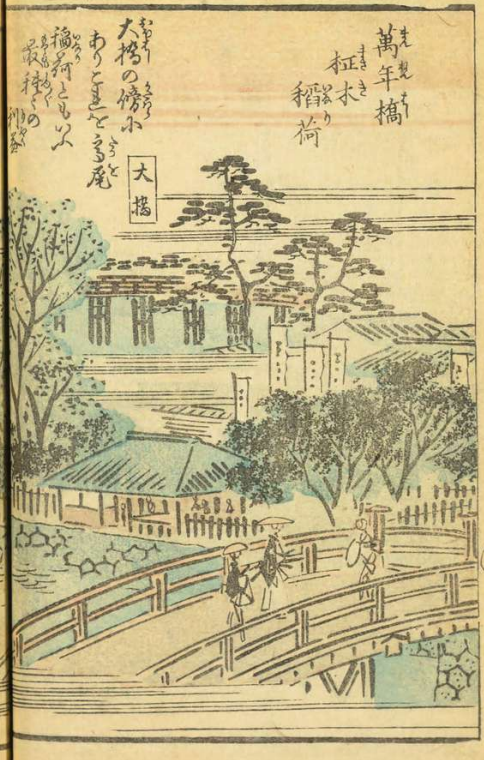
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84





国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

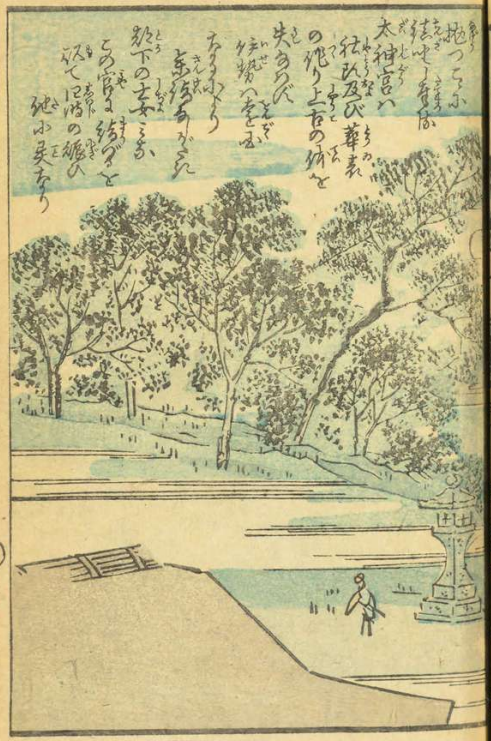




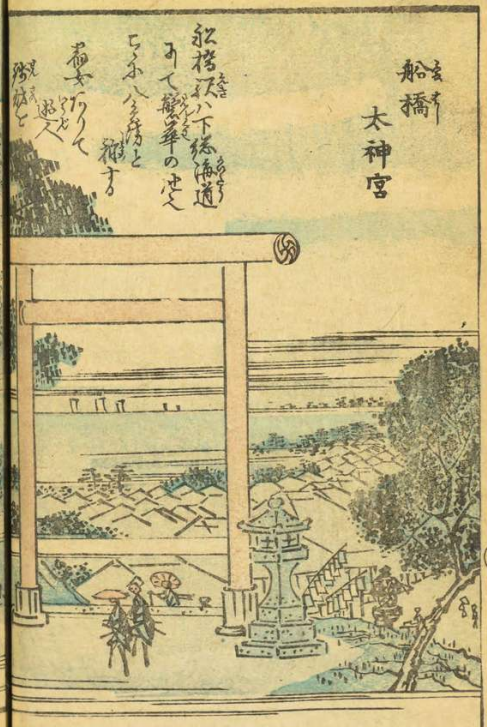
萬年橋
柾木
稲荷

大橋の傍ふ
あり。ここをうる魔
橋あり。ここも又
橋あり。

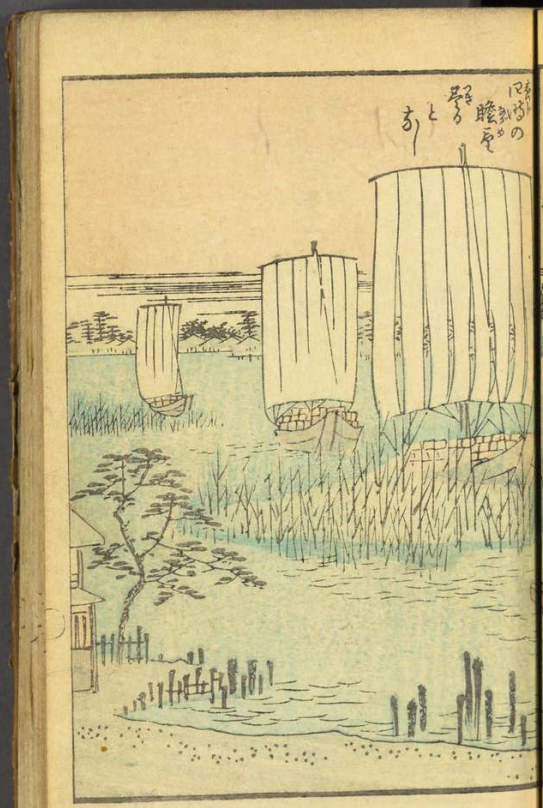
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



船橋
太神宮

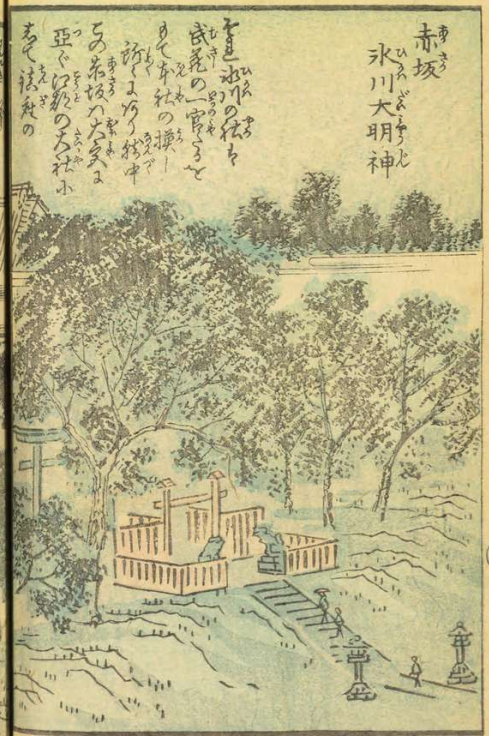


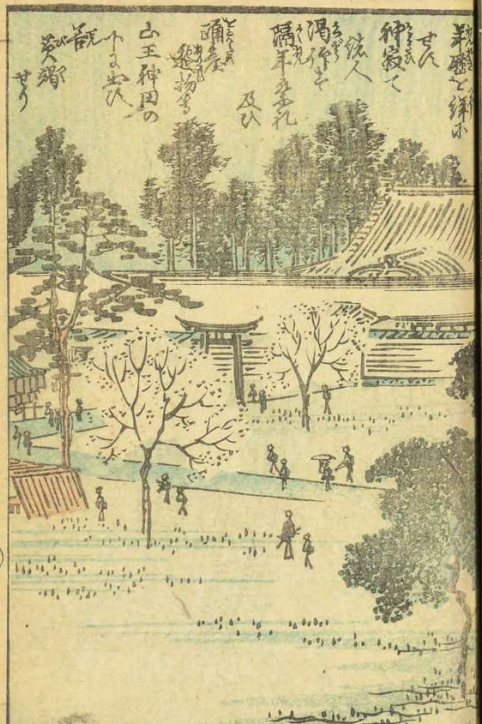
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84





国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84


赤坂
氷川大明神



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

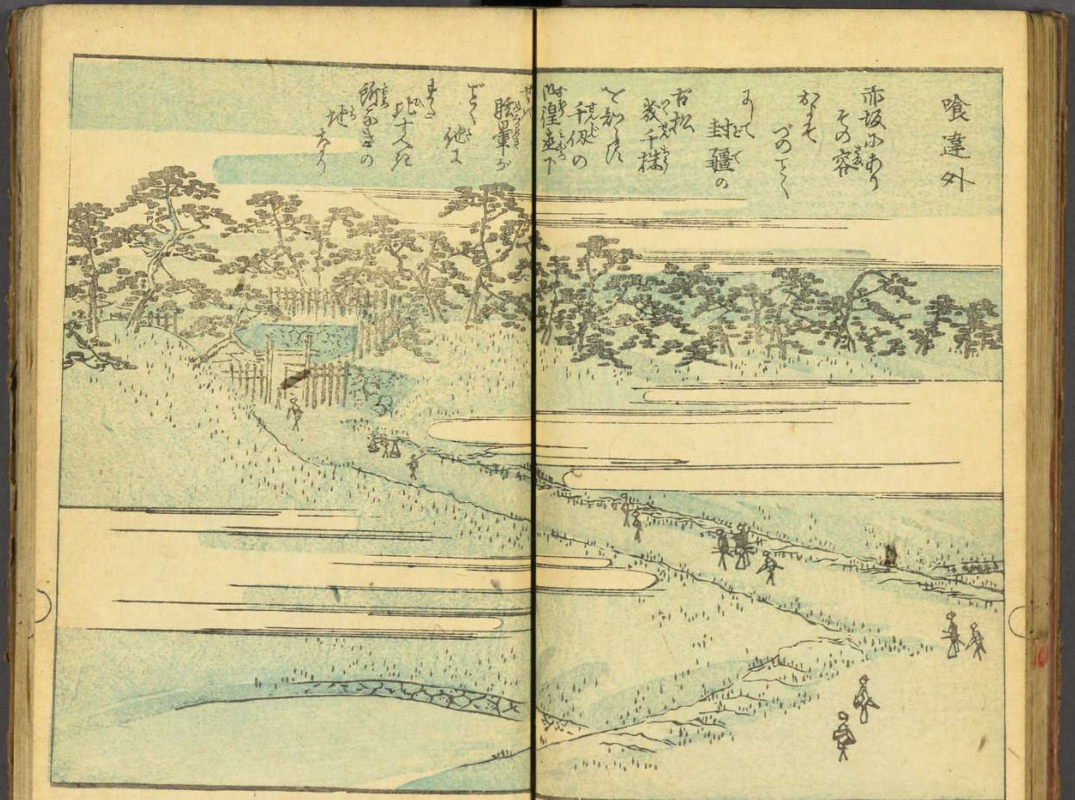
紀國坂

赤坂口の外
紀州侯の
御屋敷の前より
この坂
遠近
眺望よろしき方





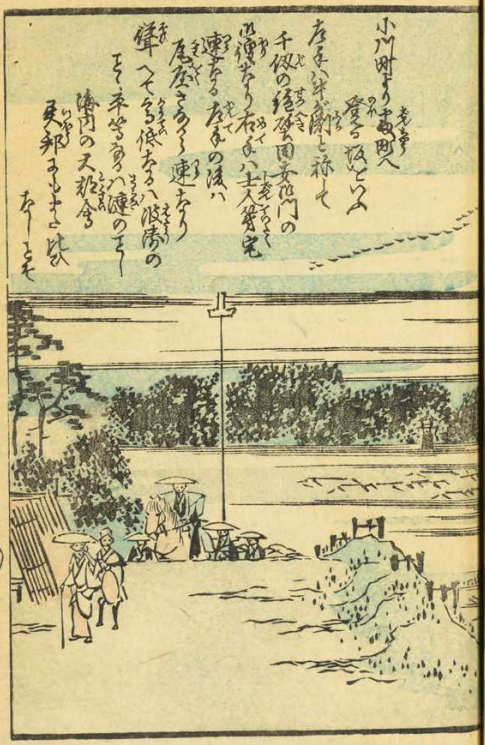
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



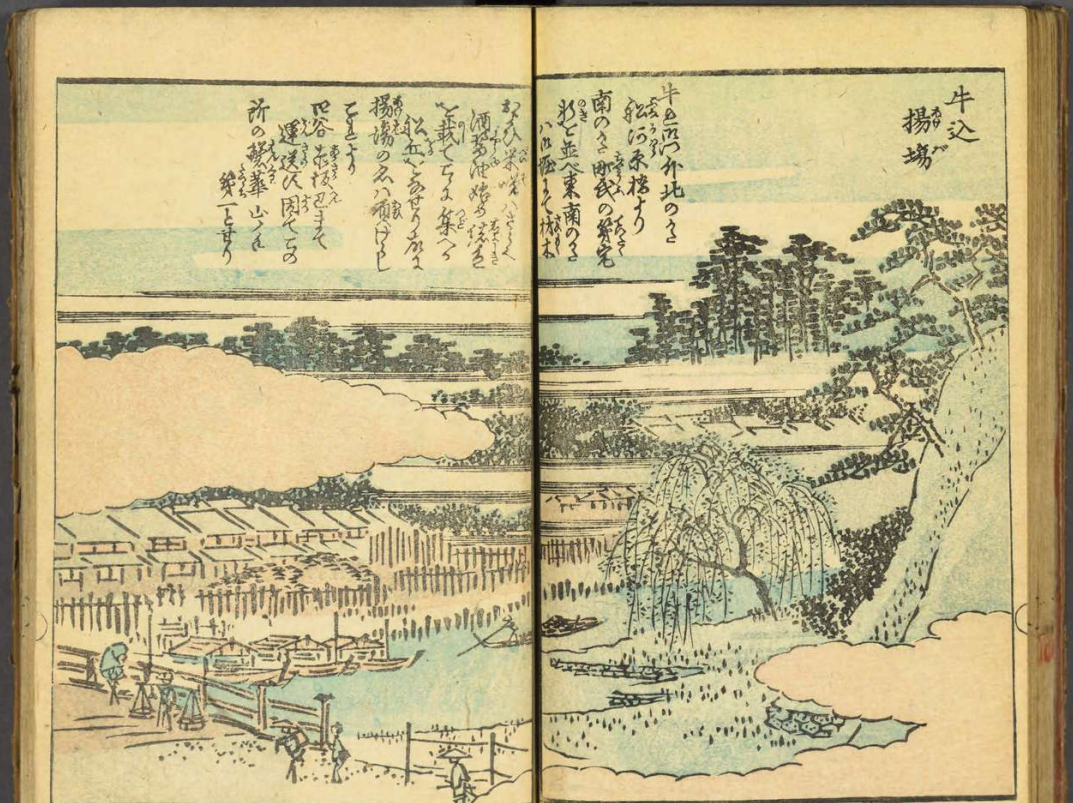
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



九段坂
下門の
眺望



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

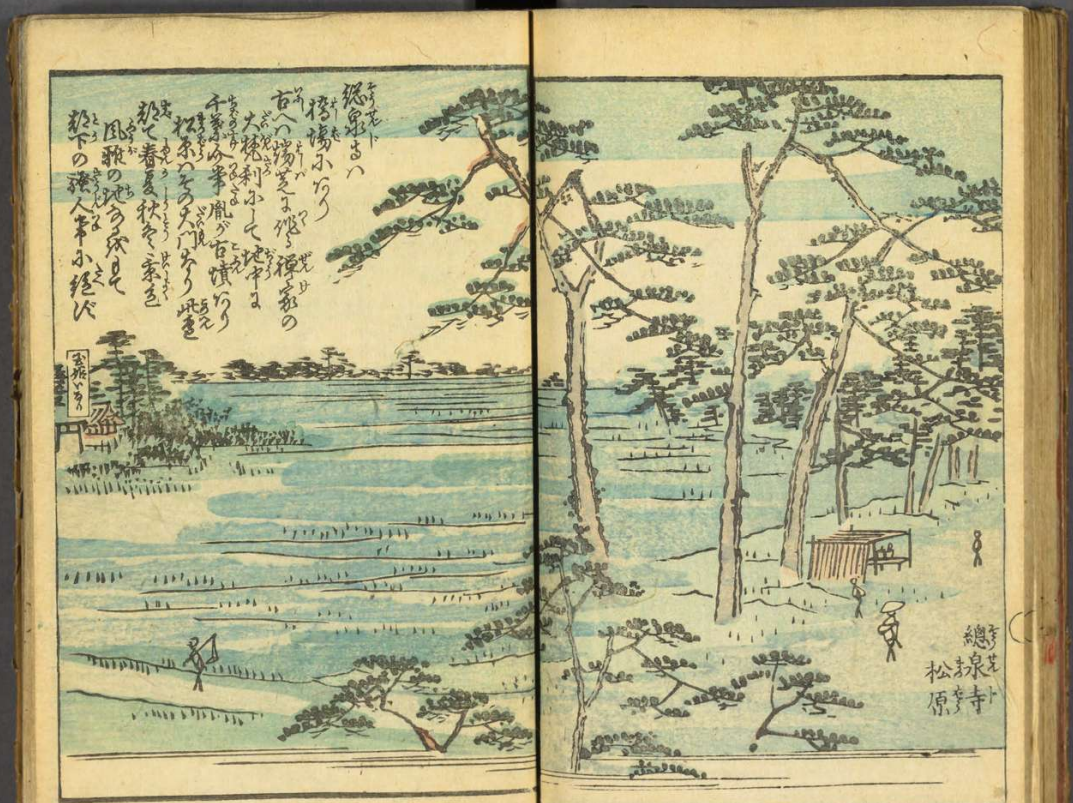


国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84





国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

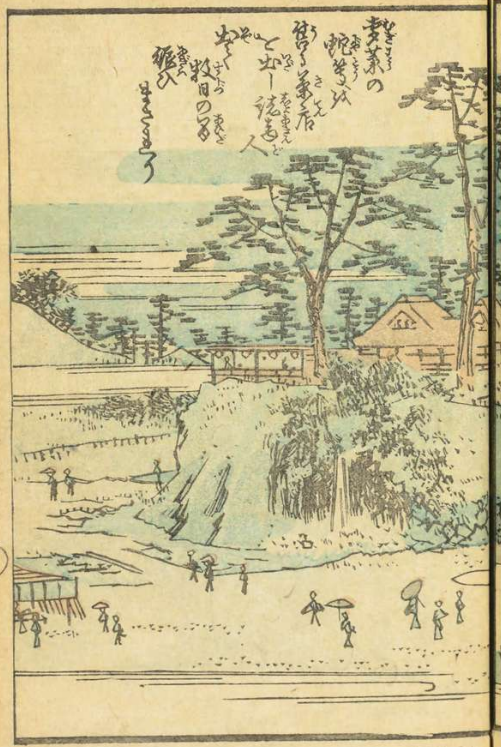


国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



根岸の里ハ上野の北の
林ひて風流更に
他あるべうもあらず下の長者
世を遁てこゝに隠遁するも
多く御行の松のあたりなれバ
ゆかしくさをう家地ハいうまれと
貴あの風雅を慕ふこゝろのわれわれ
う松とそあめ幹七尺ばかりきく
てやう生ひ茂りあり枝葉
暑きをいとひ

国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84





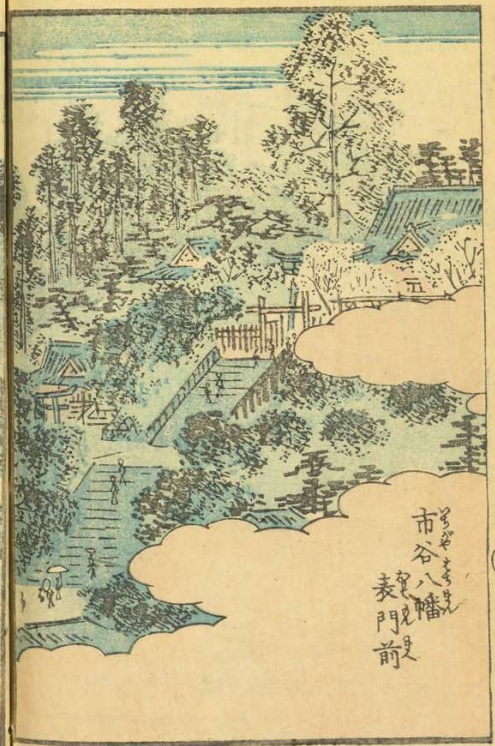
国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



市谷の總社ゆかしき殊よ
ろしき社なり境内も茶の木稲荷あり
石階の左右にも茶の木を植そのさまのう
市谷門外小石川牛込への往来なれバ
常に旅客の人通多し



市谷八幡
鳥見
表門前

国立国会図書館　絵本江戸土産　10編　120-84

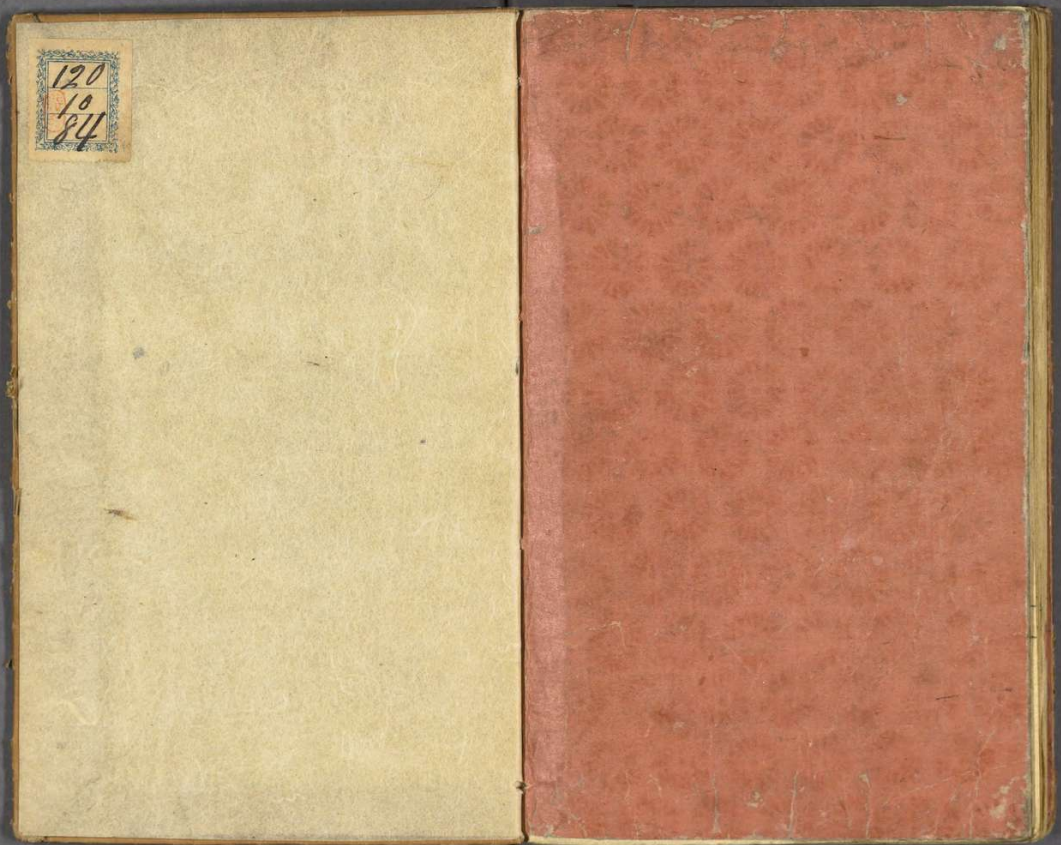
江戸川の鯉

東都

日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同二丁目　山城屋佐兵衛
同　須原屋新兵衛
同四丁目　須原屋佐助
芝神明前　岡田屋嘉七
同　和泉屋吉兵衛
同　和泉屋市兵衛
浅草茅町　内野屋彌平治
横山丁三丁目　須原屋伊八
馬喰町四丁目　和泉屋金右衛門
同二丁目　吉田屋文三郎
人形丁通衆物町　菊屋幸三郎
　菊舎幸三六

書林

国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84



国立国会図書館　絵本江戸土産 10編　120-84

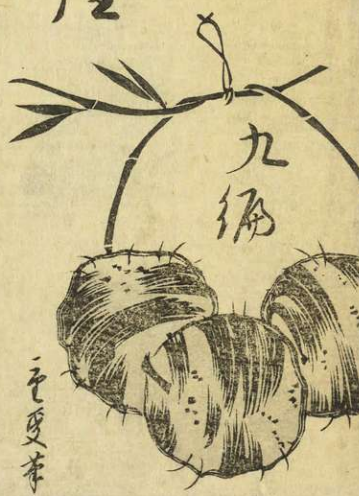


繪本江戸土産

九

120
10
84

駿府 江戸 土産



重要書撰

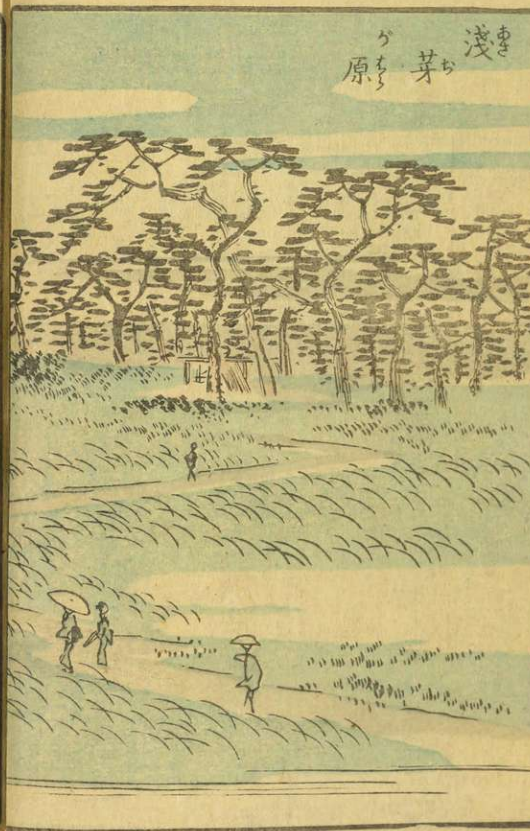
淺茅原 越谷 千住 西新井 壺子坂 小石川 傳通院

護國寺 目白不動 池袋 雑司ヶ谷 大久保 戸塚 四谷 喰違 赤坂 遠寺


妙見の支ハ前編ふ出
此松ふ白蛇の住そ
時々く形を
見する支ふ仍て
松ふ注連を張り
繪馬を納めく
祈願るもの多ー



妙亀比丘尼の
旧跡ゆゑ三谷より
橋場へ往の道多
鏡ヶ池今ハ存せ
野客の閑情を
慰むべきの地多



浅茅ヶ原

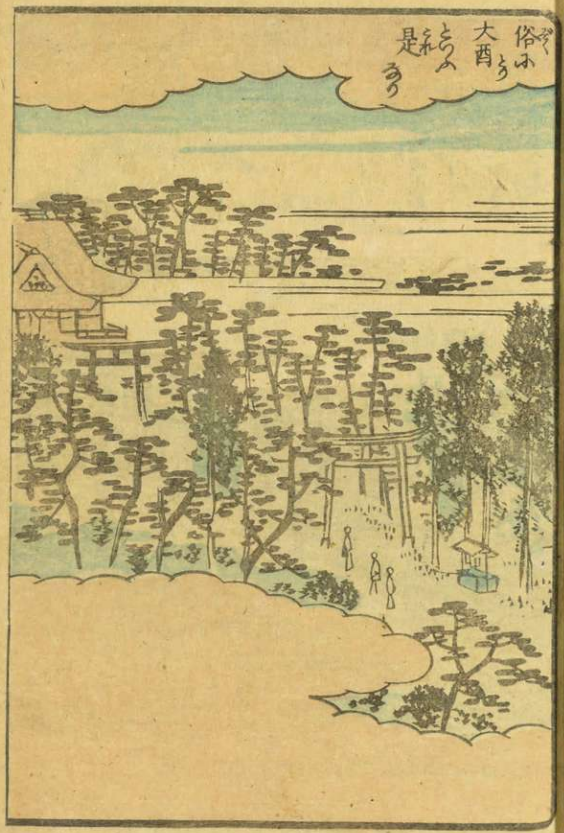
越谷

鷲大明神

鷲大明神ハ江戸を去る東四里余り常に賑ハさる見所もあらねど霜月の酉の市ハ運を開くの神とありて江都の者ハいふも更なり近郷挙て群参を

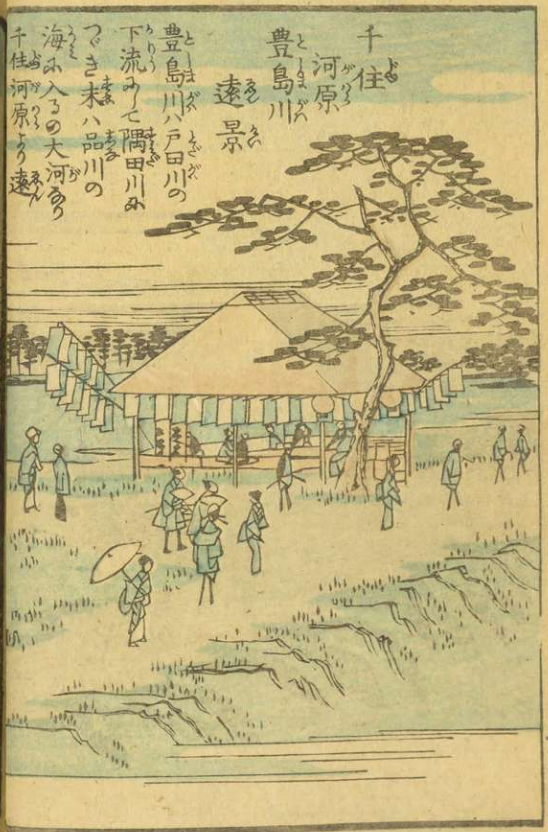


俗ハ大酉とも云ふ是なり



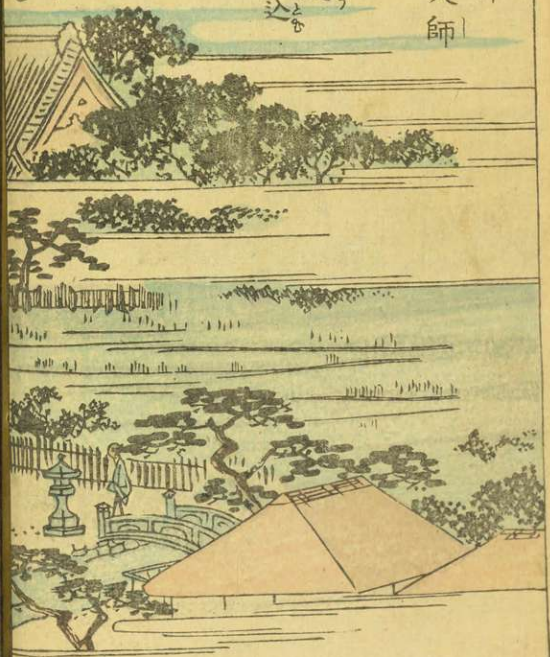
千住河原
豊島川遠景

豊島川ハ戸田川の下流みて隅田川ゟつき来ハ品川の海ゟ入るの大河ゟり千住河原ゟり遠望まるゟ屈曲そ最妙ゟ画者の筆ゟそ尽ーざるゟん欤



西新井大師

西新井ハ千住街道より西へ入込こと半道許り常に詰る者あまたこの日を縁日と



さてく参詣おびたゞし



團子坂茶亭之圖



團子坂ハ谷中のうちゐも小高き地ゐて風景よし四時ゐ騒客安き後運べる中ゐも別て九月の頃ハ此あたり一面種々の菊を作りもて春ゐも増てまれびと賓客多し





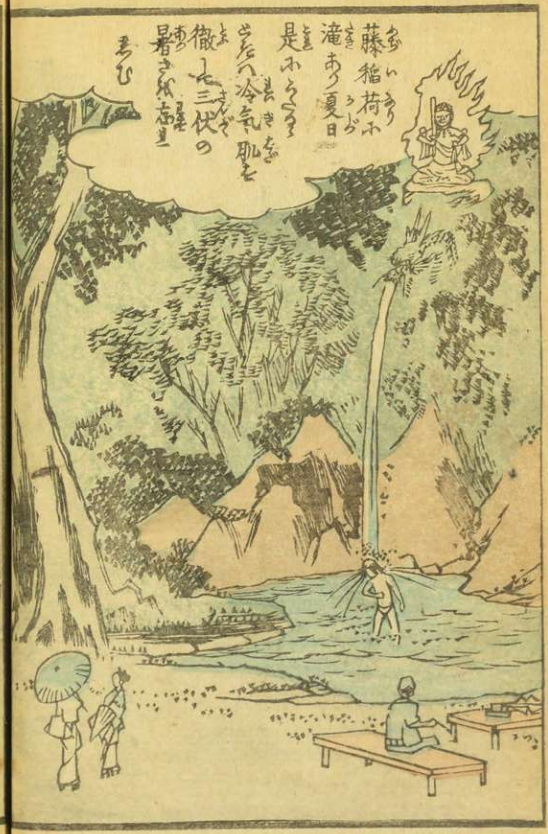


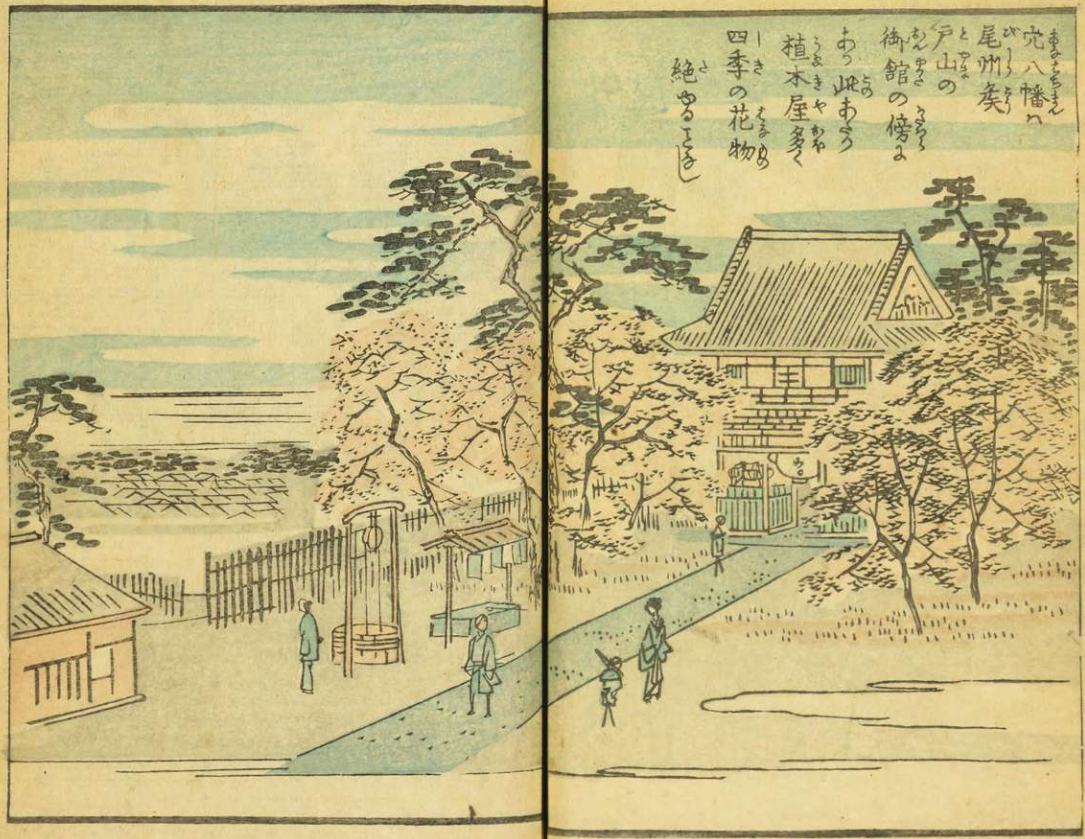
碑川傳通
院内る
大黒天ハ
本堂ゟ
對ひ
左りの方
ふあ利益
ろも験
を甲子
の日ゟ
別て
参詣
群集す

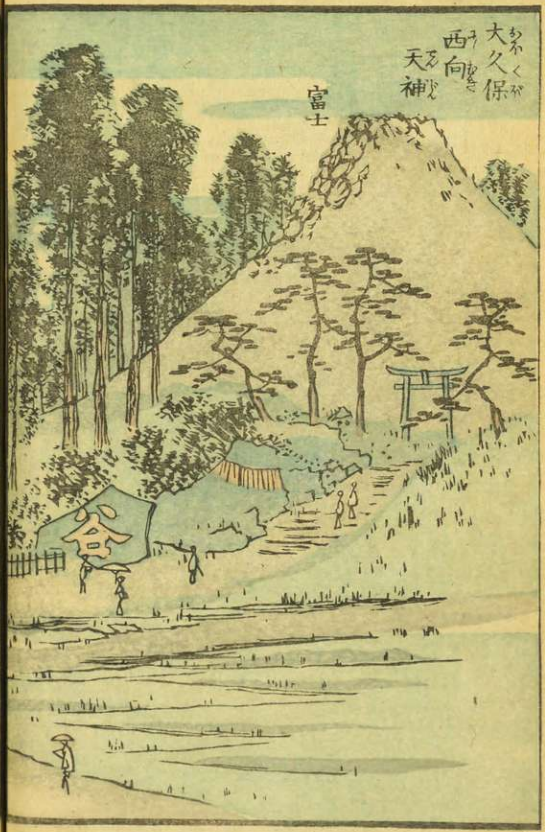
護国寺は関東真言の
四ケ寺の一にて本尊馬頭
石の如意輪観世音月ヘ
唐土の請来なる
よし寺領千余石
とぞうんさんに構内
廣くして珠數の
躑躅花あり
季春の比は
色を争ひ
いと艶なり


目白不動
目黒と
高き丘
眺望




藤稲荷の
滝あり夏日
是ふらくる
撒し三伏の
暑さも


穴八幡の
尾州矣
戸山の
御館の傍よ
あつ此あたり
植木屋多く
一さの花物
四季の
絶ることなし

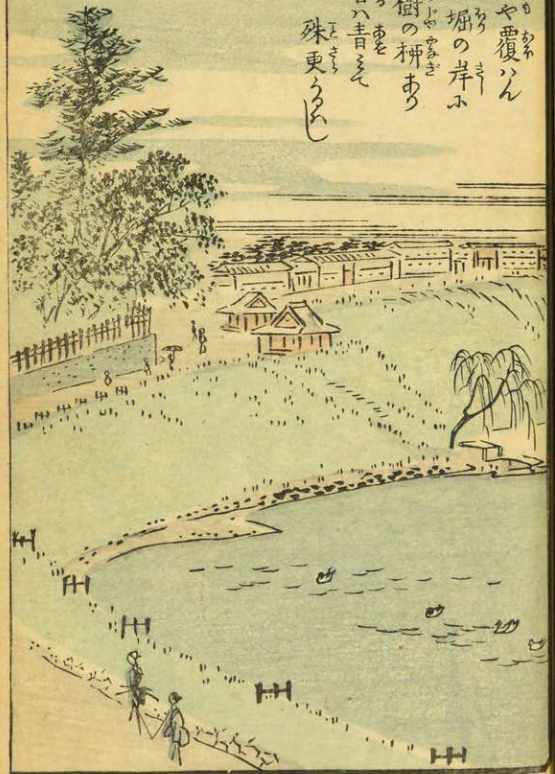

大久保
西向天神
富士


神躰西を向せ
給へ故にその
名あり傍不二
の形せ
山ありて
風景
面白し

外櫻田の
諸矢の弟宅
豊竜をうた音ふ
聞へ一霞が関
あかりの佐保姫が



衣や覆ん
御堀の岸ふ
一樹の柳あり
春ハ青そ
殊更うるし







喰違外
赤坂遠景

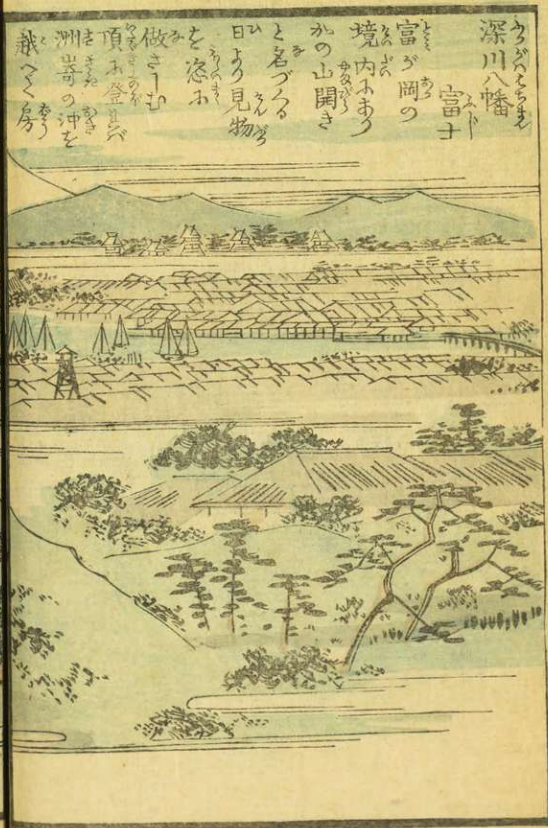
是より西ハ
総て地高き
所多く俗ふ
山の手とゝなれ
ども凸凹ありて
得も尓ハ見ゆ
遠望なりその
詠め又一入なり

四ツ谷
御門外

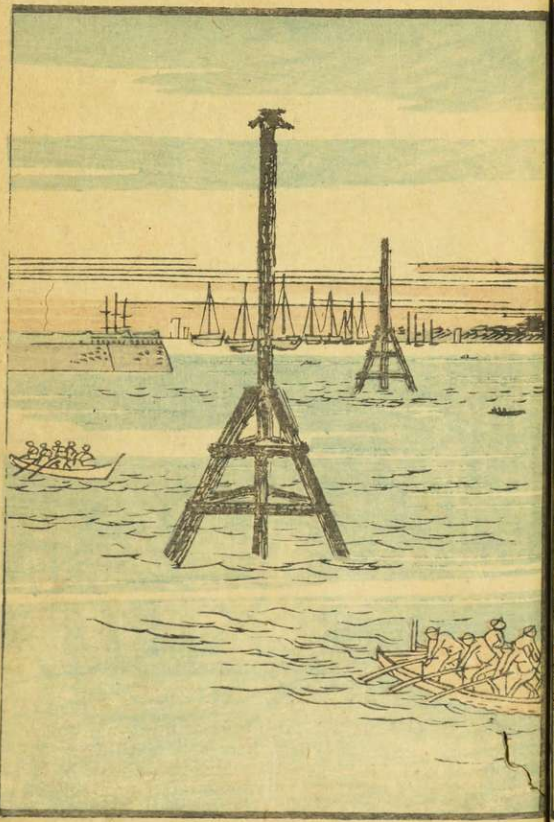
大城堅固ゐ
ーく外ゐ万戸の
商客住む支
何まのロも黒ゐ



ねど別て甲州
街道より入るの
ロゐそめの玉河の
上水を引の大樋
あり千歳不朽の
御仁計仰ぐ
べく尊むべし


深川八幡
富士
富ヶ岡の
境内より
かの山開き
と名づく
日より見物
を恣
做さしむ
頂ふ登りべ
洲崎の沖を
眺くる房


總の
山をも
遠望
うさしむ



芝浦
御濱沖
遠く船より
詠むるの躰
實や岸辺の
生ふる松の自らぶ
屈伸した龍虎の
名空しく見ゆ

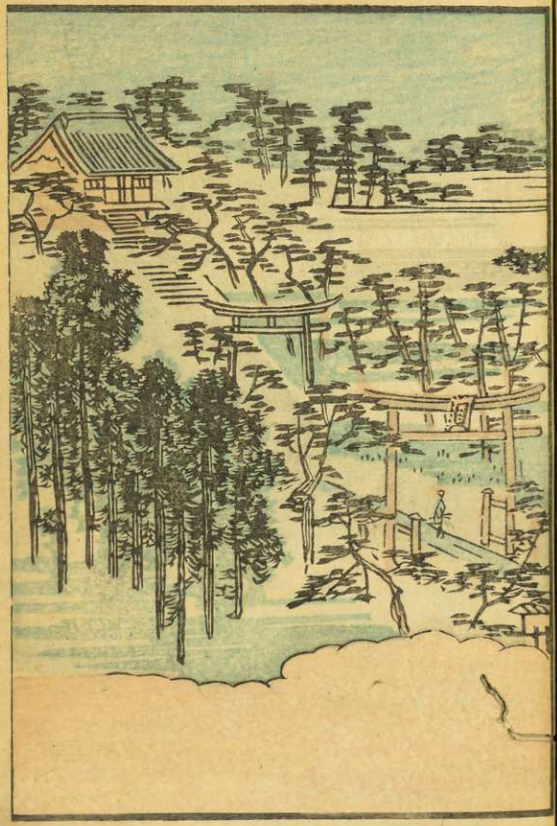


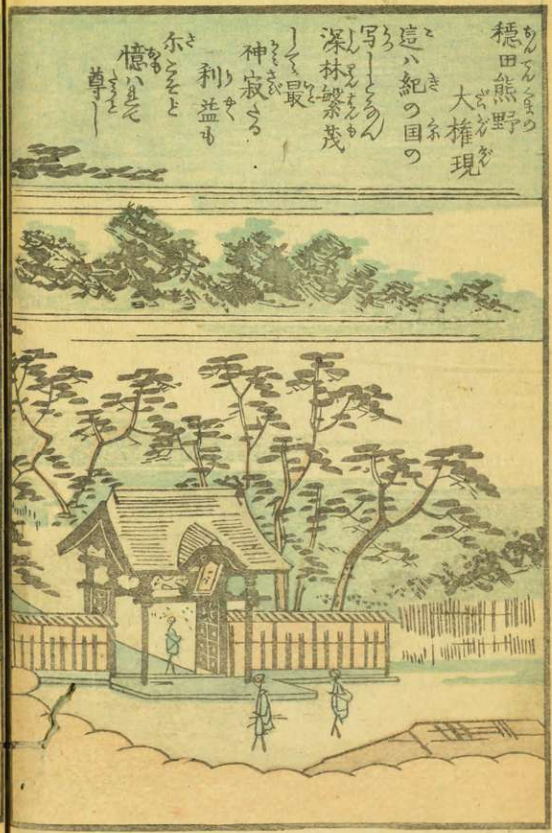
赤羽根

増上寺の西南の
當りてその地曠く
晴やかなり山み
若葉のまさる頃ハ
郭公屢啼て
川辺の螢の飛ふ
るゝ別て哀をぶ
よしとぞ


名ヤ
渋谷
金王櫻

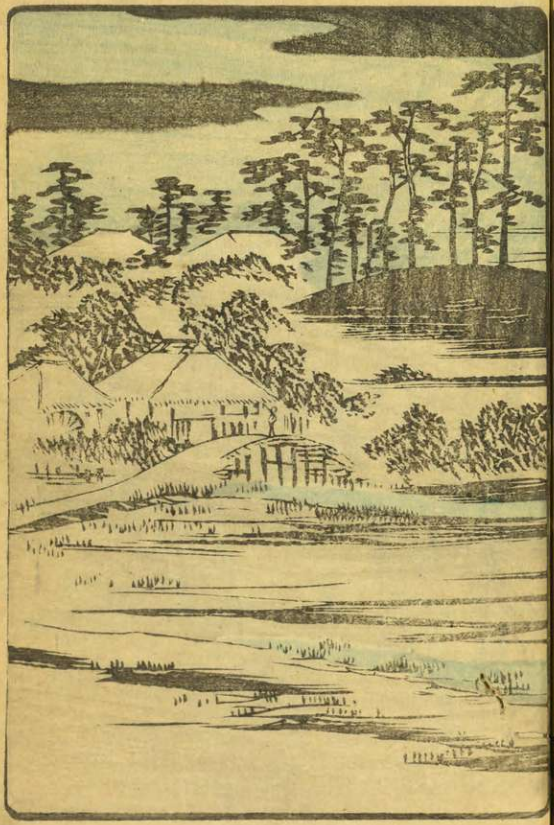

江都ノ
ホトリニ於テ
名木ノ
聞ヘ最
久ク春ニ殊更
爛漫タル
花ノ下ニ
一歌ヲ
ムル者
絶ルコト
ナシ



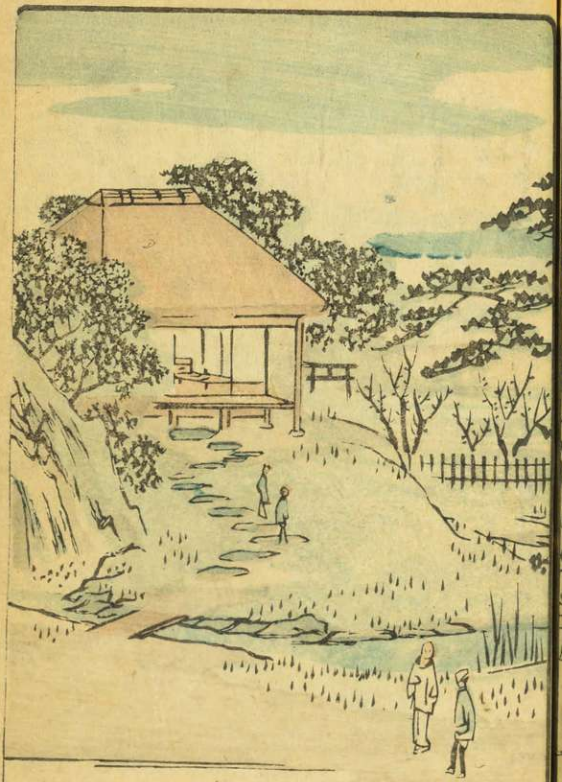


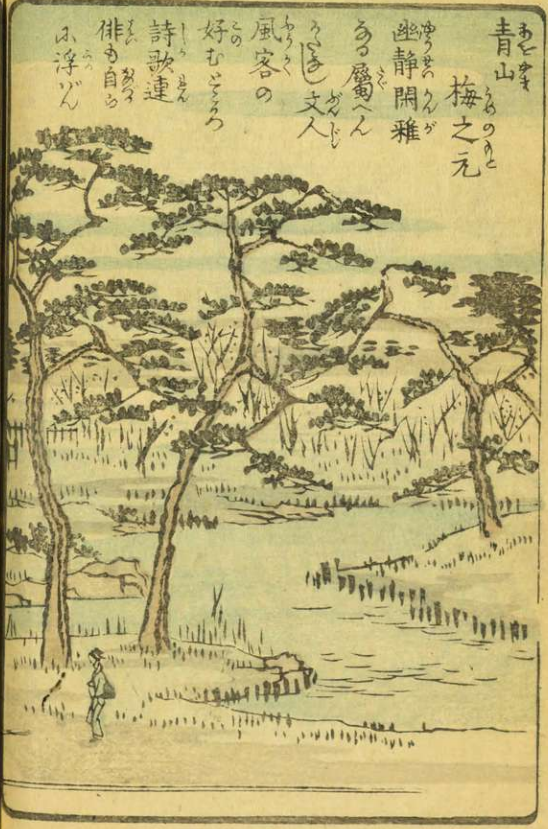
穂田熊野
大権現

這ハ紀の国の
写しなるが
深林鬱茂
して最
神寂る
利益も
尓こそと
憶ひ
尊し

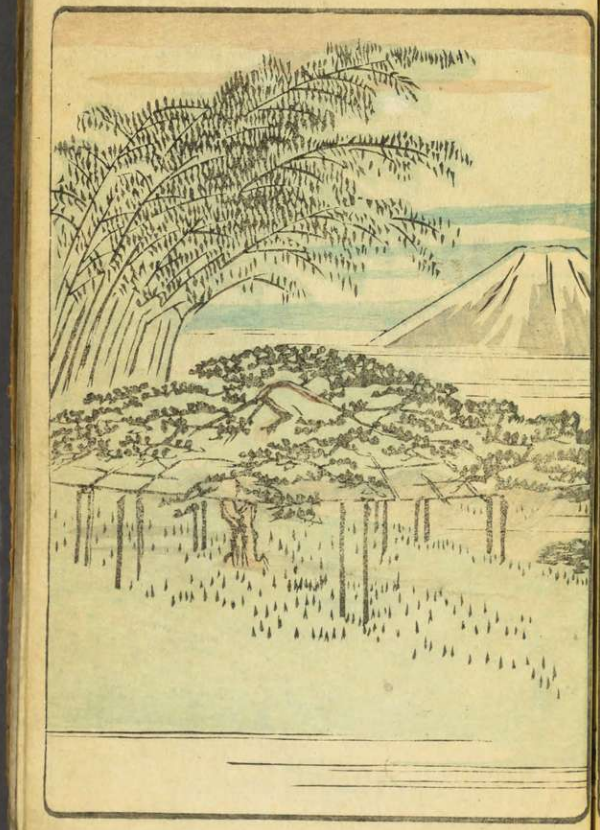



あたゝかそうに
青山稔田此四辺
半農半商うち
交りする地ぞ最
曠々うら春の
野うみ出
忽地気鬱
を散ぜ





青山
梅之元
幽靜閑雅
る屬へん
文人
風客の
好むところ
詩歌連
俳も自ら
浮ん




青山
龍岩寺庭中
最風色よし別て一樹の
松あり彼浪花屋の
庭前より勝る
案内を乞ふ
一見あるべし



仙壽院

這処を新日暮と
いふ前に出せる竜岩
寺より遠うらねへ
杖の庁みやこえんや
春の日の暮るを
忘て勝地
ありけり

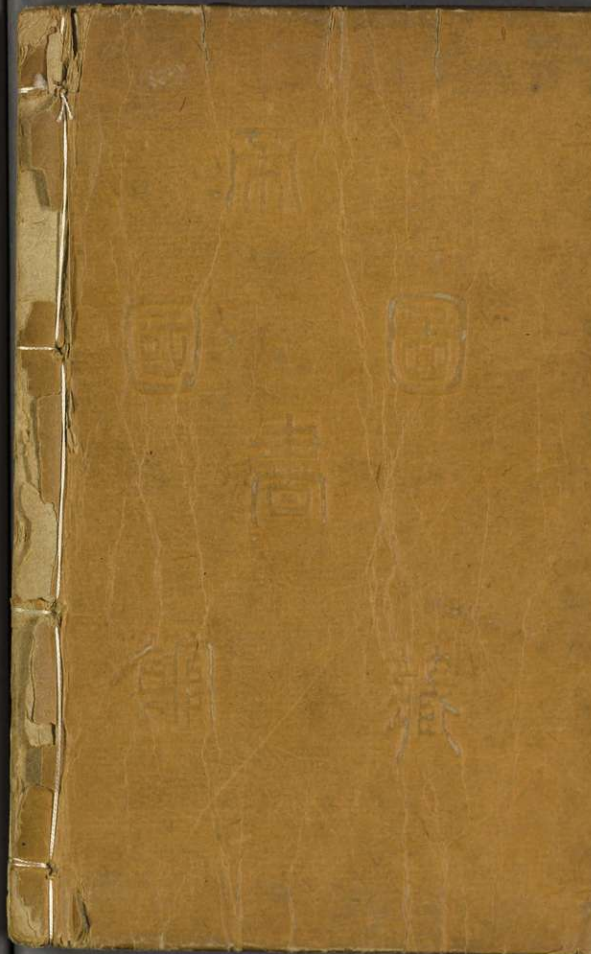




東都書林

日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛	
同　貳丁目	山城屋佐兵衛	
同	小林新兵衛	
同四丁目	須原屋佐助	
銀座貳丁目	山城屋政吉	
芝神明前	岡田屋嘉七	
同	和泉屋吉兵衛	
横山町三丁目	和泉屋金右衛門	
浅草茅町	須原屋伊八	
馬喰町貳丁目	森屋治兵衛	
同	山口屋藤兵衛	
同	菊屋幸三郎	
人形町通貳丁目	菊舍幸三六	





繪本江戸土産

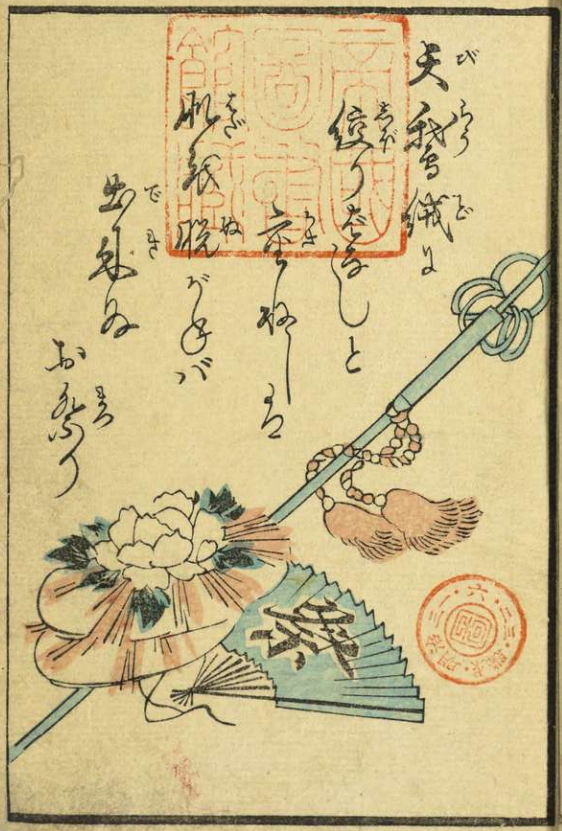
十

止

120
10
84

120
10
84

續本江名士產十編


大判錦絵
絵つきさうしと
おもふなよ

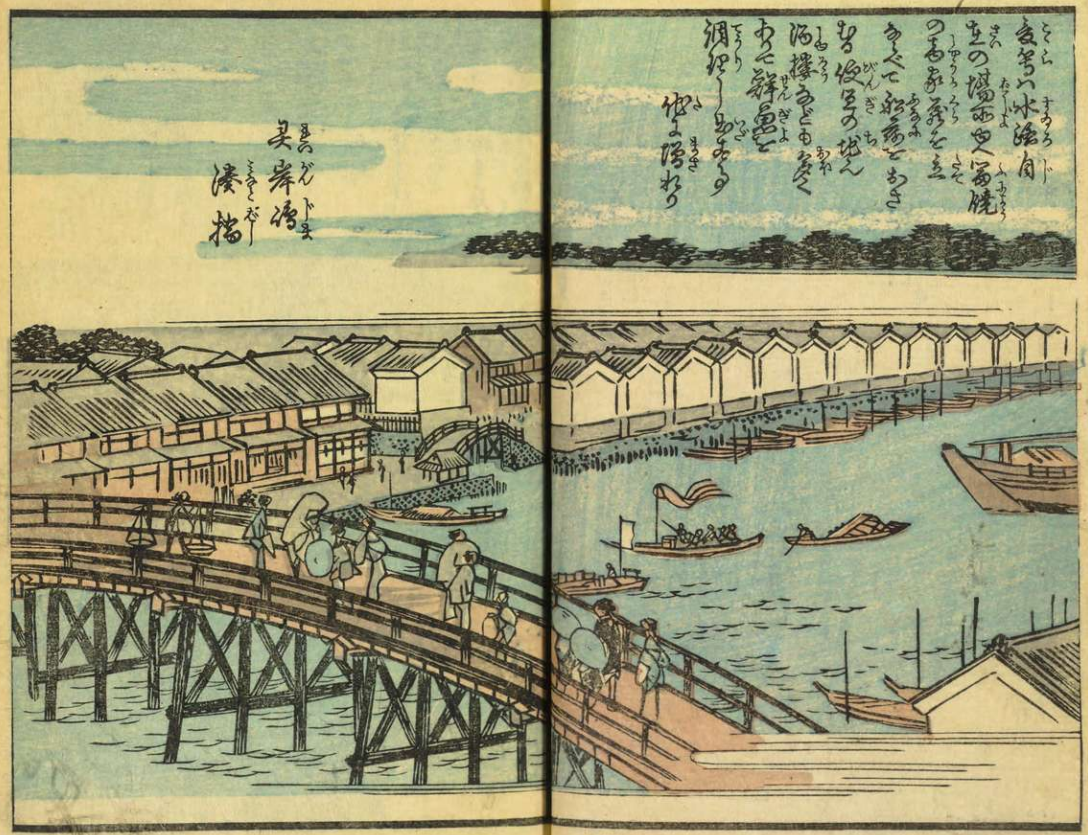

江戸土産
十編
廣重筆
金幸筆様

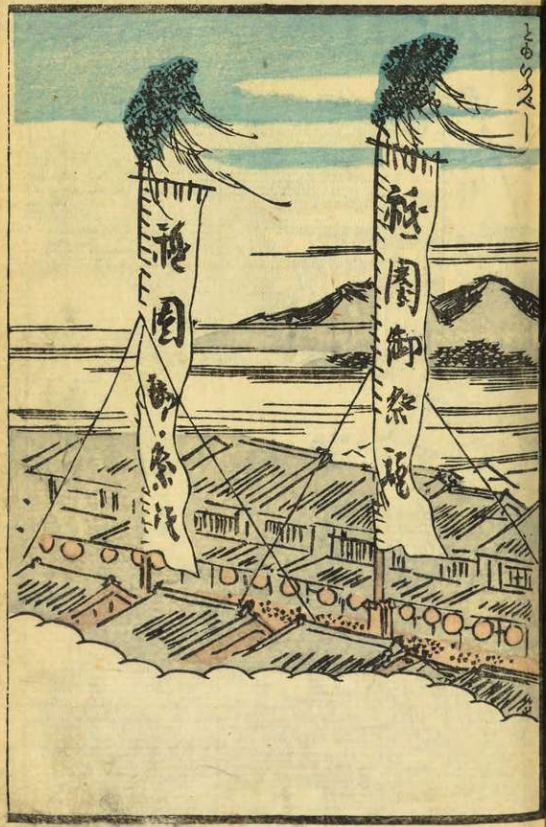




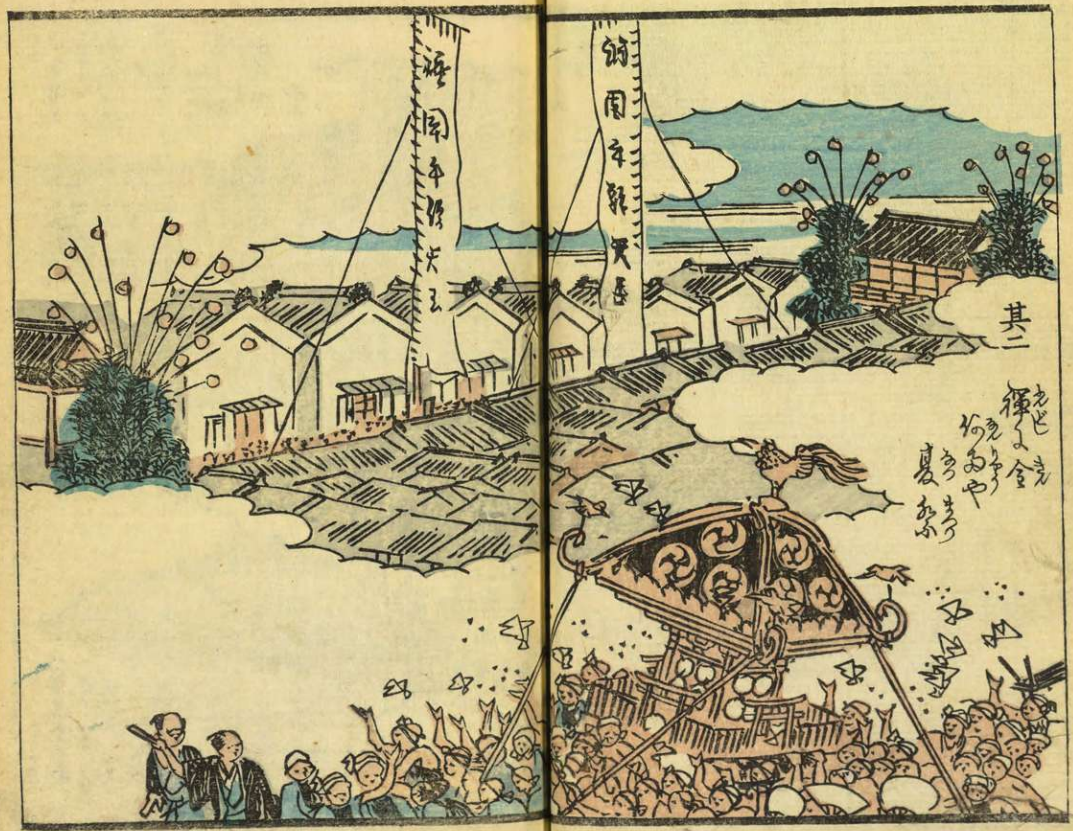


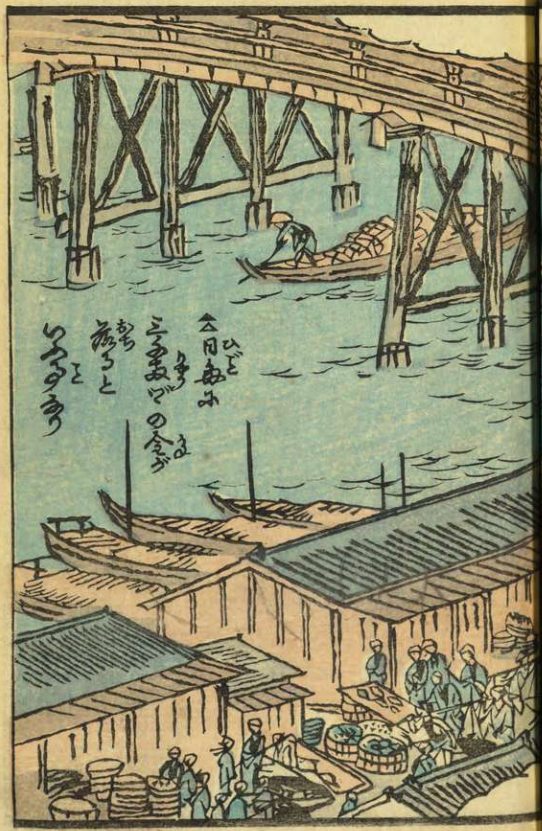

きんこうぶん
山王権現の秋田領秋田家一ぞく是を
ぜんよう
修よう天下
まもり
しゅうりょう
上様御ありさまれば五ぞくの
ごぞくがた
名ある
なのござ
ぶしたち
武士
ぶし
そのさまを
書
かき
あらわ
あらわ
六月十六日みこし


吳岸橋
濱橋



どづる　こうと　すゝめ
牛頭天王ゆかりの靈社
あり大伽藍町南北の町
とぶらふこゝろもしげ
小五十ばかり社あり祠四
明神の社内より祇園
まつる事すべて洲崎
にあるを以て千社
小塚ある町うど
いづまも六月を
祭礼とせり
天王のあらそひ
礼儀よく男子名
あり色







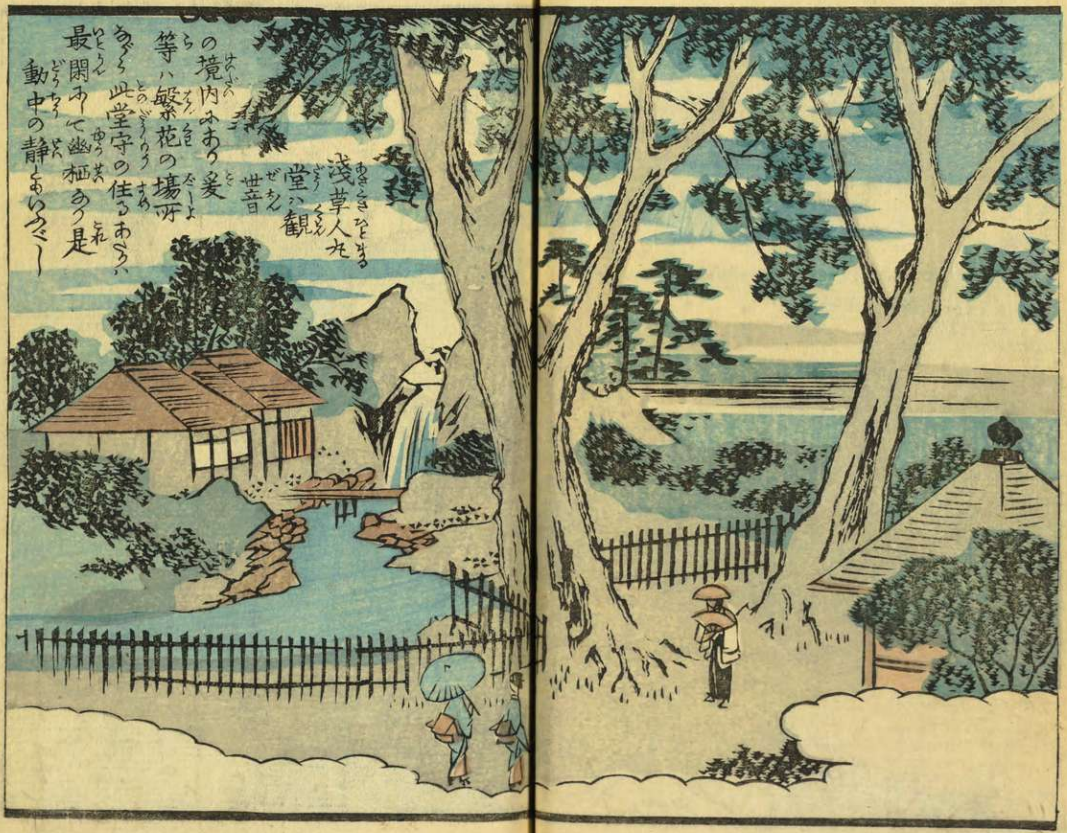

佃島ハ
白魚の
名所ゆゑ
毎日
漁家
許シ少
妻子住吉
大明神を
祭る祭礼の日ハ
龍虎の造り物を
拵へ島中を走り
めづらしと
見物おびただし

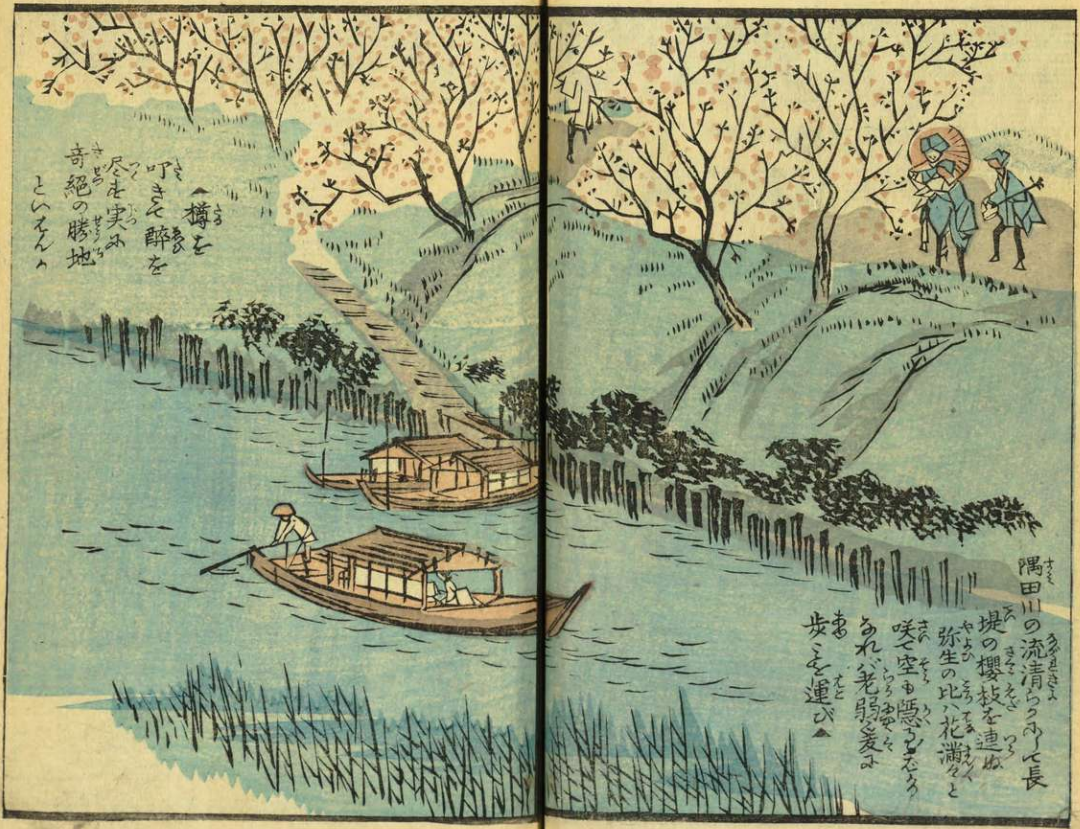


両国の晩景ハ
東武第一みて
陸ゆ茶屋々々の
くちゝ提灯を燈し一連且
水中船の透間も
なく五月廿八日より
川花火をあぐる
貴賤の群集
譬るゆ物ゟ

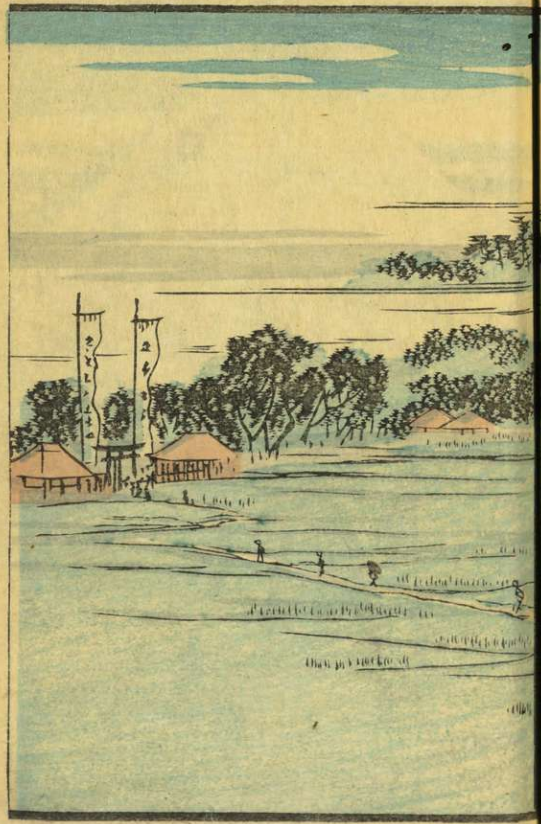


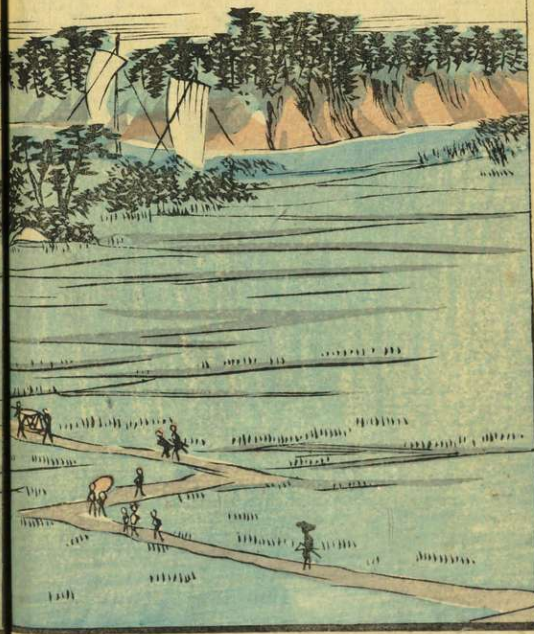
浅草観世音の
境内ぬて極月十七
十八の両日年の市
よそ注連飾の類
よう都て春待つ
料具を鬻く諸人
蟻のごく群集して
是を訶ふ

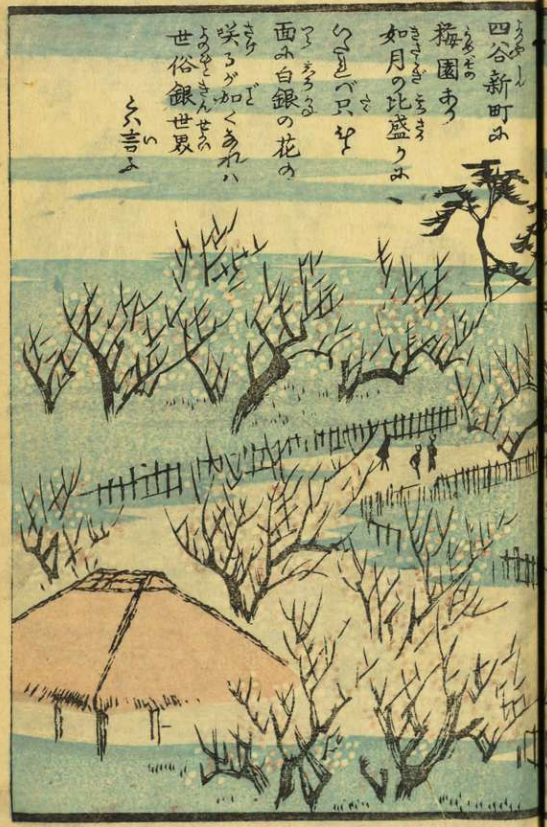

浅草人丸堂ハ観世音
の境内にあり爰
等ハ盤花の場所
なり此堂守の住るあり
最閑にて幽邃あり是
動中の静なるべし


隅田川の流清らふりて長
堤の櫻枝を連ぬ
弥生の比ハ花満々と
咲て空も愚ならねバ
あれ老若男女
歩を運び
一樽を
吞きそ酔を
尽を実み
奇絶の勝地
といえんか

帝釈天、柴又
村ふもと庚申
の日ハ都鄙の
きセ〻貴賤群参せ
利根川を
見越しの鴻の
臺の眺望
最よし






四谷新町み
梅園ま
如月の比盛りみ
ハつ見ごろ
面み白銀の花の
咲るがごとくなれハ
世俗銀世界
とハ言ふ


富士見

六社八武の
神中み
あり五月
五日の夜ゟ
六日ノ
掛て
祭礼あり六社の
田植と十七才の
少女十七人揃
ひて田を植る
其の田へ神輿を入



うつゞ
入て田を
散らふ
踏荒ふその田
翌朝ふられバ基
の如く生揃ふとぞ



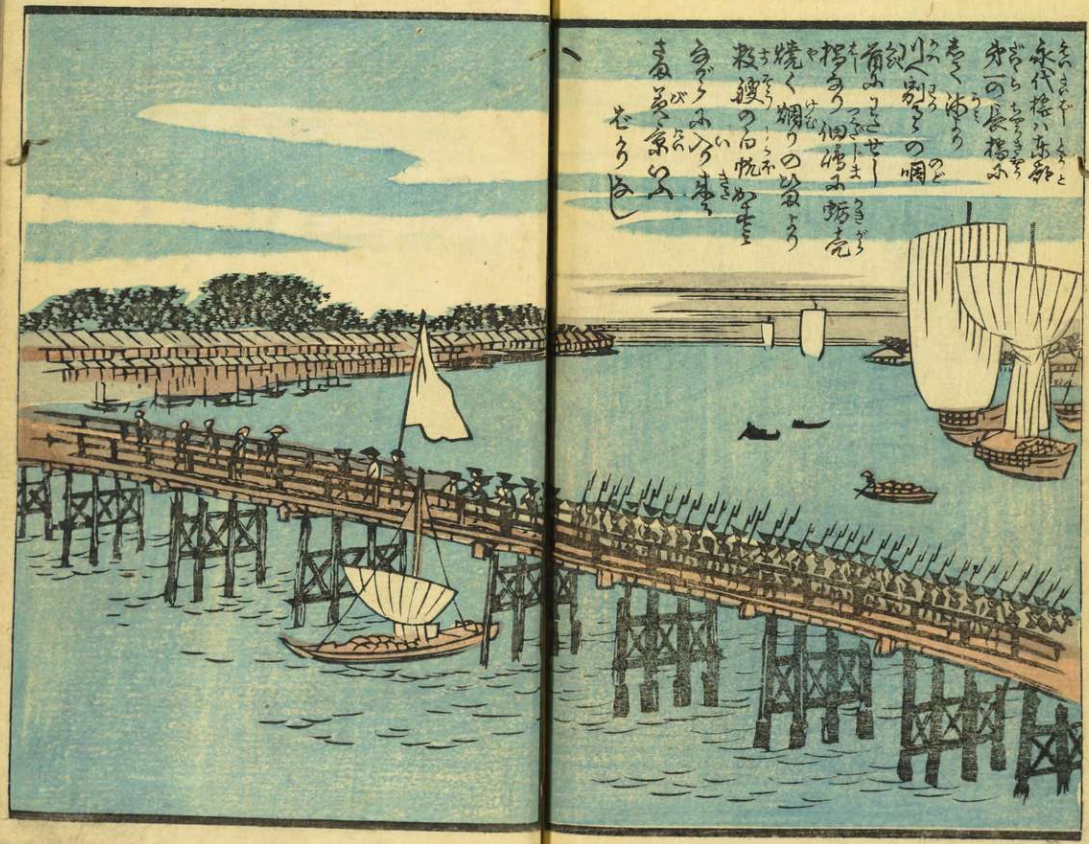
調布や晒す垣根と詠じるかの玉川の
中流をあるく舟
渡って越すや日野の渡しとふ実や
六玉川の第一うれば
流れの清きのみ
ならず見渡す処の光景遠望目も飽かぬ
忍ぞせらる

峯の御山嶽山ハ
江戸より未申の方ゟ
當りて三里許り
最神寂て尊き
御社なり貴
賤歩を
▲運ぶゟ
利益
ゟつとも
驗
ゟそ





正月言ふ初荷を
送り遣りするハ他国かも
ある支多ゞ江戸ハ
殊更大都會史
八百八筋の町々ゟ
我おこそと先を爭ひ
飾りみじて曉頃ゟ引出す
車の音最勇ましく賑
ふ春のたゞ始とハせり







品川鮫洲大森の
おくハ都て
海苔の名所
少佳味深し
是を總名
淺草海苔と
いふ江戸の
名産なり



江戸産初編

日本橋の辺より澤蔵川のあなたの風景利根中川を経て
富が岡八幡の縁より海川の際迄を図す其相模のべさらなり
深川の海辺其の前国の梅園迄細かに写す

同二編

六郷の渡しより大師河原上図其の先は神奈
木辺の名所ばかりを図す井の江の汐干をも模す

同三編

小金井の櫻の眺望川のまた其雑司ヶ谷染物を経て
滝の川のあたりまでを図す

同四編

日本橋の辺より神田八ツ小路の事を図し上野の眺望不忍の
池の模様弁天ばかりを図す

同五編

同六編

同七編

同八編

同九編

同十編

日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　二丁目　山城屋佐兵衛
同　小林新兵衛
同　四丁目　須原屋佐助
芝神明前　岡田屋嘉七
同　和泉屋吉兵衛
同　和泉屋市兵衛
横山町壹丁目　出雲寺萬次郎
同　三丁目　和泉屋金右衛門
淺草茅町　須原屋伊八
同　廣小路　淺倉屋久兵衛
馬喰町二丁目　菊屋幸三郎

東都書林

版

120
0
84


國
圖
書
館
藏